

D

履修ガイド

1	学修にあたって	D - 2
2	教育課程	D - 7
3	授業のしくみ	D - 18
4	科目履修	D - 29
5	試験	D - 41
6	成績	D - 47
7	進級と卒業	D - 52
8	学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧	D - 54

1 学修にあたって

1-1 大学で学ぶ

大学は「生涯学び続け、主体的に考える人材」を育成する場であり、学生は、主体的に問題を発見し解決していく能動的な学修へ転換する必要があります。

教えてもらう（＝学習）だけではなく、自らが進んで学問を身に付け修める（＝学修）場が大学です。

1-2 三つのポリシー（三つの方針）について

大学は、「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」、「アドミSSION・ポリシー（入学者受入れの方針）」の三つのポリシーを、一貫性あるものとして策定し、公表しています。入学から卒業まで一貫した方針を用いて大学教育を実践することにより、学生の学修成果を向上させ、学位授与にふさわしい人材を育成し社会に送り出すことを目指しています。

- ディプロマ・ポリシー（DP、学位授与の方針）は、大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針のことです。

ディプロマ・ポリシーは、学生にとって自身が身に付ける資質・能力の目安・指針となり、学修目標となるものです。

- カリキュラム・ポリシー（CP、教育課程編成・実施の方針）は、ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方針を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針のことです。
- アドミSSION・ポリシー（AP、入学者受入れの方針）は、大学、学部・学科等の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果（学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」についてどのような成果を求めるか）を示すものです。

卒業までの見通しを持って学生生活を送るためにも、卒業までに求められる学修成果について定めるディプロマ・ポリシーや、ディプロマ・ポリシーを達成するために定められるカリキュラム・ポリシーについて、しっかりと理解しておく必要があります。

1-2-1 全学共通ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学は、保健医療福祉の分野において高い知識と優れた技能と人間性を併せ備えた社会の要請に応え得る有為な専門職業人を育成することを目的としており、各学科において、人材の育成に関する目標を定めている。その実現のために、総合教育と専門教育に重点を置いた体系的なカリキュラムを構築し、学生に明示する成績評価基準に沿って厳格な成績評価を行う。卒業要件を満たす所定の単位を修得した者に対して、卒業を認定し、学位を授与する。

IUHW-DP1：専門職業人としての社会的責務と倫理観

専門職業人を目指す者として、社会的責務と倫理観を根幹とした幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、一人の人間として豊かな心を身につけることができる。

IUHW-DP2：保健・医療・福祉への貢献とコミュニケーション能力

保健・医療・福祉への貢献のため、専門領域へつながる基礎的な学力を養い、多職種を理解し、専門領域を超えて問題を探究する姿勢とコミュニケーション能力を身につけることができる。

IUHW-DP3：専門的な知識と技能を活用する能力

各学科における目的に沿った専門分野を極め、専門職に必要とされる高度な専門的知識や技術を身につけることができる。

IUHW-DP4：創造的な問題解決力と生涯学習力

様々な状況において備えた高度な専門的知識や技術力を統合して創造的な問題解決に取り組み、自身の更なる発展のため、生涯学習を行うことの重要性を知り、新しい知識を追求（研究活動）する方法を身につけることができる。

本学では、上記の全学ディプロマ・ポリシーを基盤に、各学科の専門性を考慮したディプロマ・ポリシーを学科ごとに設定している。

※各学科のディプロマ・ポリシーは「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」を参照してください。

1-2-2 全学共通カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学は、「人間中心の大学」「社会に開かれた大学」「国際性を目指した大学」という理念のもと、「共に生きる社会」を実現するため、幅広い教養科目を基礎におき、専門分野に関する科目については体系的に構成する、総合教育と専門教育に重点を置いたカリキュラムとなっている。以下に本学のカリキュラム体系を示す。

IUHW-CP1：

幅広い教養や視野、国際センス、思考力を備えた豊かな人間性を養うための総合教育科目

IUHW-CP2：

有益なコミュニケーション能力、関連職種との連携能力および問題解決能力を身につけた専門職業人を育成するための専門基礎科目

IUHW-CP3：

保健医療福祉のプロフェッショナルになるための専門知識および技術、さらに新しい知識を探究する方法を身につけた専門職業人として、社会に貢献できる人材を育成するための専門科目

本学では、上記のカリキュラム体系を基盤に、4つの学士力である「知識、理解」「総合的な学習経験と創造的志向」「汎用的技能」「態度、志向性」を柱とするカリキュラム・ポリシーを学科ごとに設定している。また、各学科では教育目標を学生が達成できるよう、カリキュラム・ポリシーに則り教育課程を編成・実施する。

※各学科のカリキュラム・ポリシーは「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」を参照してください。

1-2-3 全学共通アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本学が入学者に求める要件

本学は、建学の精神である「共に生きる社会の実現」に基づく深い人間理解の上に、高度な知識・技能を修得し、また多職種と連携・協働してその責務を果たし、日々進化する保健・医療・福祉分野の需要に対応できる指導的な人材の育成を実現すべく、学生、社会人、留学生、帰国生徒に対して学修の機会を提供し、このような社会的な需要に応える教育を展開するものである。本学が入学者に求める要件は、以下のとおりである。

1.知識・技能

幅広い教養と視野を備えた豊かな人間性を養うため、積極的に自らを磨いていける人。なお、日々進化する保健・医療・福祉分野における高度化・専門化及び国際化に対応し学びを深めるために、入学までに身につけていることが望ましい内容は以下のとおりである。

【国語】物事を的確に理解し、論理的に思考し表現するために必要な国語の文章力と読解力、言語によるコミュニケーション能力

【地理歴史・公民】多様な文化や歴史、価値観、生活背景を持つ他者を理解するために必要な基礎知識

【数学】論理的かつ数量的に物事を考え表現するために必要な数学的知識と技能

【理科】自然の現象や人体に関する諸問題を科学的に理解するために必要な自然科学（物理、化学、生物）に関する基礎知識

【英語】国際的視点で物事をとらえ、諸外国の人々と交流するために必要な基礎的な英語の理解力とコミュニケーション能力

2.思考力・判断力・表現力

- これからの時代の保健・医療・福祉分野を担っていこうとする情熱を持ち、自ら積極的に学ぶ意欲や課題を発見し解決する能力を有していること。
- 保健・医療・福祉分野における情報科学技術の高度化、専門化及び国際化に対応するため、幅広い関心と好奇心を持って努力を継続できる人であること。
- 学業・社会貢献・技術・文化・芸術・スポーツの分野で優れた活動実績を有し、本学で修得した技術をもとに、将来それぞれの分野で活躍したいという意欲を持つ人であること。

3.主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- 本学の基本理念及び教育理念を十分に理解し、専門職業人として「共に生きる社会」の実現に貢献する強い意志を持つ人であること。
- あらゆる人に対して自らの心を開き、コミュニケーションをとれる人であること。
- 本学での学びを生かし、将来、母国あるいは国際社会において、保健・医療・福祉分野の発展に貢献したいという強い意志を持つ人であること。

1-3 修業年限・在学年限・学位授与

各学部・学科の本学の教育課程を修了するために必要な期間（修業年限）および授与する学位は次のとおりです。

学部	学科	修業年限	学位
福岡保健医療学部	看護学科	4 年	学士（看護学）
	理学療法学科	4 年	学士（理学療法学）
	作業療法学科	4 年	学士（作業療法学）
	医学検査学科	4 年	学士（医学検査学）
福岡薬学部	薬学科	6 年	学士（薬学）

* 休学・停学期間は修業年限に算入しません。

* 福岡保健医療学部においては 8 年を、福岡薬学部においては 12 年をそれぞれ超えて在学することはできません。

* 上記の他、福岡薬学部においては、同一年次における在学年限を 2 年とします。ただし、5 年次及び 6 年次については、通算で 4 年とします。

2 教育課程

国際医療福祉大学には、医療福祉専門職としての専門的な知識や技術の修得にとどまらず、幅広い視野と豊かな人間性を育む教育課程が用意されています。

2-1 教育課程の構成

2-1-1 授業科目の区分

授業科目は、幅広い教養を学ぶ「総合教育科目」と高度な専門知識や技術を学ぶ「専門教育科目」により構成されています。

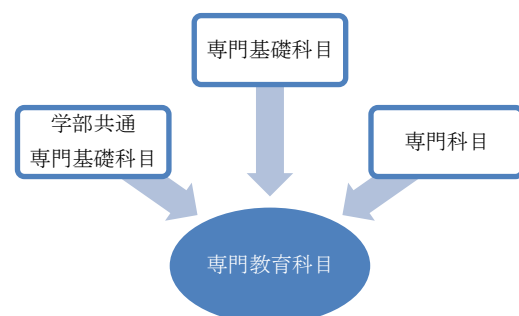
(1) 総合教育科目

- 総合教育科目は、幅広い視野と豊かな人間性を育むとともに、専門教育を受けるうえで必要となる基本的な知識を修得する科目です。科目により、人間系科目、社会系科目、自然・情報系科目、総合系科目、外国語系科目、保健体育系科目の6つの系統に分類されています。
- 4年間（福岡保健医療学部）または6年間（福岡薬学部）にわたり学べる機会が設けられており、原則としてキャンパス共通の開講科目となっています。
- 外国語系科目の英語は実用性を重視した内容になっています。



(2) 専門教育科目

- 専門教育科目は、専門職において必要となる専門的な知識や技術を修得する科目です。科目により専門基礎科目と専門科目に分類されています。
- 専門基礎科目は、専門科目(高度な専門的知識・技術)を学ぶための前提となる知識・技術を学ぶ科目です。医療関連専門職として共通して修得すべき科目である学部共通専門基礎科目と学科独自に開講される専門基礎科目に分かれています。
- 専門科目は、高度な専門的知識・技術を修得するための科目であり、学科独自の開講科目になっています。



2-1-2 必修科目・選択科目・自由科目の区分

授業科目には必ず修得しなければならない科目と学生が自主的に選択できる科目の区分があります。

区分	説明
必修科目	卒業資格を得るために必ず単位を修得しなければならない授業科目です。すべての必修科目の単位を修得しなければ卒業することができません。
選択科目	定められた選択科目の中から、学生が自主的に選択して履修する授業科目です。定められた単位数以上修得しないと卒業することができません。 選択科目には、指定されているいくつかの科目の中から、各学科の要件に従って必ず選択して履修し、単位を修得しなければならない科目があります。
自由科目	選択科目と同様に定められた科目の中から、学生が自主的に選択して履修する科目です。単位を修得することができますが、進級や卒業に必要な単位数には算入されません。

2-1-3 科目の配当年次

授業科目は、科目ごとに開講される学年が定められています。これを配当年次といいます。教育課程は、各授業科目を各学年に配当して編成されます。

配当年次は、「D.履修ガイド」の「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」の授業科目一覧で確認することができます。

2-2 DP-教育目標・カリキュラムマップ／履修系統図

教育課程は、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修目標を達成するために、カリキュラム・ポリシーのもとで体系的かつ組織的に編成されたものです。教育課程を構成する個々の授業科目には、学修目標の達成に向けて担うべき役割があります。

卒業までの見通しを立てながら主体的に学修を進めるためには、個々の授業科目が、教育課程内でどの科目と関連し、学生がどのような資質・能力を獲得するために設定されているか、各授業科目が担う役割を把握しておくことが重要です。

2-2-1 DP-教育目標・カリキュラムマップ

DP-教育目標・カリキュラムマップは、教育課程を構成する個々の各授業科目が、ディプロマ・ポリシーや教育目標とどのように対応しているか、その体系を明確にするためのものです。

各授業科目が教育課程の中で果たす役割、つまり、学生が身に付けることが期待される知識・技能・態度と授業科目との対応関係を確認することができます。

2-2-1 履修系統図

履修系統図は、カリキュラムツリーともよばれ、授業科目相互の関係や、学位取得に至るまでの履修順序（配当年次）など、授業科目の系統性を示したものです。カリキュラムの全体像を俯瞰することができ、履修の計画を立てやすくなります。

各学科の教育課程については、「D. 履修ガイド」の「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」を参照してください。

2-3 科目ナンバリング

2-3-1 科目ナンバリングとは

科目ナンバリングとは、授業科目の学問分野や難易度等を適切な番号や記号をつけて分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を分かりやすく示す仕組みのことです。学生は、ナンバリングコードでその授業科目の学問分野や難易度等の科目の位置付けを把握したうえで履修をすることができます。本学では、9桁のナンバリング構成とし、シラバスでも明示します。

2-3-2 科目ナンバリング体系

本学における科目ナンバリングは下記の構成となります。なお、ナンバリングコードは、毎年度毎に付番するのではなく、原則として授業科目に固定したものとします。

ナンバリングコード

<u>N</u>	<u>P</u>	-	<u>2</u>	<u>G</u>	<u>0</u>	<u>1</u>	-	<u>2</u>	<u>1</u>	<u>A</u>
①	②		③	④	⑤	⑥		⑦	⑧	⑨

各コードの意味

- ① 桁：キャンパス／学部・特別専攻科・大学院研究科・専攻コード
- ② 桁：学科・分野／課程（コース）の固有識別コード
- ③ 桁：科目分類（大分類）
- ④ 桁：科目分類（中分類）
- ⑤⑥桁：科目分類（小分類）整理番号
- ⑦ 桁：必修／選択および難易度－水準コード
- ⑧ 桁：配当年次および使用言語
- ⑨ 桁：授業形態および主要科目コード

2-3-3 ナンバリングコード表

①桁目：キャンパス／学部・特別専攻科・大学院研究科・専攻コード

【アルファベットまたは数字1桁】

コード	キャンパス／学部・特別専攻科	コード	大学院研究科・専攻
O	(大田原) 保健医療学部	1	(大学院) 医療福祉学研究科保健医療学専攻(博士課程)
O	(大田原) 医療福祉学部	2	(大学院) 薬学研究科医療・生命薬学専攻(博士課程)
T	(大田原) 薬学部	3	(大学院) 医学研究科医学専攻(博士課程)
M	(成 田) 医学部	4	(大学院) 医療福祉学研究科保健医療学専攻(修士課程)
N	(成 田) 成田看護学部	5	(大学院) 医療福祉学研究科医療福祉専攻(修士課程)
N	(成 田) 成田保健学部	6	(大学院) 医療福祉学研究科臨床心理学専攻(修士課程)
R	(成 田) 成田薬学部	7	(大学院) 薬科学研究科生命薬科学専攻(修士課程)
N	(成 田) 特別専攻科(介護福祉)	8	(大学院) 医学研究科公衆衛生学専攻専門学位過程(修士課程)
A	(東京赤坂) 赤坂心理・医療福祉マネジメント学部		
D	(小田原) 小田原保健医療学部		
F	(大 川) 福岡保健医療学部		
K	(大 川) 福岡薬学部		

②桁目：学科・分野／課程(コース)の固有識別コード【アルファベット1桁】

コード	学科・分野／課程(コース)	コード	学科・分野／課程(コース)
N	看護学科、看護学分野	F	医療福祉学研究科助産学分野
P	理学療法学科、理学療法学分野	N	医療福祉学研究科修士課程特定行為看護師養成分野
O	作業療法学科、作業療法学分野	N	医療福祉学研究科博士課程高度実践看護師養成課程
S	言語聴覚学科、言語聴覚分野	T	医療福祉学研究科福祉支援工学分野
C	視機能療法学科、視機能療法学分野	X	医療福祉学研究科リハビリテーション学分野
R	放射線・情報科学科、放射線・情報科学分野	E	医療福祉学研究科生殖補助医療胚培養分野
M	医学検査学科、臨床検査学分野	K	医療福祉学研究科医療福祉教育・管理分野
P	薬学科、生命薬学分野・医療薬学分野	D	医療福祉学研究科災害医療分野
H	医療福祉・マネジメント学科(大田原)	G	医療福祉学研究科遺伝カウンセリング分野、医療遺伝学分野
H	医療マネジメント学科(赤坂)	V	医療福祉学研究科医療機器イノベーション分野
Y	心理学科、臨床心理学分野	L	医療福祉学研究科診療情報アナリスト養成分野、診療情報管理・分析学分野
W	介護福祉特別専攻科	Z	医療福祉学研究科先進的ケアネットワーク開発研究分野
A	医学部医学科、医学研究科医学専攻	H	医療福祉学研究科医療福祉学分野
A	医学研究科公衆衛生学専攻	J	医療福祉学研究科医療福祉ジャーナリズム分野
B	医療福祉学研究科医療経営管理分野、医療福祉経営学分野	I	医療福祉学研究科医療通訳・国際医療マネジメント分野

※大学院も含む

③桁：科目分類（大分類）【数字1桁】

コード	科目分類（大分類）
0	総合
1	専門基礎-学部共通
2	専門基礎
3	専門

④桁：科目分類（中分類）【数字またはアルファベット1桁】

区分	コード	科目分類（中分類）
総合区分	1	人間系
	2	社会系
	3	自然・情報系
	4	総合系
	5	外国語系（英語）
	6	外国語系（その他の外国語）
	7	保健系

【大川キャンパス 学科別科目分類コード】

※「専門基礎区分」「専門区分」は学科によって区分が異なる。

看護学科		
区分	コード	科目分類（中分類）
専門 基礎	0	専門基礎学部共通
	1	健康支援と社会保障制度
	2	人体の構造と機能
	3	疾病の成り立ちと回復の促進
	4	関連科目
	5	養護教諭コース専門基礎科目
	6	保健師コース専門基礎科目
専門	A	基礎看護学
	B	地域・在宅看護学
	C	公衆衛生看護学
	D	成人看護学
	E	老年看護学
	F	小児看護学
	G	リプロダクティブヘルス看護学
	H	精神看護学
	I	看護管理学
	J	災害・感染看護学
	K	国際看護学
	L	統合看護分野
	M	公衆衛生看護学
	N	保健師コース専門科目
	O	養護教諭コース専門科目

理学療法学科		
区分	コード	科目分類（中分類）
専門 基礎	0	専門基礎学部共通
	1	基礎医学
	2	臨床医学
	3	関連医学
専門	A	理学療法治療基礎科目
	B	理学療法評価基礎科目
	C	運動系理学療法科目
	D	スポーツ理学療法科目
	E	神経系理学療法科目
	F	内部障害系理学療法科目
	G	キャリアデザイン系科目、理学療法研究科目
	H	国際系科目、多職種連携・理学療法学際領域科目
	I	理学療法演習・実習科目、国家試験対策科目

作業療法学科		
区分	コード	科目分類（中分類）
専門 基礎	0	専門基礎学部共通
	1	基礎医学
	2	臨床医学
	3	関連医学
専門	A	作業療法基礎学群
	B	作業療法評価学群
	C	作業療法適用学群
	D	障害代償学群
	E	作業療法応用学群
	F	臨床教育

医学検査学科		
区分	コード	科目分類（中分類）
専門 基礎	0	専門基礎学部共通
	1	人体の構造と機能
	2	臨床検査の基礎とその疾病との関連
	3	保健医療福祉と臨床検査
	4	医療工学及び医療情報
専門	A	病態学
	B	血液学的検査
	C	病理学的検査
	D	尿・糞便等一般検査（寄生虫学的検査含む）
	E	生化学的検査・免疫学的検査
	F	遺伝子関連・染色体検査
	G	輸血移植学的検査
	H	微生物学的検査
	I	生理機能検査学
	J	臨床検査総合管理学
	K	医療安全管理学
	L	臨地実習
	M	卒業研究
	N	食品化学
	O	胚培養技術学
	P	質量分析技術学
	Q	特別科目
	R	応用臨床検査学
	S	臨床検査特論
		卒業研究／研究指導

薬学科		
区分	コード	科目分類（中分類）
専門 基礎	0	専門基礎学部共通
専門	B	社会と薬学
	C	基礎薬学
	D	医療薬学
	E	衛生薬学
	F	臨床薬学
	G	薬学研究
	H	総合薬学教育
	I	英語教育

⑤⑥桁：科目分類（小分類）整理番号 【数字2桁】

科目を管理するための2桁の整理番号。（01～）

⑦桁：必修／選択および難易度－水準コード【数字1桁】

コード	必修／選択および難易度－水準コード
1	必修：基礎的な内容で入門的な難易度
2	必修：基本発展的な内容で中間的な難易度
3	必修：応用専門的な内容で比較的高度な難易度
4	選択必修（コースにより必修等）：基礎的な内容で入門的な難易度
5	選択必修（コースにより必修等）：基本発展的な内容で中間的な難易度
6	選択必修（コースにより必修等）：応用専門的な内容で比較的高度な難易度
7	選択（又は自由）：基礎的な内容で入門的な難易度
8	選択（又は自由）：基本発展的な内容で中間的な難易度
9	選択（又は自由）：応用専門的な内容で比較的高度な難易度

⑧桁：配当年次および使用言語

【数字またはアルファベット1桁】

コード	必修／選択および難易度－水準コード
1	1年次または1年次以上配当（日本語）
2	2年次または2年次以上配当（日本語）
3	3年次または3年次以上配当（日本語）
4	4年次または4年次以上配当（日本語）
5	5年次または5年次以上配当（日本語）
6	6年次配当（日本語）
7	全学年で修得できる授業科目（日本語）
8	比較的低学年（1～2学年）で修得する授業科目 （英語など外国語科目）
9	比較的高学年（3～4学年）で修得する授業科目 （英語など外国語科目）
0	全学年で修得できる授業科目 （英語など外国語科目）
A	1～2学年の低学年で2年間で修得する 日本語科目
B	2～3学年の中学年で2年間で修得する 日本語科目
C	3～4学年の高学年で2年間で修得する 日本語科目
D	比較的低学年で3年間以上で修得する日本語科目
E	比較的高学年で3年間以上で修得する日本語科目
F	上記以外の日本語科目（飛び飛びの学年設定など）
G	上記以外の外国語科目

⑨桁：授業形態および主要科目コード

【アルファベット1桁】

コード	必修／選択および難易度－水準コード
A	講義形式－主要科目で資格取得と関連した科目
B	講義形式－主要科目、資格取得とは関連しない
C	講義形式－主要科目以外の科目
D	演習形式－主要科目で資格取得と関連した科目
E	演習形式－主要科目、資格取得とは関連しない
F	演習形式－主要科目以外の科目
G	実習形式－主要科目で資格取得と関連した科目
H	実習形式－主要科目、資格取得とは関連しない
I	実習形式－主要科目以外の科目
J	卒業研究/研究指導－主要科目で資格取得と 関連した科目
K	卒業研究/研究指導－主要科目、資格取得と は関連しない
L	卒業研究/研究指導－主要科目以外の科目
M	その他－主要科目で資格取得と関連した科目
N	その他－主要科目、資格取得とは関連しない
S	その他－主要科目以外の科目

2-4 授業計画（シラバス）

教育課程を構成する個々の授業科目には、到達目標が設定されます。この到達目標はディプロマ・ポリシーに掲げる学修目標をさらに具体化する観点で作成されたものです。

教員は、授業の到達目標に学生を導くため、各回の授業を計画します。また、この授業計画を記した文書（シラバス）をあらかじめ明示したうえで授業を行います。

授業計画（シラバス）には、授業の概要、その授業の到達目標、ディプロマ・ポリシーに定められた学修目標と授業科目の関係、授業の進め方、成績評価方法や評価基準、準備学修（事前学修と事後学修）の内容、教員のオフィスアワーなど授業の全体像が記されています。

シラバスは、個々の授業科目について学生と教員との共通理解を図るうえで極めて重要なものであり、授業の行程表として機能するとともに、成績評価の基点となるものです。

2-4-1 シラバスの活用

- 履修登録を行うにあたっては、科目を選択する際の基準としてシラバスを活用してください。
- 科目を履修するにあたっては、常にシラバスを確認するように心がけてください。授業の目的、到達目標、その日の授業内容等を繰り返し確認することにより学修効果を高めることができます。

2-4-2 シラバスの閲覧方法

- 各授業科目のシラバスは年間を通してUNIPAから閲覧できます。UNIPAで公開されているシラバス情報に修正が生じた場合は、教員からの説明にて周知するので確認してください。
- シラバスの閲覧方法については「F.資料集」の「3-1. 「UNIVERSAL PASSPORT」操作説明書」を参照してください。

3 授業のしくみ

3-1 単位

3-1-1 単位と単位制

(1) 単位

- 単位とは、学修の量を示す基準のことであり、大学における授業では、各科目の授業時間と学修量を「単位」という数値で表します。
- 授業科目の単位数は、大学設置基準により、1 単位あたりの学修時間が授業時間および自主学修（予習・復習など）時間を合わせて 45 時間（試験時間は除く）と定められています。
- 各授業科目の単位数は、大学で行う授業とその準備のために学生が行う自主学修時間等を含めて計算されており、授業科目の性質や授業の方法によって、大学で行う授業とその準備のために学生が行う自主学修時間の割合は異なります。

(2) 単位制

単位制とは、所定の授業科目を履修することにより、その授業科目の単位を修得し、在学期間（福岡保健医療学部においては 4 年以上 8 年以内、福岡薬学部においては 6 年以上 12 年以内）のうちに、卒業に必要な単位数を修得する制度のことをいいます。

3-1-2 単位と学修時間数

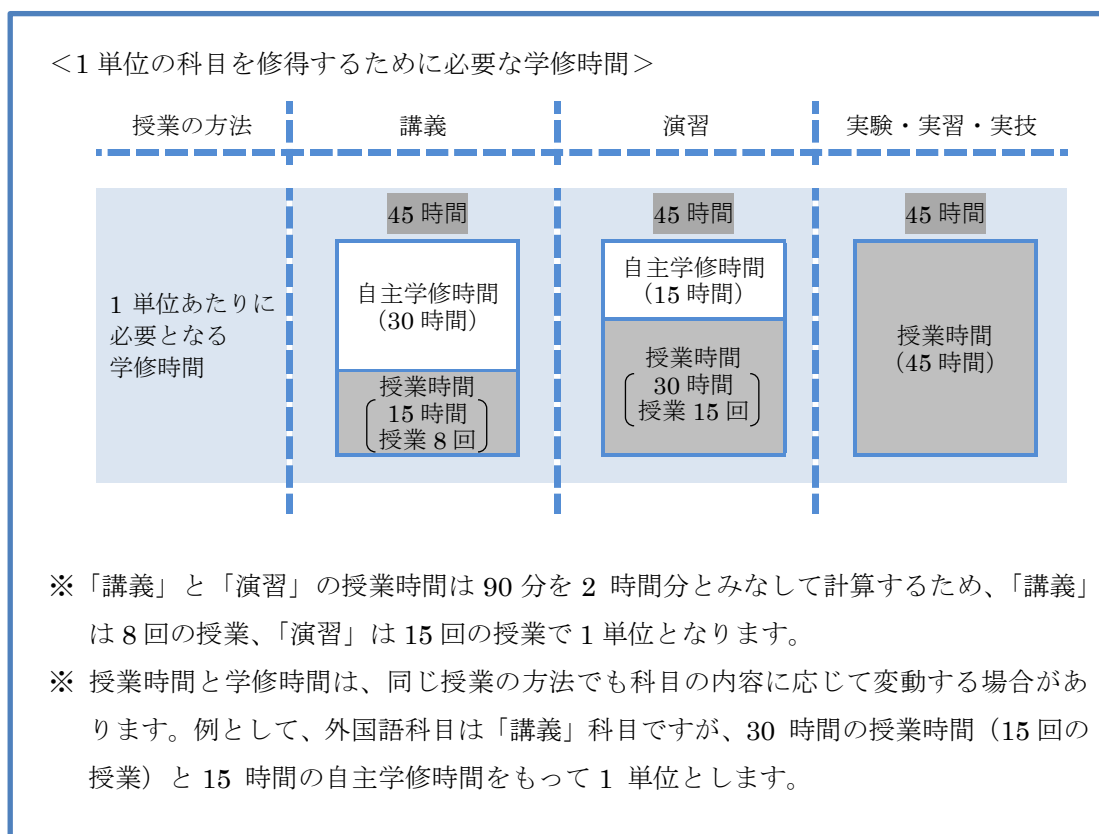
(1) 授業の方法と単位修得に必要な授業時間

本学では原則として次のように授業の方法を区分し、1 単位に必要な授業時間を定めています。

授業の方法	単位修得に必要な授業時間 () は教育上必要があるとき
講義	15 時間 (30 時間) / 1 単位
演習	30 時間 (15 時間) / 1 単位
実験・実習・実技等	45 時間 (30 時間) / 1 単位

(2) 授業の方法と単位修得に必要な学修時間数

単位修得に必要な授業時間と自主学修時間は、授業の方法に応じて次のとおりとなります。



☑ CHECK ☑

たとえば、講義で 2 単位科目の場合は、授業時間 30 時間（15 回の授業）の他に自主学修時間 60 時間が必要です。

(3) 単位と学修時間数の考え方

2 単位の講義科目を修得するために必要な学修時間は以下のとおりです。

- 単位修得に必要な授業時間と自主学修時間は合計 90 時間（45 時間×2 単位）です。
- そのうち授業時間は 30 時間（1 単位 15 時間の講義×2 単位）行われます。
- 単位修得に必要な自主学修時間は 90 時間－30 時間＝60 時間になります。



3-2 授業期間

- 1年を前期・後期の2学期に分け、授業は定められた期間内で行われます。ただし、授業において指定のあった科目および実習については、夏期休暇等の長期休暇期間中や別に定められた期間を利用して開講することがあります。詳細は学科のオリエンテーション等で確認してください。
- 授業日数を確保するため、土曜日や祝日に授業を行う場合やカレンダー上の曜日とは異なる曜日の授業を行う場合があります。授業期間や履修科目の授業日程は、授業週間および定期試験期間一覧（学年暦）、時間割表、各科目のシラバス（授業計画）を確認してください。
- 学年暦はオリエンテーションにて配布、学修ガイドへ掲載します。

3-3 授業時間

本学の授業は 90 分を 1 時限として、1 日 5 時限で構成されています。なお、科目によっては 6 時限に開講される場合もあります。

時限	授業時間帯	時間
1 時限	9 : 00 ~ 10 : 30	[90 分]
2 時限	10 : 40 ~ 12 : 10	[90 分]
昼 休 み		
3 時限	13 : 00 ~ 14 : 30	[90 分]
4 時限	14 : 40 ~ 16 : 10	[90 分]
5 時限	16 : 20 ~ 17 : 50	[90 分]
6 時限	18 : 00 ~ 19 : 30	[90 分]

＊ 授業計画等の都合（休講等）により、授業時間帯を変更して授業を行う場合があります。その場合は UNIPA のメール配信にて連絡します。

3-4 時間割と教室

- 当該年度の各科目の授業時間や使用教室は「時間割表」で確認してください。時間割表はオリエンテーションにて配布、学修ガイドへ掲載します。
- 大学には、授業の方法に合わせて大中小の教室やゼミ室、実験・実習室、演習室などの学修環境が用意されており、科目によって指定された教室で授業が行われます。各科目の開講時間および校舎・教室を間違えないように十分注意してください。
- 開講時間や教室など、時間割表に変更が生じた場合は、別途UNIPAのメール配信にて連絡します。
 - *履修者数や教室設備の都合などにより、開講日時や教室が、年度当初の時間割表やシラバスに記載のものから変更されることがあります。
 - *変更は、学期を通して変更する場合と1回のみ（指定日限り）変更する場合があります。特に各期の授業開始直後は教室を変更することがありますので、UNIPAのメール配信をよく確認するようにしてください。

3-5 授業の方法と種類

3-5-1 授業の方法

授業は、講義、演習、実験、実習（学内実習・臨床実習）、実技など、さまざまな方法で行われます。

授業の方法	説明
講義	教員が学生に対し、学問の方法や成果、また、研究対象などについて、その内容・性質などを解説する授業の形式です。座学ともいいます。
演習	教員の指導のもと、学生が研究・発表・討議を行うことを主眼とした、主に少人数グループに分かれて行われる授業の形式です。
実験・実習・実技	講義や演習形式で学んだ理論や知識、技術を活用し、実践的に学修する授業の形式です。医療福祉系大学では病院や福祉施設に赴いて実践的な臨床を学修する「臨床実習」が行われます。

3-5-2 メディアを利用した授業（ICT 授業）

本学の授業には、教室で教員と対面して受講する通常の授業（対面授業）に加え、ソフトウェア授業やeラーニング授業などがあります。

(1) ソフトウェア授業（本学での呼称：オンライン授業、ICT 授業）

- 教員が講義しているキャンパスや教室とは別のキャンパスや教室で受講する授業です。自宅などで受講する場合があります。
- 同時双方向ソフトウェア「Teams」などを利用して講義をリアルタイムに配信し、学生は教員の映像や音声を視聴できるだけでなく、教員への質問やディスカッションを行うなど双方向のコミュニケーションが可能です。
- 複数のキャンパスで同時に授業を実施することが可能です。
- 対面授業とオンライン授業を組み合わせる、ハイブリッド型授業を行うことがあります。

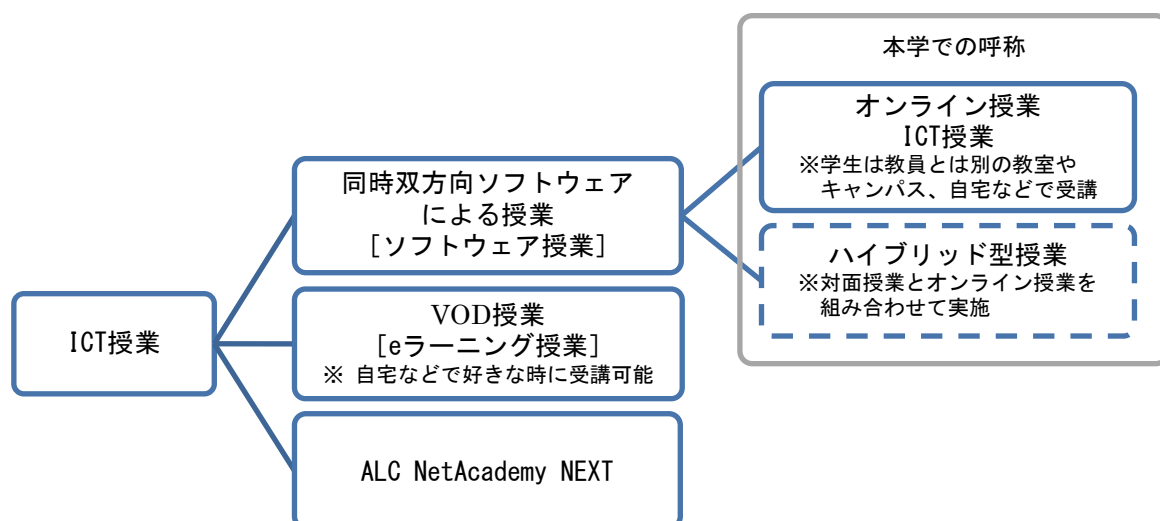
(2) eラーニング授業（本学での呼称：VOD 授業）

- あらかじめ収録した授業映像を、Google Classroom により受講する授業です。インターネットに接続されたパソコンさえあれば、自宅などで好きな時に受講し、繰り返し学修できるため、利便性が高い授業です。

(3) ALC NetAcademy NEXT

- 英語の e-learning 教材「ALC NetAcademy NEXT」で TOEIC (R) L&R テスト対策の学習や英語力をアップさせるためのトレーニングができます。
- 本学の在学生は無料で利用ができます。

URL : <https://nanext.alcnanext.jp/anetn/Student/stlogin/index/iuhw>



3-5-3 VOD 授業

- VOD授業の履修期間は講義科目同様（前期・後期）です。ただし、視聴期間が定められています。視聴期間をGoogle Classroomで確認し、各自計画的に学修を進めてください。
- VOD科目の単位修得条件は以下の通りです。
 - ①視聴期間内にすべての回の視聴を完了すること
 - ②視聴期間内にすべての回の確認問題やコメントを完了すること
 - ③対面授業へ必ず出席すること
 - ④定期試験を受験すること

☒ CHECK ☒

VOD 授業の視聴期間や学修方法等の詳細は、各科目の Google Classroom、学内掲示板で確認してください。

3-6 出席・欠席・遅刻

- 所定の時間割に従って授業には毎時間必ず出席しなければなりません。
- 遅刻については、科目担当教員の判断により、遅刻者の出席を認めないまたは遅刻者を入室させない場合があります。やむを得ない事情により遅刻する場合は、事前または事後速やかに科目担当教員に相談してください。
- 病気等やむを得ない事情以外の欠席・遅刻について生じた不利益は補償しません。また、出席回数が3分の2に満たない科目は定期試験の受験資格やそれに代わるレポート提出等の提出資格を得られず、単位修得もできません。
 - ※科目によっては、試験の受験資格に必要とされる出席時間数がこの基準より引き上げられることもあります。科目担当教員の指示に従ってください。
 - ※原則として大学では、学生個人の出席状況の開示は行いません。出席状況は各自で管理してください。
- 病気等やむを得ない事情により授業を欠席する場合は、学生窓口（教務係）に欠席届を提出してください。ただし、欠席届はあくまで欠席理由を明らかにするものであり、必ずしも公欠が認められるものではありません。詳細は「B.大学生活を送るにあたって」の「4-5.授業の欠席に関する届出」を参照してください。
- 欠席届は欠席した日から7日以内（欠席した日を含め8日以内）に提出してください。理由なく提出が遅れると、欠席届が受理されない場合があります。別途、学科や授業担当教員が提出方法や提出期限を設けている場合はその指示に従ってください。
- 学外における実習の欠席は、所属学科の取り決めに従い欠席連絡を行ってください。
- 定期試験（成績評価に係る試験）の欠席については追試験が認められる場合があります。この場合の手続きについては「D. 履修ガイド」の「5-6. 追試験」を参照してください。
- 不測の事態で授業を欠席する時は、速やかに学科の担当教員および学務課に連絡してください。

3-7 休講と補講

- やむを得ない理由により、授業が行われないことを「休講」といいます。休講になった場合、原則その回の授業を別日に実施する「補講」が行われます。
- 休講や補講はUNIPAのメール配信にて連絡します。
- 授業開始時刻になっても担当教員が入室しないときは、学生窓口（教務係）まで申し出て指示を受けてください（授業開始20分が経過しても授業が始まらない場合、休講とすることがあります）。

3-8 自然災害や交通機関等の影響による休講措置

3-8-1 自然災害等による休講の決定

自然災害などの不測の事態が発生した場合、やむを得ず休講措置をとることがあります。

自然災害等が発生し下記のいずれかに該当する場合、学部長と事務責任者の判断により当該授業は休講とします。

- (1) 授業開始 2 時間前までに、次の状況が発生した場合
 - 午前 6 時 30 分現在で、西鉄柳川駅または JR 長崎線佐賀駅において、西鉄天神大牟田線または JR 長崎線が運休している場合は、午前の授業は休講とし、午前の定期試験は延期する。
- (2) 午前 11 時の時点で同様の場合、午後の授業は休講とし、午後の定期試験は延期する。
- (3) 気象情報、災害等の状況によっては、前日の時点で休講の判断を行うことがあります。

3-8-2 休講措置の解除

休講措置を講じた場合、その後、気象警報が解除されるまたは交通機関の運行が再開され、授業を実施することが適切であると学部長と事務責任者が判断した場合、休講措置を解除し、学部長と事務責任者が適切と判断する時限から授業を実施します。

3-8-3 オンライン授業、ICT 授業の扱い

いずれかのキャンパスが休講措置を講じた場合の遠隔授業の取り扱いについては以下のとおりとします。

- 遠隔授業の送信側キャンパス（教員がいるキャンパス）が休講措置を講じた場合、当該授業は、全キャンパスにおいて休講とする。
- 遠隔授業の受信側キャンパス（教員がいないキャンパス）が休講措置を講じた場合、当該授業は、休講措置をとったキャンパスのみ休講とし、他のキャンパスでは通常通り授業を実施する。

3-8-4 休講措置に関する情報の周知

- 休講措置を決定した場合または休講措置を解除した場合、教務係から、UNIPA のメール配信にて速やかに周知します。
- 原則として、電話での問い合わせには応じられません。
- 適宜、キャンパス内の掲示板および入口等への掲示、校内放送（授業中であっても緊急連絡）により周知します。

3-8-5 休講措置を講じた授業科目等の扱い

休講措置を講じた授業科目については、各授業担当教員の判断により後日補講等を行います。

なお、休講措置を講じない授業科目であっても自然災害の影響や公共交通機関の運休等のやむを得ない事情により授業を欠席した者については各授業担当教員の判断により受講上の不利益にならないよう配慮します。

3-8-6 学外における実習等の扱い

学外実習における実習等の中止については、当該実習の担当教員が当該学科長と協議のうえ、学科長が判断できるものとします。なお、実習先との調整と連絡、学生への連絡は当該学科より行います。また、実習先より中止の連絡があった際は、当該学科へ報告し指示に従ってください。

3-8-7 その他

その他、不測の事態が発生した場合は適宜対応を決定し、UNIPA のメール配信等を通じて連絡します。

☒ CHECK ☒

緊急時の連絡をスマートフォンなどの携帯端末で受け取れるよう、UNIPA のメールの転送設定をしましょう！転送されない場合、早めに相談。

3-9 授業を受講するうえでの留意事項

3-9-1 学生の本分に反する行為の禁止

学修上、次のような行為は学生の本分に反する行為として処分されることがあります。大学生としての自覚を持ち、十分注意してください。

- 授業内試験や小テスト等における不正行為
- レポート課題等を作成する際に他者の成果を盗用するといった不正行為
- 授業において、代返（授業を欠席したにもかかわらず、他の学生に出席確認を依頼することまたは引き受けること）や、出席を取ったあと退室し授業に参加しないこと等、出席確認の際の不正行為
- 受講時のマナーに反する行為
 - ア. 授業中の私語
 - イ. 授業中、担当教員の許可なく入退室を行う行為
 - ウ. 授業中、携帯電話やスマートフォン、タブレット端末、ノートパソコン等の電子機器を授業目的以外の用途で使用する行為
 - ※担当教員の指示や許可がない場合は、これらの機器を講義資料の閲覧等の授業目的以外で使用する行為は禁止です。
 - エ. 授業中、その科目の学修に関係のない行為
 - オ. 授業中、担当教員の許可なく飲食をする行為
-

3-9-2 授業の録音、撮影の禁止、および授業資料や講義動画の取り扱いについて

- 担当教員の許可なく、授業の録画や録音、撮影を行うことを禁止します。やむを得ない事情により、授業の録画や録音、撮影を必要とする場合は教務課まで申し出てください。
- 授業資料は、自身の学修の用途以外の目的で利用してはいけません。また、むやみに他者に提供したり、Web や SNS などインターネット上で閲覧できるようにすることを禁止します。

※著作権法では、教育機関においてその授業の過程における利用に役立てることを目的とする場合には、必要と認められる限度において著作物を複製することが認められています。

- 教員から提供された授業映像・音声についても、自身の学修の用途以外の目的で利用してはいけません。Web や SNS など、インターネット上で閲覧できるようにすることを禁止します。

3-9-3 受講時の合理的配慮

本学では障害等のある学生に対し、授業等における情報保障や施設のバリアフリー化を推進しています。障害等により合理的配慮を必要とする学生は、学生係に相談してください。

3-9-4 学生による授業評価アンケート

(1) 授業評価アンケートの目的

授業評価アンケートは授業の質の向上、延いては大学全体の教育の質の向上を図ることを目的として実施します。なお、目的達成のためには教員各人の教育力の向上も必須であることから、授業評価アンケートの集計結果は各科目担当教員へのフィードバックはもちろんのこと、各科目を所管する学部長・学科長にも情報を提供することとし、授業の質的向上、改善を大学全体として図ります。

(2) 対象科目

開講科目全科目（通年、前期・後期、必修・選択のすべて）

(3) 集計結果の公開

授業評価アンケートの集計結果は学期ごとに UNIPA 掲示板で学生に公開します。

(4) その他

授業評価アンケートは、授業の質的向上、改善の目的にのみ利用するものであり、科目の成績評価には一切影響しません。また、学生個人が特定され不利になるようなこともありませんので、自身の責任で率直な意見を表明してください。

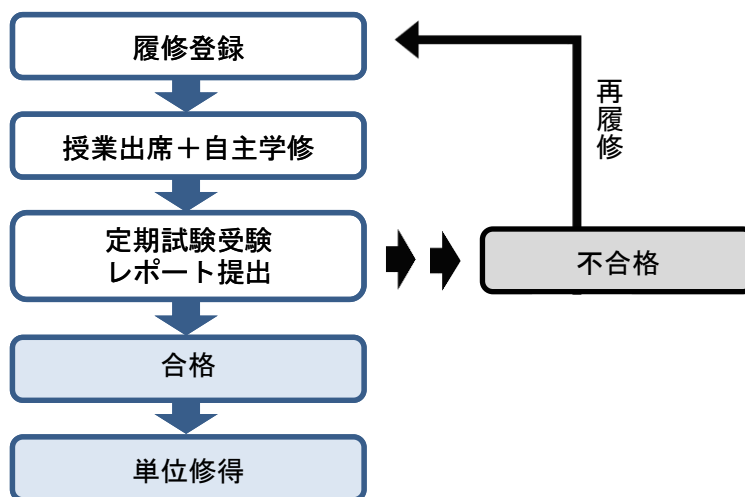
なお、アンケートの自由記載欄に、アンケートの趣旨から逸脱した誹謗中傷および人格や個性（容姿、国籍等）に対する差別的記述は絶対にしてはいけません。真摯に誠意ある記述をするよう心掛けてください。

4 科目履修

4-1 履修方法

4-1-1 履修登録から単位修得までの流れ

大学では、自らの責任において履修計画を立て、履修を希望するすべての科目を所定の履修登録期間に履修登録する必要があります。



4-1-2 履修登録

- 履修を希望するすべての科目は、所定の履修登録期間に履修登録しなければなりません。履修登録は必ず学生自身が責任を持って各自で行ってください。病気等により所定の期間内に履修登録が困難な場合には、必ず事前に教務係まで連絡し指示を受けてください。
- 履修登録期間に登録しなかった科目は、授業に出席し、試験を受けても単位を修得することはできません。
- 履修登録期間には、UNIPA掲示板に履修登録に関する注意事項が掲示されますので、必ずよく確認してください。
- 履修登録はUNIPAにて行います。履修登録の方法は「F.資料集」の「3-1.「UNIVERSAL PASSPORT」操作説明書」を確認してください。
- UNIPAで履修登録をした際、必ずエラーが出ていないかを確認してください。万が一エラーが出ている場合は、指示内容を確認し、エラーを解消してください。
- 履修登録完了後は必ず学生時間割表を印刷し、保管してください。履修登録の証明になります。スクリーンショットや写真は証明として認めません。履修登録期間中は、登録の変更が可能ですが、変更をした際はその都度学生時間割表を印刷し、最新版を手元に保管してください。

4-1-3 履修登録期間

履修登録は、登録・取消できる期間が定められています。期間は年度によって異なります。日程は年度当初に UNIPA 掲示板に掲示しますので、履修登録を怠ることがないように十分注意してください。

<履修登録期間概要>

時期	登録期間区分	登録・取消内容	手続方法
4 月初旬～ 4 月中旬	年間履修登録期間	<u>当該年度に履修するすべての科目を登録する期間。</u> 1 年間の履修計画を立て、登録漏れのないようにすること。	UNIPA
5 月末～ 6 月中旬	前期後半選択科目 履修登録取消期間	4 月に履修登録した科目のうち、 <u>前期後半から開講する選択科目についてのみ、登録を取り消すことができる期間。</u>	学生窓口 (教務係)
9 月下旬～ 10 月初旬	後 期 選 択 科 目 履修登録変更期間	4 月に履修登録した科目のうち、 <u>後期に開講する選択科目の登録を取り消したり、新たに追加したりすることができる期間。</u>	UNIPA
11 月中旬～ 12 月初旬	後期後半選択科目 履修登録取消期間	履修登録した科目のうち、 <u>後期後半から開講する選択科目についてのみ、登録を取り消すことができる期間。</u>	学生窓口 (教務係)

* 履修登録期間は授業期間です。履修登録期間の授業は授業回数に含まれます。選択科目は授業に出席した後で履修を継続するかどうかを決定することができます。一度履修登録した科目の履修を削除する場合は、必ず履修登録期間内に手続きを完了してください。

* 履修登録を変更した場合は、必ず UNIPA から学生時間割表を印刷し、各自保管してください。

4-1-4 進級および卒業に必要な単位

学部・学科ごとに、進級や卒業に必要な単位数や修得する必要がある必修科目、選択科目、進級条件や卒業要件が定められています。履修登録をするにあたって、必ず、「D.履修ガイド」の「7.進級と卒業」や「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」を確認してください。

4-1-5 科目等履修条件

授業科目によっては履修条件があり、条件によっては履修できない場合もあります。履修登録を行う際には十分注意してください。

- 科目には、履修学年の指定があります（配当年次）。指定以外の学年では原則履修できません。
- 同じ名称の授業科目でも、学科により履修可能な曜日時限が異なる場合があります。時間割表やシラバスで対象学科を確認のうえ、履修してください。
- 科目を履修するうえで条件が設定されていることがあります。また、学修の順序性を保つために、各学科において指定した科目の単位を修得しなければ履修できない科目があります。必修科目については「D.履修ガイド」の「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」を、総合教育科目についてはシラバスを確認してください。
- 外国語系科目は、学科により、英語の必修科目と英語以外の外国語系の選択科目から所定の単位数を修得することが卒業の条件となる場合があります。所属する学科の外国語系科目の履修条件を確認してください。
- 外国語系科目の中で、日本語科目は留学生のための履修科目（留学生以外の履修は不可）です。留学生は日本語科目を英語の履修条件に代えて卒業に必要な外国語系科目に加えることができます。

4-1-6 科目の履修者数の制限／クラス分け

- 科目によっては、履修登録できる人数を制限することがあります。制限人数を超えた際は、抽選等の方法によって履修者を決定します。抽選等により履修者を決定する場合、履修登録期間の途中でも履修を締め切ることがあります。詳細はUNIPA掲示板に掲示しますので、確認してください。
- 同じ学科・学年であってもクラス分けなどが行われ、履修する曜日や時限が異なる場合があります（例：英語科目）。UNIPA掲示板で自分がどのクラスになるかを確認し、履修登録に漏れないよう十分注意してください。

4-1-7 年間履修登録単位数の上限（キャップ制）

(1) キャップ制

「キャップ制」とは、学修の質および学修時間の確保のため、年間履修登録単位数の上限を定める制度のことをいいます。

本学では、単位制度を実質化（1単位あたり必要な45時間の学修時間を確保）し、学修すべき授業科目を精選することで、十分な学修時間を確保し、授業内容を深く身に付け、各学期にわたって適切に授業科目を履修することにつなげるためキャップ制を導入しています。

(2) キャップ制による単位数の制限

原則として年間履修登録単位数は **50単位未満**とします。

ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生（直前の学期のGPA値※が3.00以上の場合）については、前期の年間履修登録期間または後期選択科目履修登録変更期間に学生窓口（教務係）に履修単位数上限変更願を提出し、大学が認めた場合、履修単位数の上限を54単位とすることができます。

※GPAについては「D.履修ガイド」の「6.成績」を参照してください。

(3) キャップ制の対象となる単位

キャップ制の対象となる単位は、「卒業要件単位に含まれるすべての単位」とします。

ただし、以下の単位については、キャップ制の上限に含まないものとします。

- 海外保健福祉事情にかかわる授業科目の単位
- 本学が認定した単位（他の大学・短期大学等で修得した授業科目の単位認定や、TOEIC・英検による単位認定、外国人のための日本語テストによる日本語科目の単位認定、放送大学との単位互換協定による単位認定など）
- 再履修科目の単位
- 卒業要件に含まない科目の単位

4-1-8 メディアを利用して行う授業科目の修得単位数の上限

- 同時双方向型授業やVOD授業など、メディアを利用して行う授業の回数が、全開講回数の半数以上となる授業科目を「メディアを利用して行う授業科目」といいます。
- 「メディアを利用して行う授業科目」により修得する単位数は、60単位を超えない範囲で履修するものとします。

4-1-9 再履修

- 単位を修得できなかった科目（不合格の科目）は次学期もしくは次年度、再履修することができます。
- 再履修しようとする場合は、改めて履修登録のうえ、授業に出席し、試験を受けなければなりません。
- 現学年の必修科目と再履修しなくてはならない科目が同時限開講になる場合もあり、次年度もしくは次学期に必ず再履修できるとは限りません。特に必修科目は該当年次で単位を修得するように努めてください。

4-1-10 他学科の授業科目の履修

- 他学科の授業科目を自学科の必修科目や学科から指定された科目と重複しない時限であれば履修することができます。
- 他学科の授業科目を履修しようとする場合は、「他学科科目履修願」を学生窓口（教務係）に提出してください。

4-1-11 授業の聴講

履修登録した科目以外の科目であっても、聴講するに正当な理由として認められ、あらかじめ担当教員の許可を得て聴講することができます。ただし、成績の評価を受けることはできず、単位も修得できません。

☒ CHECK ☒

UNIPAで履修登録をする際に、エラーを解消せずにいると、1年間の履修がすべて登録されず単位が修得できないこともあります。必ず確認してください。

4-1-12 履修計画および履修登録時の留意事項

- 「D.履修ガイド」の「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」をよく確認し、進級や卒業に必要な科目や単位数を確認してください。
- 進級と卒業に必要な単位および学修時間を考慮したうえで、当年度の時間割表を確認し、一年間で履修登録する授業科目について計画を立ててください。
- 必修科目は必ず修得しなければならない科目です。指定された年次（配当年次）に、必ず履修してください。
- 学科で履修指導されている選択科目がある場合、配当年次に履修してください。
- 上級年次に開講されている科目は原則として履修できません。
- 必修科目および学科指定の選択科目が入っていない時間帯に、修得したい選択科目を履修してください。選択科目は当該年度では履修登録ができて、次年度以降履修できるとは限りません。十分検討したうえで履修計画を立て、単位を修得するよう努めてください。
- 科目によっては、「履修のための条件」や「クラス」が定められていることがあります。シラバスや UNIPA 掲示板での指示事項、時間割表を確認してください。また授業中に担当教員から「履修のための条件」について指示される場合は、その内容に従ってください。
- 登録できる上限単位数が決められています。無理のない範囲で履修してください。
- 科目によっては、履修者数を制限することがあります。
- 履修希望者が所定の人数に満たない選択科目は開講しない場合があります。
- 国家試験等の受験資格を得るために必要な科目は、選択科目であっても必ず履修してください。必要な科目については学科のオリエンテーションや「D.履修ガイド」の「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」を参照してください。
- 総合教育科目を選択する場合、6つの系統別に選択すべき単位数が定められている場合があります。「D.履修ガイド」の「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」を参照し選択科目の系統が偏らないように気を付けてください。履修登録科目に迷う場合は、学科の担当教員に相談してください。
- 外国語系科目は、学科により、英語の必修科目と英語以外の外国語系の選択科目から所定の単位数を修得することが卒業の条件となる場合があります。所属する学科の外国語系科目の履修条件を確認してください。
- 外国語系科目の中で、日本語科目は留学生のための履修科目（留学生以外の履修は不可）です。留学生は日本語科目を英語の履修条件に代えて卒業に必要な外国語系科目に加えることができます。
- UNIPA で履修登録をした際、必ずエラーが出ていないかを確認してください。万が一エラーが出ている場合は、指示内容を確認し、エラーを解消してください。
- 履修登録完了後は必ず学生時間割表を印刷し、保管してください。履修登録の証明になります。スクリーンショットや写真は証明として認めません。履修登録期間中は、登録の変更が可能です。変更をした際はその都度学生時間割表を印刷し、最新版を手元に保管してください。

4-2 単位認定制度

4-2-1 本学における単位認定制度の概要

本学に入学前もしくは入学後在籍中に、他大学等で修得した授業科目や大学以外の教育施設における学修等は、一定の基準に基づき、本学において修得した卒業に必要な単位として認定されます。

本学において行われている単位認定制度の種類は以下のとおりです。

- (1) 入学前の既修得単位等の認定
- (2) 「TOEIC または英検」による英語科目の単位認定
- (3) 「外国人のための日本語テスト」による日本語科目の単位認定
- (4) 「放送大学で修得した単位互換協定科目」の単位認定

4-2-2 単位認定で申請対象となる科目と認定単位数の上限

- 本学の科目すべてが申請対象となります。ただし、資格試験受験のための必須科目は、認定校での履修のみを条件としており、他大学での修得単位では認められない場合があります。
- 単位認定の種類により、認定科目、認定基準、認定の上限単位数が異なります。
- 入学前に大学、短期大学等、その他文部科学省で定める学修（大学以外の教育施設等における学修）で修得した単位は、60単位を超えない範囲で認定されます。
- 入学後に他大学、短期大学等、その他文部科学省で定める学修（大学以外の教育施設等における学修）で修得した単位は、30単位を超えない範囲で認定されます。
- 入学前に修得した単位および入学後に修得した単位を合わせて60単位を超えない範囲で認定するものとします。

4-2-3 単位認定制度に関する留意事項

- 単位認定が許可された場合、成績評価は「認定」となります（単位認定科目の成績はGPA※算出の対象には含まれません）。
※GPAについては「D.履修ガイド」の「6 成績」を参照してください。
- 履修登録した科目の認定申請は可能ですが、申請結果より先に本学での成績が確定した場合、不可の場合を除き、本学での成績が優先されます。
- 履修登録科目を認定申請した場合、認定許可を確認するまでの間は必ず申請した授業に出席してください。
- 認定申請の結果、不許可となった科目の再申請はできません。
- 単位認定の審査結果は掲示もしくは個別に本人へ通達します。許可、不許可の理由は回答しません。

4-2-4 単位認定制度の詳細

(1) 入学前の既修得単位等の認定

① 制度概要

本学に入学する前に大学、短期大学、高等専門学校又は大学設置基準第 29 条第 1 項の規定による専修学校において履修した授業科目について修得した単位（本学科目等履修制度により修得した単位を含む）を、60 単位を超えない範囲で、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなし、卒業要件単位に算入することができます。

② 申請手続き

- 既修得単位の認定を受けようとする場合は、所定の提出期間内に次の書類を学生窓口（教務係）に提出し、審査を受けてください。申請書の記載漏れや申請書類の不備は申請無効となります。
 - ア. 「既修得単位認定申請書」（本学所定様式・学生窓口（教務係）で配付）
 - イ. 「成績証明書」（大学、短大等の発行で厳封されたもの）
- 申請期間は UNIPA 掲示板で周知します。所定の提出期限を厳守してください。期限後の提出は一切認めません。
 - 注）申請期間は、前期の年間履修登録期間のみ年 1 回
- 審査結果は個別に本人へ通達します。許可、不許可の理由は回答しません。

③ 注意事項

- 本学の科目すべてが申請対象となります。
- 単位認定申請は原則として申請科目 1 科目に対し認定科目 1 科目で申請してください。既修得単位認定申請書は 1 科目につき 1 枚使用し必要項目をすべて記入してください。
- 他大学等で修得した同一の既修得単位科目を複数の認定希望科目に申請した場合、すべての申請を無効とします。また、認定申請の結果、不許可となった科目の再申請はできません。
- 既修得単位認定は、大学や短期大学等で単位修得した科目の単位数が本学で認定申請しようとする科目（本学の科目で認定申請予定）の単位数以上であり、かつ授業内容が本学の内容と一致し、申請者がその内容について十分に理解しているとみなされたものに限り認められます。
- 申請にあたり、科目内容の理解度は審査の際の大きな判断材料となります。よって、修得した科目の授業概要や内容を自身の表現で申請書に記載する必要があります。記入漏れがあるものや、明らかに要項等を書き写したもの、項目のみを羅列したものなどは認められませんので注意してください。
- 他の大学等で修得した英語科目の単位は単位認定申請をすることができません（本学に過去在籍していた者で、在学中に本学の英語科目を履修し単位を修得していた場合は、再入学後に英語の単位認定申請が認められます）。

(2) 「TOEIC または英検」による英語科目の単位認定

① 制度概要

- TOEIC または英検を受験するための学修は、大学設置基準第 29 条「大学以外の教育施設等における学修（その他文部科学大臣が別に定める学修）」として、獲得した TOEIC の得点または英検の等級により、指定した英語科目の単位を本学における授業科目の履修により修得したものとみなします。
- TOEIC または英検による英語科目の単位認定は在学期間中、合計 2 回、最大 3 単位までの単位認定を申請することが可能です。

② 単位認定基準

- 英語科目の単位認定申請は、単位認定を申請する日以前の 1 年間に取得した TOEIC の得点または英検の等級いずれかに基づき、各学期 1 件のみ申請することが可能です。

【TOEIC の得点による単位認定基準】

マークシート方式による TOEIC® Listening & Reading Test のスコアを単位認定の対象とします（公開テスト、IP テストいずれも可。）。

▼1 回目の申請

基準	単位数
550 点～645 点	1 単位
650 点以上	2 単位

▼2 回目の申請

1 回目の申請基準・スコアよりも高得点である場合に限り、2 回目の申請を行うことが可能です。2 回目の申請による認定単位数は以下のとおりです。

1 回目申請時の基準	⇒	2 回目の申請基準	単位数
550 点～645 点の場合	⇒	650 点以上	1 単位
	⇒	英検準 1 級	1 単位
	⇒	英検 1 級	2 単位
650 点～745 点の場合	⇒	750 点以上	1 単位
	⇒	英検 1 級	1 単位
750 点以上の場合	⇒	1 回目の申請得点より高得点であること	1 単位
	⇒	英検 1 級	1 単位

【英検の等級による単位認定基準】

実用英語技能検定（英検）準 1 級以上を単位認定の対象とします。

▼1 回目の申請

基準	単位数
英検準 1 級	1 単位
英検 1 級	2 単位

▼2 回目の申請

1 回目の申請基準・スコアよりも上位階級を取得した場合に限り、2 回目の申請を行うことが可能です。2 回目の申請による認定単位数は以下のとおりです。

1 回目申請時の基準	⇒	2 回目の申請基準	単位数
英検準 1 級	⇒	英検 1 級	2 単位
	⇒	TOEIC 550 点～645 点	1 単位
	⇒	TOEIC 650 点～745 点	2 単位
英検 1 級	⇒	TOEIC 750 点以上	1 単位

③ 単位認定対象科目

TOEIC または英検による単位認定の対象となる英語科目は次のとおりです。

単位認定を申請する科目は、下記対象科目の中から申請者自身が選択してください。

ただし、申請できる科目は、申請時の学年で履修できる科目のみとなります。

学部	単位認定対象科目
福岡保健医療学部	英会話
福岡薬学部	実用英会話
	資格英語 1 (Primary)
	資格英語 2 (Basic)

④ 申請手続き

- 英語科目の単位認定を受けようとする場合は、所定の提出期間内に次の書類を学生窓口（教務係）に提出し、審査を受けてください。申請書の記載漏れや申請書類の不備は申請無効となります。

ア．英語科目単位認定申請書（学生窓口（教務係）で配布）

イ．TOEIC L&R スコアレポートまたは英検合格証明書（コピー不可、必ず原本提出すること。後日返却）

- 申請期間は UNIPA 掲示板で周知します。所定の提出期限を厳守してください。期限後の提出は一切認めません。

注）申請期間は、前期の年間履修登録期間の年 1 回

- 審査結果は個別に本人へ通達します。

⑤ 注意事項

- 申請可能な回数は前期の年間履修登録期間の年 1 回です。
- 認定可能な単位数は、1 回の申請につき 1～2 単位（合計 3 単位まで）となります。
- 申請日から 1 年以内に取得した得点・等級でなければなりません。
- 1 回目の申請に利用した試験結果を 2 回目の申請にも利用することはできません。

(3) 「外国人のための日本語能力テスト」による日本語科目の単位認定

① 制度概要

- 外国人のための日本語能力テストを受験するための学修は、大学設置基準第 29 条「大学以外の教育施設等における学修（その他文部科学大臣が別に定める学修）」として、獲得した得点により、指定した日本語科目の単位を本学における授業科目の履修により修得したものとみなします。
- 外国人のための日本語能力テストは、次の試験が対象となります。
「日本語能力試験（JLPT）」（注 1）、「J.TEST」（注 2）、「日本語 NAT-TEST」（注 3）、「日本留学試験（EJU）」（注 4）、「BJT ビジネス日本語能力テスト」（注 5）
- 外国人のための日本語能力テストによる日本語科目の単位認定は「日本語能力試験」「J.TEST」「日本語 NAT-TEST」「日本留学試験」「BJT ビジネス日本語能力テスト」それぞれ 1 回のみとし、最大 3 単位までの単位認定を申請することが可能です。

② 単位認定基準および単位認定対象科目

- 外国人のための日本語能力テストによる認定単位数は以下のとおりです。
- 単位認定を申請する日以前の 1 年間に取得した得点を認定対象とします。

日本語試験	スコア	単位数	対象科目
日本語能力試験 N1	120 点以上	1 単位	文法・語彙Ⅲ
J. TEST A-C レベル	< B 級 > 800 点以上	1 単位	文法・語彙Ⅲ
日本語 NAT-TEST 1 級	130 点以上	1 単位	文法・語彙Ⅲ
日本留学試験 < 日本語（記述を除く） >	300 点以上	1 単位	文法・語彙Ⅲ
日本留学試験 < 日本語 記述 >	45 点以上	1 単位	作文・読解Ⅲ
BJT ビジネス日本語能力テスト	J1+（600 点以上）	2 単位	作文・読解Ⅲ、 発表・討論Ⅱ

（注 1）日本語能力試験（独立行政法人国際交流基金、公益財団法人国際教育支援協会 主催）

（注 2）J. TEST（株式会社語文研究社 日本語検定協会・J.TEST 事務局 主催）

（注 3）日本語 NAT-TEST（株式会社専門教育出版 日本語 NAT-TEST 運営委員会 主催）

（注 4）日本留学試験（独立行政法人日本学生支援機構 主催）

（注 5）BJT ビジネス日本語能力テスト（公益財団法人日本漢字能力検定協会 主催）

③ 申請手続き

- 日本語科目の単位の認定を受けようとする場合は、所定の提出期間内に次の書類を学生窓口（教務係）に提出し、審査を受けてください。申請書の記載漏れや申請書類の不備は申請無効となります。
ア. 日本語科目単位認定申請書（学生窓口（教務係）で配布）
イ. 次のいずれかの「外国人のための日本語能力テスト」の成績表（コピー不可、必ず原本提出すること。後日返却）
 - ・ 日本語能力試験の成績表（原本）
 - ・ J.TEST の成績表または認定証（原本）
 - ・ 日本語 NAT-TEST の成績表または合格証（原本）
 - ・ 日本留学試験の成績通知書または日本留学試験成績に関する証明書（原本）
 - ・ BJT ビジネス日本語能力テストの成績表（原本）

- 申請期間はUNIPA掲示板で周知します。所定の提出期限を厳守してください。期限後の提出は一切認めません。

注) 申請期間は、前期の年間履修登録期間の年1回

- 審査結果は個別に本人へ通達します。

(4)「放送大学で修得した単位互換協定科目」の単位認定

① 制度概要

- 本学は放送大学と単位互換協定を結んでいるため、本学入学後に放送大学の授業科目を履修し修得した単位は 30 単位を超えない範囲で、本学の単位として認定することができます。ただし、本学の卒業に必要な単位への算入は 6 単位までとします。
- 本学入学後に他の大学・短大等において履修した授業科目について修得した単位の認定がある場合は、放送大学で修得した単位を合わせて 30 単位を超えない範囲で、本学の単位として認定されます。ただし、放送大学の単位互換制度による履修科目の本学の卒業に必要な単位への算入は、6 単位までとします。
- 放送大学と単位互換協定により単位を認定された科目は、総合教育科目の各区分（人間系科目、社会系科目、自然・情報系科目、総合系科目、外国語系科目）のいずれかに含まれます。

② 単位互換協定科目および放送大学の特別聴講生の申請等について

- 放送大学は、テレビやラジオ、インターネットで授業を行う正規の大学（通信制）であり、18 歳以上であれば学歴等を問わず誰でも受講できます（受講には 1 単位あたり別途受講料が必要です）。
- 放送大学の授業科目を履修するには、所定の期間に特別聴講生として申請する必要があります。申請方法や単位互換協定科目、受講申込期間は UNIPA 掲示板で案内します。なお、年度により日程や単位互換協定科目が異なりますので、履修を希望する場合は教務係で必ず確認してください。
- 放送大学の単位認定試験は放送大学が指定する方法で各自受験してください。

③ 留意事項

- 単位認定対象科目は、本学に入学後、放送大学の単位互換制度により修得した単位のみが対象となります。
- 放送大学の単位互換制度による単位認定は、講座受講の申し込みにより単位認定申請とみなされます。

5 試験

単位を修得するにあたって、各学期末に試験期間を設けて定期試験を実施します。ただし、授業科目によっては、この期間外に行うこともあります。

5-1 試験の種類および形式

本学では主な試験を次のように分類しています。

試験の種類	内容
定期試験	学期末に期間を定めて実施される試験
追試験	やむを得ない理由（天災、公共交通機関の遅れ、病気等）により定期試験を受けられなかった者に実施される試験
再試験	成績が合格点に達しなかった場合に行う試験 原則として実施しない。ただし、必要に応じて科目担当教員等の判断により行う場合がある。

試験は、主に筆記試験、面接(口頭)試験、レポート提出または実技のいずれか、または複数の形式を用いて行われます。試験の形式は授業科目によって異なりますので、詳細はシラバスや教員の指示を確認してください。

5-2 受験資格

- 受験できる科目は、履修登録をしている科目に限られます。
- 出席時間数が授業時間数の3分の2に達しない授業科目については、当該授業科目に係わる定期試験を受験することができません。また、定期試験に代えて、論文や報告書（レポート）の提出が課されている場合は、当該授業科目の定期試験に代わる論文、報告書（レポート）を提出することはできません。
- 実験・実習・実技など、特に出席を重視する科目においては、必要とされる出席時間数が上記とは別に定められることがあるので、科目担当教員の指示に従ってください。
- その期の学生納付金未納者は、定期試験を受験できない場合があります。

5-3 試験の実施時期

- 定期試験は原則として、前期末（7月）と後期末（1月）の一定期間に実施します。
- 前期前半科目や後期前半科目は、定期試験期間とは別に試験を行う場合があります。
- 前後期にわたる通年の授業科目については、前期の終わりに定期試験に準じた試験を行う場合があります。
- 定期試験期間中は原則通常の授業を行いません。
- 科目によっては、授業期間内に試験を行うことがあります。教員の指示または定期試験用クラスルームにて連絡されますのでよく確認してください。

5-4 試験時間

定期試験期間は次の時間帯で試験を実施します。通常の授業時間とは異なりますので注意してください。

時 限	試験時間帯	時 間
1 時限	9 : 30 ～ 10 : 30	[60 分]
2 時限	10 : 50 ～ 11 : 50	[60 分]
3 時限	12 : 10 ～ 13 : 10	[60 分]
4 時限	14 : 00 ～ 15 : 00	[60 分]
5 時限	15 : 20 ～ 16 : 20	[60 分]
6 時限	16 : 40 ～ 17 : 40	[60 分]

5-5 試験に関する注意事項

5-5-1 成績評価に係る試験受験上の注意事項

試験を受験する時は次のことに注意してください。

- 試験は、授業の時と異なる教室、曜日、時限で実施することがあります。定期試験用クラスルームに掲示される試験時間割表を確認してください。
- 試験室では監督者の指示に従ってください。
- 定期試験（定期試験に準じるものも含む。）追試験、再試験において、いかなる理由であっても不正行為や不正行為と受け取られる行為をしてはいけません。不正行為を行った場合、その期に履修登録した科目の成績がすべて不可となります。

- 試験当日は学生証を持参し、机上の指示された側に置いてください。学生証の提示がない場合は受験できません。万が一学生証を忘れた、または当日紛失した場合は、学生窓口にて「仮学生証」(当日限り有効)を発行してください（仮学生証については「B.大学生活を送るにあたって」の「4-3.学生証の再発行と仮学生証の交付」を参照してください）。
- 試験開始後20分までは入室を認めます。なお、試験開始後20分を過ぎた場合は入室を認めず、欠席扱いとします。
- 試験開始後30分から試験終了10分前までは原則として退出を認めます。
- 事前に持ち込みを許可された物以外は、机上に置くことはできません。
- 試験室に入室後は携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ等のウェアラブル端末、音の出る機器等は、アラームを解除してから電源を切り、かばんの中に入れてください。机上にて時計として使用したり、身に着けて受験したりすることはできません。
- 公共交通機関の遅れ等で受験できなかった場合は、追試験の申請をすることができます（申請方法については「D.履修ガイド」の「5-6.追試験」を参照してください）。

5-5-2 レポート課題に関する注意事項

- レポート課題は、授業内やGoogleClassroomで、教員から課題および提出方法について説明されます。また、定期試験用クラスルームで連絡する場合があります。
- 提出方法については教員の指示した方法を厳守してください。指定した方法でない場合、未提出扱いになることがあります。
- レポート課題の提出期限は時間厳守となります。提出期限に遅れた場合、提出することはできません。
- レポート課題提出後に差し替え、本文への加筆等は認められませんので注意してください。

5-5-3 不正行為

- (1) 定期試験において、いかなる理由であっても不正行為や不正行為と受け取られる行為をしてはいけません。不正行為を行った場合、その期に履修登録した科目の成績がすべて不可となります。
- (2) 以下のいずれかの行為を行った場合、不正行為とみなすことがありますので注意してください。
 - 他人の答案を見ること、又は故意に答案を見せること
 - 他人に答案を代筆させること、又は答案を代筆すること
 - 他人と答案を交換すること
 - 他人に代理で受験させること、又は代理で受験すること
 - 持ち込みが許可されていない参考資料等を用いて答案を作成すること
 - 書き込みが許可されていない持ち込み資料に書き込みをして参照すること
 - 持ち込みが許可されたものを、試験時に他の受験者と共有して使用すること

- カンニングペーパー、机上・手掌・所持品等への書き込み、又はこれに類するものを用いて答案を作成すること
- 言語、合図、動作、その他の方法で意思伝達を行い、他人と相談して答案を作成すること
- 携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、パソコン、電子辞書等の情報通信機器を使用すること。又はそれらを身に着けたまま受験したり、指示された以外の場所・状態で保管したりすること（それらの機器を教室に持ち込む場合は必ずかばんの中にしまわなければならない）
- 要回収の試験問題、解答用紙を試験場外に故意に持ち出すこと
- 試験監督者の指示、注意に従わない行為
- レポート等の作成において、他人の著作物・情報を盗用する行為やインターネット上の情報等を参照又は引用したにも関わらず、引用箇所の明示や出典の記載がなく、自らの考えとしてそのまま記載すること
- 他人が作成したレポートを模倣、又は転記し、自らの考えとして記載すること
- 他人に依頼もしくは人工知能（A I）技術その他の情報技術による文書作成機能等により作成されたレポートを、自らが作成したレポートとして提出すること（当該文書作成機能等による作成について、許可された場合を除く）
- 自らが作成したレポートを他人に提供し、盗用する機会を与えること
- 前各号に定める他、定期試験等の公正な実施及び成績評価を阻害すると認められる一切の行為

5-6 追試験

追試験とは、やむを得ない理由により定期試験を受けられなかった者に実施される試験のことをいいます。

5-6-1 追試験の受験資格

疾病、事故、忌引き、公共交通機関の遅れ等、やむを得ない理由により定期試験を欠席した者で、追試験の申請手続きを行い、これを認められた者は追試験を受験することができます。

5-6-2 追試験の申請

(1) 追試験の申請方法

やむを得ない理由によって定期試験を欠席し、追試験を希望する場合は、欠席の理由を証明できるものを添えて学生窓口（教務係）へ「追試験申請書（本学所定用紙、学生窓口（教務係）にて配付）」を提出してください。

「欠席の期間とその理由を証明できるもの」

医師の診断書、遅延証明書、事故証明書、葬儀が行われたことがわかる文書（会葬礼状等）

(2) 追試験の申請期限

やむを得ない理由によって試験を欠席した日から4日以内（欠席した日を含め5日以内）に学生本人が申請してください。やむを得ない事情により所定の期日までに、申請ができない場合は教務係へ連絡してください。

何らかの事情で本人が申請できない場合には代理人の申請も許可します。ただし、代理人の過失等で申請できなかった場合の特別な配慮は行いません。

5-6-3 追試験による試験の成績

追試験を受験した場合の試験の成績評価は 90 点を上限とします。

5-7 再試験

再試験とは、定期試験において成績が合格の基準を満たさなかった場合に行われる試験のことをいいます。

5-7-1 再試験の実施

再試験は、原則として行いません。ただし、必要に応じて科目担当教員等の判断により行うことがあります。

5-7-2 再試験の受験資格

定期試験を受験し合格の基準を満たさなかった者で、科目担当教員等が許可した者に限り再試験を受験することができます。

5-7-3 再試験対象者の発表と申請

- 再試験の実施については、定期試験後、実施科目、試験内容、再試験対象者を定期試験用クラスルームにて連絡します。
- 再試験対象者は、指定された申請期間内に、「再試験願」を証明書発行機で購入のうえ（1科目につき2,000円）学生窓口（教務係）に提出してください。

5-7-4 再試験申請時の注意事項

- 再試験の申請期間を定期試験用クラスルームで必ず確認し、申請漏れがないように注意してください。
- 再試験の方法がレポートまたは面接試験など筆記試験以外の場合も再試験の申し込みを行ってください。申請期間内に申請がない場合は再試験を受験することはできません。
- 何らかの事情で本人が申請できない場合は代理人による申請も許可します。ただし、代理人の過失等で申請ができなかった場合に特別な配慮は行いません。

5-7-5 再試験による試験の成績

- 再試験で合格した場合のその科目の成績評価は「可（60点）」とします。
- 定期試験、再試験ともに不合格の場合は、定期試験の成績評価が最終評価になります。

6 成績

履修登録をしている科目の成績評価は、定期試験や授業期間中の修学状況等の評価により判定されます。成績判定の結果、合格になった場合は単位修得となります。

6-1 成績評価

- (1) 授業科目の成績の評価は、秀、優、良、可、不可の5種とし、秀、優、良、可を合格、不可を不合格とします。
- (2) 成績評価は、次の基準により行います。

評価（和）	評価（英）	評価（総合得点）	合否
秀	S	100点満点法による100点から90点まで	合格
優	A	100点満点法による89点から80点まで	
良	B	100点満点法による79点から70点まで	
可	C	100点満点法による69点から60点まで	
不可	D	100点満点法による59点以下	不合格
認定	R	単位認定科目	—

- (3) 授業科目によっては、論文・報告書（レポート）の提出、平素の修学状況を試験に代える場合や、試験結果に加味する場合があります。

6-2 成績の発表

6-2-1 成績発表の方法

成績発表は UNIPA で行われます。UNIPA による成績照会の方法については「F.資料集」の「3-1.「UNIVERSAL PASSPORT」操作説明書」を参照してください。

6-2-2 成績発表における注意事項

- 成績結果開示期間は定期試験用クラスルームで確認してください。
- 成績結果開示期間以外は閲覧ができませんので、開示期間中に印刷し、各自保管してください。
- 成績結果は、修得科目のすべてが記載されています。次年度の履修計画を立てるための重要な資料となりますので、大切に保管してください。
- 本学は保護者にもUNIPA UserIDを付与していますので、保護者がUNIPAで成績を閲覧することができます。また、本学は保護者宛に出席状況、成績、単位修得状況等の学修の状況を通知する場合があります。

6-3 成績の問い合わせ

- 成績をよく確認し、不明点がある場合は所定の期間内に学生窓口（教務係）に申し出てください。成績の問い合わせ期間については、定期試験用クラスルームにて連絡します。

6-4 GPA 制度（GPA と f-GPA）

本学では、学生の学修意欲を高め、適切な履修指導や厳格な成績評価を推進し、学びの質を向上させることを目的として、「GPA（Grade Point Average）制度」を導入しています。

6-4-1 GPA と f-GPA

(1) GPA（Grade Point Average）とは

履修登録した科目の1単位あたりの成績平均値のことであり、成績基準のひとつです。

【GPA 値の算出方法】

履修科目ごとの5段階評価（秀、優、良、可、不可）を4.00から0までの点数（GP：Grade Point）に置き換え、修得した授業科目の単位数を乗じ、その総和（GPT：Grade Point Total）を履修登録した単位数の合計で除して算出します。

GPA の計算式

$$\text{GPA} = \frac{[(\text{修得した単位数}) \times (\text{その科目で得たGP})] \text{の総和}}{\text{履修登録した総単位数 (不可科目含む)}}$$

(2) GPA の成績評価基準

評価 (和)	評価 (英)	評価 (総合得点)	評価基準	GP
秀	S	100～90 点	学修目標をほぼ完全に達成するか、または傑出した水準に達している。	4.00
優	A	89～80 点	学修目標を相応に達成している。	3.00
良	B	79～70 点	不十分な点があるが、学修目標を相応に達成している。	2.00
可	C	69～60 点	学修目標の最低限は満たしている。	1.00
不可	D	59 点以下	不合格	0
認定	R	—	単位認定科目 (GPA 対象外)	—

注) 本学では、絶対評価＜到達度評価＞により成績評価を行います。

＜到達度評価＞

シラバス記載の「授業の到達目標」に対する達成度を得点化し、科目ごとの総合得点 (0～100 点)により成績評価を行うこと。

(3) f-GPA (functional-GPA) とは

本学では、より厳正な評価方法としてf-GPA値を算出し、表彰等の一基準に用いています。

【f-GPA 値の算出方法】

f-GPA 値は、得点範囲に応じた評価に対応した点数を付与する GPA 値に対し、100 点～60 点まですべての総合得点に対し、0.1 ポイント刻みで GP を付与し、その総和を履修登録した単位数の合計で除し算出します。この算出方法により、GPA 値よりさらに厳正な成績評価が可能となります。

f-GPA の計算式

$$\text{f-GPA} = \frac{[(\text{修得した単位数}) \times (\text{その科目で得たf-GPA用のGP})] \text{の総和}}{\text{履修登録した総単位数 (不可科目含む)}}$$

(4) f-GPA の成績評価基準

評価 (和)	評価 (英)	評価 (総合得点)	f-GPA 用の GP	GP
秀	S	100	4.50	4.00
		99	4.40	
		∫	∫	
		90	3.50	
優	A	89	3.40	3.00
		88	3.30	
		∫	∫	
		80	2.50	
良	B	79	2.40	2.00
		78	2.30	
		∫	∫	
		70	1.50	
可	C	69	1.40	1.00
		68	1.30	
		∫	∫	
		60	0.50	
不可	D	59	0	0
		∫	∫	
		0	0	

※GP < 0.5 の場合は 0 とする。

6-4-2 GPA 制度の適用範囲 (算入される科目)

GPA 制度に算入される対象科目は、当該学期において履修登録したすべての科目（成績が不可になった科目や再試験により修得した科目などを含む）が対象となります。ただし、次の科目は GPA の対象科目から除かれます。

【GPA 制度の非適用範囲科目】

- 本学科目等履修生制度や他大学等で単位修得し、本学が「認定」した科目
- 他大学との単位互換協定により修得し、本学が「認定」した科目
- TOEIC・英検により、本学が「認定」した科目
- 本学が定めた「外国人のための日本語テスト」により、本学が「認定」した科目
- その他、本学が「認定」したすべての科目

6-4-3 GPA 制度の活用

本学では GPA 制度を次のとおり活用します。

- (1) 学生本人が成績、履修状況を把握し、学修を向上させる資料として（使用値：GPA, f-GPA）
 - ・成績開示期間に限り通算および年度学期別の GPA 値、f-GPA 値を UNIPA で確認できます。成績照会方法については「F.資料集」の「3-1.「UNIVERSAL PASSPORT」操作説明書」を確認してください。
- (2) 学生指導を行ううえでの教育、成績、履修指導の指標として（使用値：GPA, f-GPA）
 - ・2 学期連続して GPA が 1.5 未満で、かつ累積 GPA が 1.5 未満の学生に対し、退学勧告を行うことがあります。ただし、退学勧告は、学生が学習意欲を持ち、主体的に学習するよう、繰り返し注意や指導を行ったにもかかわらず成績向上や学業への取り組み姿勢の改善が見られない場合に行うものであり、退学を強要・強制するものではありません。
- (3) 成績優秀賞表彰のための一基準として（使用値：f-GPA）
 - ・国際医療福祉大学年間成績優秀賞の表彰者を選考する一基準として活用します。
- (4) 授業料免除のための一基準として（使用値：f-GPA）
 - ・特待奨学生の奨学金給付停止または給付停止解除の判断基準として活用します。特待奨学生に関する問い合わせ先：学生係
- (5) 奨学金貸与者選考のための一基準として（使用値：GPA, f-GPA）
 - ・各種奨学金のうち、学校推薦が必要な奨学金の学内推薦者を決定する判断基準の一つとして活用します。
- (6) 履修者を選抜する必要がある科目の一基準として（使用値：f-GPA）
 - ・履修者を制限している科目、履修コースの選択について、履修者を選抜するための一基準として活用する場合があります。

6-4-4 GPA 値および f-GPA 値の確認および通知

- (1) GPA 値
成績証明書および学期ごとに UNIPA で公開される成績結果に記載されます。
- (2) f-GPA 値
学期ごとに UNIPA で公開される成績結果に記載されます。

6-4-5 GPA 制度に関する留意事項

- 本学のGPA制度では、履修登録を行ったすべての科目がGPA算出の対象となります。よって、不可となった科目や履修を放棄した科目であってもGPA算出対象となります。再履修により合格になった場合にも、累積された不可は除外されません。
- 学科オリエンテーションでの説明やシラバスを十分に確認し、責任をもって学修計画を立案・履修登録してください。履修登録科目に迷う場合は学科の担当教員に相談してください。
- 所定の履修登録期間内であれば履修科目の取り消しを各自行うことができます。

7 進級と卒業

7-1 進級

大学では、各学科が指定する授業科目の単位を指定する学年に修得する必要があるなど、一定の基準を満たさなければ次学年に進級することができない場合があります。

7-1-1 進級条件

- 各学科が指定した授業科目の単位を指定した学年までに修得しなければ進級することができない場合があります。このような進級するために設定されている科目や年限の指定を「進級条件」といいます。
- 進級条件は、学科および学年により異なります。進級条件は「D.履修ガイド」の「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」を確認してください。

7-1-2 進級者発表

- 学年末に進級判定を行います。結果はUNIPAの学籍情報照会にて発表します。
- 進級者発表の期日は、事前に定期試験用クラスルームで案内します。
- 進級することができなかった場合は留年となり、もう一度同じ学年に在籍し、修得できなかった科目を再履修することになります（再履修については「D.履修ガイド」の「4.科目履修」を参照してください）。
- 進級条件に満たない学生は、保護者宛に進級判定結果を郵送します。

7-2 卒業

7-2-1 卒業要件

大学を卒業するためには、次の要件を満たす必要があります。

- (1) 修業年限を満たすこと。

福岡保健医療学部では4年以上、福岡薬学部では6年以上本学に在学している必要があります。ただし、休学期間は卒業に必要な在学期間には含まれません。

- (2) 所属する学部・学科の指定する卒業要件を満たすこと。

学科ごとに指定された必修科目全てと選択科目を合わせて、卒業に必要な単位を修得しなければなりません。卒業要件は、学科ごとに異なります。卒業要件は「D.履修ガイド」の「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」を確認してください。

7-2-2 卒業要件に関する注意事項

- 学科により、総合教育科目の系統（人間系、社会系、自然・情報系、総合系、外国語系、保健体育系）ごとに卒業に必要な最低単位数が定められている場合があるので注意してください。
- 外国語系科目は、英語の必修科目と英語以外の外国語系の選択科目から所定の単位数を修得することが卒業の条件となることがあります。所属する学科の外国語系科目の履修条件を確認してください。
- 外国語系科目の中で、日本語科目は留学生のための履修科目（留学生以外の履修は不可）です。留学生は日本語科目を英語の履修条件に代えて卒業に必要な外国語系科目に加えることができます。
- 卒業要件に満たない場合は留年となります。

7-2-3 卒業生発表

- 卒業年度末に卒業判定を行います。結果は、UNIPAの学籍情報照会にて発表します。
- 卒業判定結果は開示期間が限られています。期間は事前に定期試験用クラスルームにて案内します。
- 卒業要件に満たない学生は、保護者宛に卒業判定結果を郵送します。

8 学科別ポリシー/卒業要件・進級条件/科目一覧

8-1	看護学科	P.55
8-2	理学療法学科	P.72
8-3	作業療法学科	P.86
8-4	医学検査学科	P.100
8-5	薬学科	P.114
8-6	アセスメント・ポリシー	P.130

8-1 看護学科

8-1-1 教育研究上の目的

福岡保健医療学部教育研究上の目的

看護学、理学療法学、作業療法学、言語聴覚学、医学検査学の各分野について、理論及び応用の研究を行うとともに、それぞれ十分な知識と技能を有し、保健医療の実践を担うことのできる応用能力及び豊かな人間性を備えた人材を育成することを目的とする。

福岡保健医療学部看護学科教育研究上の目的

看護学科は、看護職に必要な知識と技能を修得するとともに、国際的視野を持つ幅広い教養と深い人間理解、倫理観を涵養し、コミュニケーション能力や現場で即応できる判断力を身に付けた看護師、保健師の育成を目的とする。

8-1-2 アドミッションポリシー

1. 求める学生像

本学が入学者に求める要件を十分理解し、看護職者として、豊かな感性、コミュニケーション能力を発揮して人間理解に努めるとともに、国際的感覚を持ち、創造的に課題解決に取り組むための自己研鑽・自己開発の基礎能力と方法を身につけ、自らの健康を大切にしつつ、「共に生きる社会」の実現に貢献することが期待できる人

2. 看護学科の入学者に求める要件

1) 知識・技能

高等学校の教科科目を通して修得した基礎知識と語学力による読解力・文章力・コミュニケーション能力、主として理数系科目により身につけた論理的な思考力、科学的な理解力を有していること。

2) 思考力・判断力・表現力

看護学を学ぶにあたり、相手を思いやり、誠実な人間関係を築くための柔軟な発想力と寛容性、個人・家族・地域社会のつながりや仕組みについて理解し考え行動できる思考力・分析力・判断力及び表現力を有していること。

3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

看護職者として本学の基本理念及び教育理念を理解し、「共に生きる社会」の実現をめざして、多様な人々の生き方・暮らしについて興味を持ち、看護学の学びを通じて国内外の保健・医療・福祉分野の発展に貢献する意志を持ち、主体的に学修を進める意欲と多職種との役割を理解し協働する態度を身につけていること。

8-1-3 ディプロマポリシー

- DP1：看護専門職を目指す者として、社会的責務と倫理観を根幹とした幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、一人の人間として豊かな心を身につけている。
- DP2：看護学の基礎となる学問を理解する専門職業人としての基盤力を養い、関連職種の機能を理解し、看護の対象となる人々の利益のために連携を図ることのできるコミュニケーション力を身につけている。
- DP3：個人、家族、組織、地域社会における人々の健康課題を査定し、基本的な看護実践を行うための知識・技術・態度を身につけている。
- DP4：看護を必要とする様々な事象について論理的かつ多面的に理解し、自らの考えを表現し、行動する資質と能力を身につけている。
- DP5：未知の事象に対し、専門的知識や技術力を統合して創造的に課題解決に取り組むための専門職業人としての基盤力と探究力を身につけている。
- DP6：看護専門職を目指す者として、責務を果たすために、必要な自己研鑽を重ねることの意義を理解し、自己開発の方法を身につけている。

8-1-4 カリキュラムポリシー

- CP1：看護専門職者としての基盤となる社会的責務と倫理観を根幹とした幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、一人の人間として豊かな心を身につけるための科目を設定する。
- CP2：看護学の基礎となる学問を理解する専門職業人としての基盤力を養い、関連職種の機能を理解し、看護の対象となる人々の利益のために連携を図ることのできるコミュニケーション力を身につけるための科目を設定する。
- CP3：個人、家族、組織、地域社会における人々の健康問題を査定し、基本的な看護実践を行うための知識・技術・態度を身につけるための科目、および、看護を必要とする様々な事象について論理的かつ多面的に理解し、自らの考えを表現し、行動する資質と能力を身につけるための科目を設定する。
- CP4：未知の事象に対し、専門的知識や技術力を統合して創造的に課題解決に取り組むための基盤力と探究力を身につけるための科目、および、看護専門職者としての責務を果たすために、必要な自己研鑽を重ねることの意義を理解し、自己開発の方法を身につけるための科目を設定する。

8-1-5 学年ごとの教育目標

<1 年次 (SB0s1) >

- CP1：幅広い教養と豊かな感性を培い、人間を理解するための基盤力、語学力を高める。
- CP2：人間と環境を理解するための諸科学を学び、看護学に応用するための基盤を固める。
- CP3：個人や家族の健康状態を査定し、健康課題を解決するための看護の視点を身につける。
- CP4：自らの学修課題を認識し、自らを動機づけ、主体的な学修活動を行うことができる。

<2 年次 (SB0s2) >

- CP1：豊かな教養を持ち、グローバルな視点で考える力、異文化を理解する力、国際的な感覚を身につける。
- CP2：保健医療福祉関連職の機能や社会の仕組みを理解し、看護に活用するための基盤を固める。
- CP3：必要な看護を査定、計画、実践、評価し改善を行うための基礎的知識・技術・態度を身につける。
- CP4：演習や実習に主体的に取り組むことができ、看護専門職者としての自己研鑽力の基盤ができている。

<3 年次 (SB0s3) >

- CP1：多様性を理解し、自らの考えをもち、論理的かつ建設的に思考する力を身につける。
- CP2：保健医療福祉関連職の機能や社会の仕組みに関する知識を看護に応用することができる。
- CP3：必要な看護を行うための知識・技術・態度を実習で具体的にを行うことができる。
- CP4：看護に関する未知の事象への興味関心を表現でき、探究活動を開始することができる。

<4 年次 (SB0s4) >

- CP1：看護専門職者の社会的責務を認識し、倫理観に基づいた看護を行う基盤を固める。
- CP2：対象を中心とした保健医療福祉を行うための看護の知識・技術・態度、関連職種と連携を図ることのできるコミュニケーション力を身につける。
- CP3：臨複雑な健康課題、組織や地域社会の健康関連課題を論理的かつ多面的に理解し、看護するための知識・技術・態度を身につける。
- CP4：看護研究を行うための基本的な知識・技術・態度を身につける。

8-1-6 卒業要件（看護学科 2025（令和7）年度入学生 留学生以外）

下記に定める卒業に必要な単位数（必修科目すべてと選択科目）を修得しなければなりません。なお、必修科目については、「8-1-9 授業科目一覧」を参照してください。

(1) 卒業に必要な単位数

授業科目の区分			最低単位数		
			必修	選択必修	選択
総合教育科目	人 間 系		2単位	-	総合教育科目 の中から 4単位以上
	社 会 系		5単位	-	
	自 然 ・ 情 報 系		2単位	-	
	総 合 系		1単位	-	
	外 国 語 系		4単位	2単位以上	
	保 健 体 育 系		-	-	
	小 計		14単位	2単位以上	4単位以上
専門教育科目	専門基礎科目	学 部 共 通	11単位	5単位以上	
		学科専門基礎	14単位		
		小 計	25単位		
	専 門 科 目		74単位	5単位以上	
	小 計		99単位		
合 計			113単位	11単位以上	
総 計			124単位以上		

8-1-6 卒業要件（看護学科 2025（令和7）年度入学生 留学生）

下記に定める卒業に必要な単位数（必修科目すべてと選択科目）を修得しなければなりません。なお、必修科目については、「8-1-9 授業科目一覧」を参照してください。

（1）卒業に必要な単位数

授業科目の区分			最低単位数		
			必修	選択必修	選択
総合教育科目	人 間 系		2単位	-	総合教育科目 の中から 2単位以上
	社 会 系		5単位	-	
	自 然 ・ 情 報 系		2単位	-	
	総 合 系		1単位	-	
	外 国 語 系		5単位 (日本語)	5単位 (日本語)	
	保 健 体 育 系		-	-	
	小 計		15単位	7単位以上	
専門教育科目	専門基礎科目	学 部 共 通	11単位	5単位以上	
		学科専門基礎	14単位		
		小 計	25単位		
	専 門 科 目		74単位	5単位以上	
	小 計		99単位		
合 計			114単位	12単位以上	
総 計			126単位以上		

8-1-7 進級条件

(1) 1 学年から 2 学年への進級条件

①1 年次の以下の実習科目の単位をすべて修得していること。

「基礎看護学実習Ⅰ(1 年後期)」「地域・在宅看護論実習Ⅰ(1 年前期)」

「小児看護学実習Ⅰ(1 年前期)」

(2) 2 学年から 3 学年への進級条件

①総合教育科目のうち、2 年次までの必修科目 14 単位および選択必修・選択科目を含め 20 単位以上を修得していること。

②専門基礎科目のうち、2 年次までの必修科目 24 単位をすべて修得していること。

③専門科目(専門分野および公衆衛生看護学)のうち、2 年次までの必修科目 38 単位をすべて修得していること。

(3) 3 学年から 4 学年への進級条件

①3 年次の必修科目のうち、5 単位以上の未履修は原級に留まる(進級はできない)。

②3 年次の以下の実習科目の単位をすべて修得していること。

「地域・在宅看護論実習Ⅱ(3 年後期)」「成人・老年看護学実習Ⅰ(3 年後期)」

「成人・老年看護学実習Ⅱ(3 年後期)」「成人・老年看護学実習Ⅲ(3 年後期)」

「小児看護学実習Ⅱ(3 年後期)」「リプロダクティブヘルス看護学実習Ⅰ(3 年後期)」

「リプロダクティブヘルス看護学実習Ⅱ(3 年後期)」「精神看護学実習(3 年後期)」

8-1-8-1 科目履修条件

(1) 総合教育科目に関する選択科目の履修条件

①外国語系科目に関する選択科目の履修条件(留学生を除く)

外国語系科目の中から2単位以上を2年次までに履修すること。

②総合教育科目に関する選択科目の履修条件(全学生対象)

高校で「生物基礎」もしくは「生物」を履修していない者は、「総合教育科目:自然・情報系」の授業科目である「生物学(2単位・30時間)」を必ず履修すること。

(2) 領域別臨地実習(3年後期～4年後期)

該当する実習において、それぞれ定める科目の単位をすべて修得していること。

①「成人・老年看護学実習Ⅰ(3年後期)」「成人・老年看護学実習Ⅱ(3年後期)」

「成人・老年看護学実習Ⅲ(3年後期)」を履修する者は、「成人看護学概論(2年前期)」

「成人看護学方法論Ⅰ(3年前期)」 「成人看護学方法論Ⅱ(2年後期)」

「老年看護学概論(2年前期)」 「老年看護学方法論(2年後期)」 「老年看護学演習(3年前期)」

のすべての単位を修得していること。

②「小児看護学実習Ⅱ(3年後期)」を履修する者は、「小児看護学実習Ⅰ(1年前期)」

「小児看護学概論(1年後期)」 「小児看護学方法論(2年前期)」 「小児看護学演習(3年前期)」

のすべての単位を修得していること。

③「リプロダクティブヘルス看護学実習Ⅰ(3年後期)」「リプロダクティブヘルス看護学

実習Ⅱ(3年後期)」を履修する者は、「リプロダクティブヘルス看護学概論(2年前期)」

「リプロダクティブヘルス看護学方法論(2年後期)」 「リプロダクティブヘルス看護学演

習(3年前期)」のすべての単位を修得していること。

④「精神看護学実習(3年後期)」を履修する者は、「精神看護学概論(2年後期)」

「精神看護学方法論(3年前期)」 「精神看護学演習(3年前期)」のすべての単位を修得

していること。

⑤「地域・在宅看護論実習Ⅱ(3年後期)」を履修する者は、「地域・在宅看護論実習Ⅰ(1年

前期)」 「地域・在宅看護論Ⅰ(1年前期)」 「地域・在宅看護論Ⅱ(2年後期)」 「地域・在宅

看護方法論(3年前期)」 「地域・在宅看護論演習(3年前期)」のすべての単位を修得してい

ること。

(3) 公衆衛生看護学実習Ⅰ(4年前期)・公衆衛生看護学実習Ⅱ(4年前期)

「公衆衛生看護学実習Ⅰ(4年前期)」 「公衆衛生看護学実習Ⅱ(4年前期)」を履修する

者は、「保健師履修コース」の学生であること。

くわえて、「産業保健(2年前期)」 「学校保健(2年前期)」 「健康教育・保健指導論(2年

後期)」 「疫学(3年前期)」 「公衆衛生看護活動対象論Ⅰ(3年前期)」 「公衆衛生看護活動

対象論Ⅱ(3年前期)」のすべての単位を修得していること。 かつ、「公衆衛生看護活動

方法論Ⅰ(4年前期)」 「公衆衛生看護活動方法論Ⅱ(4年前期)」 「公衆衛生看護活動展

開論(4年前期)」の単位を修得見込みであること。

(4) 留学生の日本語履修について

科目名	配当年次	単位			時間数
		必修	選択	自由	
作文・読解Ⅰ（入門）	1 2 3 4		1		
作文・読解Ⅱ（応用）	1	1			
作文・読解Ⅲ（完成）	1 2 3 4		1		
文法・語彙Ⅰ（入門）	1 2 3 4		1		
文法・語彙Ⅱ（応用）	1	1			
文法・語彙Ⅲ（完成）	1 2 3 4		1		
発表・討論Ⅰ（応用）	1	1			
発表・討論Ⅱ（完成）	1 2 3 4		1		
医療福祉専門漢字	1	1			
医療福祉専門語彙	1	1			
日本語基礎Ⅰ（初級）	1 2 3 4			3	
日本語基礎Ⅱ（初級）	1 2 3 4			3	

(5) 日本語科目の区分

必修科目＝必ず履修する科目（留学生全員、卒業要件に必要な単位）

選択科目＝必要に応じて履修する科目

自由科目＝必要に応じて履修する科目（単位の修得は可能だが、修得した単位は卒業要件に含まない）

(6) 履修条件

外国語の履修については、原則として日本語科目を10単位修得すること。

①10単位の内2単位までは日本語科目以外の外国語科目（母国語としない外国語に限る）をもって代えることができる。

②「外国人のための日本語能力テスト」の得点により、最大3単位まで認定することができる。

8-1-8-2 保健師履修コース（2025（令和7）年度入学生）

保健師を希望する者は、選抜試験を経て3年次より保健師履修コースに在籍することができる。

（1）保健師履修コースの決定

- ①保健師履修コースは、2年次末に選抜試験を行い、履修選択者を決定する。
- ②保健師履修コースを希望する者は1年次より保健師履修コースの選択必修科目を履修しておくことを推奨する。

（2）保健師履修コースにおける授業区分と単位数

授業科目の区分			最低単位数				備考
			必修	選択必修	選択	保健師 履修コース 選択必修	
総合教育科目	人 間 系		2単位	-	-	-	※保健師履修コース選択必修： 社会系 「日本国憲法」 自然・情報系 「情報処理Ⅱ（応用）」 保健体育系 「健康科学理論」 「健康科学実践」
	社 会 系		5単位	-	-	2単位※	
	自 然 ・ 情 報 系		2単位	-	-	1単位※	
	総 合 系		1単位	-	-	-	
	外 国 語 系		4単位	2単位以上	-	-	
	保 健 体 育 系		-	-	-	2単位※	
	小 計		14単位	2単位以上	-	5単位	
専門教育科目	専門基礎科目	学 部 共 通	11単位	-	-	-	※保健師履修コース選択必修： 「保健医療福祉行政論」 「疫学」 「公衆衛生看護活動対象論Ⅰ」 「公衆衛生看護活動対象論Ⅱ」 「公衆衛生看護活動方法論Ⅰ」 「公衆衛生看護活動方法論Ⅱ」 「公衆衛生看護活動展開論」 「産業保健」 「学校保健」 「健康教育・保健指導論」 「公衆衛生看護管理論」 「公衆衛生看護学実習Ⅰ」 「公衆衛生看護学実習Ⅱ」
		学科専門基礎	14単位	-	-	3単位	
		小 計	25単位	-	-	3単位	
	専 門 科 目		74単位	-	-	18単位※	
	小 計		99単位	2単位以上	-	26単位	
保健師国家試験受験資格 を得るための単位数		合計	113単位	2単位以上	-	26単位	
		総計	141単位以上				
卒業要件		合計	113単位	11単位以上			
		総計	124単位以上				

(3) 保健師履修コースを希望する学生の注意点

- ①総合教育科目 21 単位以上の履修に際して、選択科目は学科共通の選択必修科目である外国語系科目 2 単位に比べ、養護教諭二種免許状申請に必要な選択必修科目 5 単位(社会系:「日本国憲法 (2 単位・30 時間)」保健体育系:「健康科学理論 (1 単位・15 時間)」「健康科学実践(1 単位・30 時間)」自然・情報科学系:「情報処理Ⅰ (1 単位・30 時間)」「情報処理Ⅱ (1 単位・30 時間)」)の修得が必要となるため、保健師履修コースに必要な科目と単位数、開講学年、開講時期を確認すること。
- ②専門教育科目のうち、公衆衛生看護学について選択必修科目 21 単位(「保健医療福祉行政論 (2 単位・30 時間)」「疫学(2 単位・30 時間)」「公衆衛生看護活動対象論Ⅰ (2 単位・30 時間)」「公衆衛生看護活動対象論Ⅱ (2 単位・30 時間)」「公衆衛生看護活動方法論Ⅰ (1 単位・30 時間)」「公衆衛生看護活動方法論Ⅱ (1 単位・30 時間)」「公衆衛生看護活動展開論 (2 単位・30 時間)」「産業保健(1 単位 15 時間)」「学校保健(1 単位 15 時間)」「健康教育・保健指導論 (2 単位 30 時間)」「公衆衛生看護管理論 (1 単位 15 時間)」「公衆衛生看護学実習Ⅰ (4 単位 180 時間)」「公衆衛生看護学実習Ⅱ (1 単位 45 時間)」)の修得が必要となるため、保健師履修コースに必要な科目と単位数、開講学年、開講時期を確認すること。

(4) 卒業要件と看護師国家試験受験資格および保健師国家試験受験資格

- ①看護学科の卒業要件は、124 単位以上の単位修得を必要とし、これをもって看護師国家試験受験資格を満たす。
- ②保健師履修コースの選択者は、141 単位以上の単位修得を必要とし、これをもって看護師国家試験受験資格と保健師国家試験受験資格を満たす。
- ③保健師履修コースの選択者のうち、141 単位以上の単位修得ができない不測の事態が発生しても、看護学科の卒業要件となる 124 単位以上の単位修得をしていれば、看護師国家試験受験資格および卒業要件は満たす。

(5) 養護教諭二種免許状

保健師の資格を有し、免許状の修得に必要な単位を修得した方であれば各自治体の教育委員会に必要書類を提出することにより申請が可能。(申請の場合、大学より証明書が必要。)

8-1-9 授業科目一覧（総合教育科目：看護学科）

授業科目の 区分	科目名	配当年次	単位数		時間数	保健師	①	②	③	④	⑤⑥	⑦	⑧	⑨	備考	履修 登録	確認
			必修	選択													
総合教育科目	人間系	文学論	1 2 3 4	2	30		F	N	—	0	1	01	—	7	7	C	
		死生学—死を通して生を考える	1 2 3 4	2	30		F	N	—	0	1	16	—	7	7	C	
		演劇論	1 2 3 4	1	15		F	N	—	0	1	02	—	7	7	C	
		心理学	1 2 3 4	2	30		F	N	—	0	1	04	—	7	7	C	
		哲学	1 2 3 4	2	30		F	N	—	0	1	05	—	7	7	C	
		コミュニケーション概論	1	2	30		F	N	—	0	1	06	—	1	1	A	
		雑談と傾聴～話す力と聴く力～	1 2 3 4	2	30		F	N	—	0	1	07	—	7	7	C	
		人間学	1 2 3 4	2	30		F	N	—	0	1	08	—	7	7	C	
		倫理学	1 2 3 4	2	30		F	N	—	0	1	10	—	7	7	C	
		宗教学	1 2 3 4	2	30		F	N	—	0	1	11	—	7	7	C	
		日本近現代史	1 2 3 4	2	30		F	N	—	0	1	12	—	7	7	C	
		文化人類学	1 2 3 4	2	30		F	N	—	0	1	13	—	7	7	C	
		教育学	1 2 3 4	2	30		F	N	—	0	1	14	—	7	7	C	
	社会科学系	経済の仕組み	1 2 3 4	2	30		F	N	—	0	2	18	—	7	7	C	
		海外保健福祉事情Ⅰ（講義）	2 3 4	1	15		F	N	—	0	2	26	—	1	2	B	2年次履修を 原則とする
		海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	2 3 4	1	45		F	N	—	0	2	27	—	1	2	H	
		社会学	1 2 3 4	2	30		F	N	—	0	2	06	—	7	7	C	
		国際関係論	1 2 3 4	2	30		F	N	—	0	2	23	—	7	7	C	
		ボランティア論	1 2 3 4	2	30		F	N	—	0	2	30	—	7	7	C	
		国際医療福祉論	1 2 3 4	2	30		F	N	—	0	2	24	—	7	7	C	履修推薦科目
		法学	1 2 3 4	2	30		F	N	—	0	2	01	—	7	7	C	
		日本国憲法	1 2 3 4	2	30	●	F	N	—	0	2	02	—	7	7	C	
		我が国の社会福祉・医療保障政策の知識	1	1	30		F	N	—	0	2	28	—	1	1	D	
		手話入門	1 2 3 4	2	30		F	N	—	0	2	32	—	7	7	C	
		医療関連法規	1	2	30		F	N	—	0	2	04	—	1	1	A	
	自然・情報系	物理学	1 2 3 4	2	30		F	N	—	0	3	06	—	7	7	C	
		情報処理Ⅰ（基礎）	1	1	30		F	N	—	0	3	16	—	1	1	D	
		情報処理Ⅱ（応用）	1 2 3 4	1	30	●	F	N	—	0	3	17	—	8	7	D	
		医療必修—医療の倫理とプロ意識・医療情報—	1	1	30		F	N	—	0	3	23	—	1	1	D	
		医学／医療史	1 2 3 4	2	30		F	N	—	0	3	24	—	7	7	C	
		生物学	1 2 3 4	2	30		F	N	—	0	3	12	—	7	7	C	
		化学	1 2 3 4	2	30		F	N	—	0	3	09	—	7	7	C	
		人間工学	1 2 3 4	2	30		F	N	—	0	3	25	—	7	7	C	
	総合系	大学入門講座—医療人・社会人として成長するために—	1	1	30		F	N	—	0	4	01	—	1	1	E	
		メディカルマナー入門	1 2 3 4	2	30		F	N	—	0	4	04	—	7	7	C	
		医療福祉教養講義	1 2 3 4	1	15		F	N	—	0	4	03	—	7	7	C	
		郷土論—大川学	1 2 3 4	1	15		F	N	—	0	4	02	—	7	7	C	
	外国語系	英語講読1 (Primary)	1	1	30		F	N	—	0	5	01	—	1	1	A	
		英語講読2 (Basic)	1	1	30		F	N	—	0	5	02	—	1	1	A	
		英語CALL1 (Primary)	1	1	30		F	N	—	0	5	05	—	1	1	A	
		英語CALL2 (Basic)	1	1	30		F	N	—	0	5	06	—	1	1	A	
		英会話	1 2 3 4	1	30		F	N	—	0	5	14	—	7	8	F	
		実用英会話	2 3 4	1	30		F	N	—	0	5	15	—	8	2	F	
		中国語	1 2 3 4	2	60		F	N	—	0	6	12	—	7	7	C	
		実用中国語会話	2 3 4	1	30		F	N	—	0	6	15	—	8	2	F	
		韓国語	1 2 3 4	2	60		F	N	—	0	6	16	—	7	7	C	
		実用韓国語会話	2 3 4	1	30		F	N	—	0	6	20	—	8	2	F	
		資格英語1 (Primary)	1 2 3 4	1	30		F	N	—	0	5	29	—	7	7	C	
		資格英語2 (Basic)	1 2 3 4	1	30		F	N	—	0	5	30	—	7	7	C	
	保健体系系	健康科学理論	1 2 3 4	1	15	●	F	N	—	0	7	01	—	7	7	A	
		健康科学実践	1 2 3 4	1	30	●	F	N	—	0	7	02	—	7	7	E	

●は保健師履修コースに必要な選択科目を示す

8-1-9 授業科目一覧（専門教育科目：看護学科）

授業科目の 区分	科目名	配当年次	単位数		時間数	保健師	①	②	③	④	⑤⑥	⑦	⑧	⑨	備考	履修 登録	確認
			必修	選択													
専門教育科目	公衆衛生学	1	2		30		F	N	—	1	0	01	—	1	1	A	
	救急医学	2 3 4		1	15		F	N	—	1	0	02	—	8	2	B	
	微生物と病気	1	2		30		F	N	—	1	0	03	—	1	1	A	
	リハビリテーション概論	3 4		2	30		F	N	—	1	0	04	—	8	3	B	
	保健医療福祉制度論	1	2		30		F	N	—	1	0	09	—	1	1	A	
	ケアマネジメント論	2 3 4		1	15		F	N	—	1	0	06	—	8	2	B	
	ケースワーク論	1 2 3 4		1	15		F	N	—	1	0	07	—	7	7	B	
	医療管理学	1 2 3 4		2	30		F	N	—	1	0	08	—	7	7	B	
	社会福祉学	1 2 3 4		2	30		F	N	—	1	0	10	—	7	7	B	
	リスクマネジメント論	2 3 4		2	30		F	N	—	1	0	16	—	7	2	C	
	臨床心理学概論	2 3 4		2	30		F	N	—	1	0	11	—	7	2	C	
	医療情報学概論	2 3 4		2	30		F	N	—	1	0	12	—	7	2	C	
	国際医療保健学	1 2 3 4		1	15		F	N	—	1	0	20	—	7	7	C	
	関連職種連携論	2	2		30		F	N	—	1	0	05	—	1	2	A	
	関連職種連携ワーク	3	1		30		F	N	—	1	0	14	—	2	3	E	
	関連職種連携実習	4		1	45		F	N	—	1	0	15	—	8	4	H	
	生化学	1 2 3 4		2	30		F	N	—	2	1	02	—	7	7	B	
	保健医療福祉行政論	2		1	15	●	F	N	—	2	6	01	—	8	2	A	
	保健統計学	2	2		30		F	N	—	2	1	01	—	1	2	A	
	疫学	3		2	30	●	F	N	—	2	6	02	—	7	3	A	
	からだの構造	1	2		30		F	N	—	2	2	01	—	1	1	A	
	からだの機能	1	2		30		F	N	—	2	2	02	—	1	1	A	
	臨床薬理学	2	2		30		F	N	—	2	3	01	—	1	2	A	
	栄養と健康	2	1		15		F	N	—	2	3	02	—	1	2	A	
	遺伝と医療	1	1		15		F	N	—	2	3	03	—	1	1	B	
	放射線科学概論	1 2 3 4		1	15		F	N	—	2	3	04	—	7	1	B	
	疾病の成り立ち(病理学)	1	1		30		F	N	—	2	3	05	—	1	7	A	
	疾病・治療Ⅰ(呼吸・循環・腎泌尿器系)	1	1		30		F	N	—	2	3	06	—	2	1	A	
	疾病・治療Ⅱ(消化・代謝・内分泌系)	1	1		30		F	N	—	2	3	07	—	2	1	A	
	疾病・治療Ⅲ(免疫・脳神経・運動器・精神系)	2	1		30		F	N	—	2	3	08	—	2	2	A	
	疾病・治療Ⅳ(感覚器・口腔・皮膚系)	2	1		30		F	N	—	2	3	09	—	2	2	A	
	疾病・治療Ⅴ(リプロダクティブヘルス、小児)	2	1		30		F	N	—	2	3	10	—	2	2	A	
	看護学概論	1	2		30		F	N	—	3	A	01	—	1	1	A	
	看護理論	1	1		15		F	N	—	3	A	02	—	1	1	A	
	看護コミュニケーション	1	1		15		F	N	—	3	A	03	—	1	1	A	
	看護技術Ⅰ(共通基本技術)	1	1		30		F	N	—	3	A	04	—	1	1	D	
	看護技術Ⅱ(日常生活援助技術)	1	2		60		F	N	—	3	A	05	—	1	1	D	
	看護技術Ⅲ(医療支援技術)	2	1		30		F	N	—	3	A	06	—	1	2	D	
	看護過程展開論	2	1		30		F	N	—	3	A	07	—	1	2	A	
	フィジカルアセスメントⅠ(概論・基本技術・問診・呼吸器系・循環器系)	1	1		30		F	N	—	3	A	08	—	1	1	D	
	フィジカルアセスメントⅡ(運動器系・消化器系・乳房・中枢神経系・感覚器系)	2	1		30		F	N	—	3	A	09	—	2	2	D	
	基礎看護学実習Ⅰ(生活支援)	1	1		45		F	N	—	3	A	10	—	1	1	G	
	基礎看護学実習Ⅱ(看護過程)	2	2		90		F	N	—	3	A	11	—	1	2	G	
	地域・在宅看護Ⅰ(地域での暮らしと健康)	1	1		15		F	N	—	3	B	01	—	1	1	A	
	地域・在宅看護Ⅱ(地域での療養支援)	2	2		30		F	N	—	3	B	02	—	1	2	A	
	地域・在宅看護方法論	3	2		30		F	N	—	3	B	03	—	2	3	A	
	地域・在宅看護論演習	3	1		30		F	N	—	3	B	04	—	2	3	D	
	地域・在宅看護論実習Ⅰ(対象理解)	1	1		45		F	N	—	3	B	06	—	1	1	G	

●は保健師履修コースに必要な選択科目を示す

8-1-9 授業科目一覧（専門教育科目：看護学科）

授業科目の 区分	科目名	配当年次	単位数		時間数	保健師	①	②	③	④	⑤⑥	⑦	⑧	⑨	備考	履修 登録	確認
			必修	選択													
専門 教育 科目	地域・在宅看護論実習Ⅱ（地域療養支援）	3	2		90		F	N	—	3	B	07	—	2	3	G	
	地域・在宅看護論実習Ⅲ（継続看護）	4	1		45		F	N	—	3	B	08	—	3	4	G	
	成人看護学概論	2	2		30		F	N	—	3	C	01	—	1	2	A	
	成人看護学方法論Ⅰ（急性期・回復期）	3	2		45		F	N	—	3	C	02	—	2	3	D	
	成人看護学方法論Ⅱ（慢性期・終末期）	2	2		45		F	N	—	3	C	03	—	2	2	D	
	老年看護学概論	2	1		15		F	N	—	3	D	01	—	1	2	A	
	老年看護学方法論	2	2		30		F	N	—	3	D	02	—	2	2	A	
	老年看護学演習	3	1		30		F	N	—	3	D	03	—	2	3	D	
	成人・老年看護学実習Ⅰ（急性期・回復期）	3	3		135		F	N	—	3	C	04	—	2	3	G	
	成人・老年看護学実習Ⅱ（慢性期・終末期）	3	3		135		F	N	—	3	C	05	—	2	3	G	
	成人・老年看護学実習Ⅲ（高齢者施設）	3	1		45		F	N	—	3	D	04	—	2	3	G	
	小児看護学概論	1	1		15		F	N	—	3	E	01	—	1	1	A	
	小児看護学方法論	2	2		30		F	N	—	3	E	02	—	1	2	A	
	小児看護学演習	3	1		30		F	N	—	3	E	03	—	2	3	D	
	小児看護学実習Ⅰ（保育所）	1	1		45		F	N	—	3	E	04	—	1	1	G	
	小児看護学実習Ⅱ（病棟）	3	1		45		F	N	—	3	E	05	—	2	3	G	
	リプロダクティブヘルス看護学概論	2	1		15		F	N	—	3	F	01	—	1	2	A	
	リプロダクティブヘルス看護学方法論	2	2		30		F	N	—	3	F	02	—	2	2	A	
	リプロダクティブヘルス看護学演習	3	1		30		F	N	—	3	F	03	—	2	3	D	
	リプロダクティブヘルス看護学実習Ⅰ（地域育児支援）	3	1		45		F	N	—	3	F	04	—	2	3	G	
	リプロダクティブヘルス看護学実習Ⅱ（病棟）	3	1		45		F	N	—	3	F	05	—	2	3	G	
	精神看護学概論	2	1		15		F	N	—	3	G	06	—	1	2	A	
	精神看護学方法論	3	2		30		F	N	—	3	G	07	—	2	3	A	
	精神看護学演習	3	1		30		F	N	—	3	G	08	—	2	3	D	
	精神看護学実習	3	2		90		F	N	—	3	G	09	—	2	3	G	
	感染看護論	2	1		15		F	N	—	3	I	01	—	1	2	A	
	国際看護論	4	1		15		F	N	—	3	J	01	—	9	4	A	
	看護管理論	4	1		15		F	N	—	3	H	01	—	9	4	A	
	看護倫理学	2	1		15		F	N	—	3	H	02	—	1	2	A	
	看護教育学	4	1		15		F	N	—	3	H	03	—	9	4	A	
	家族看護論	2	1		15		F	N	—	3	B	05	—	2	2	A	
	災害看護論	4	2		30		F	N	—	3	I	02	—	3	4	A	
	看護学特論	4	1		15		F	N	—	3	K	01	—	2	4	A	
	看護研究Ⅰ（研究方法）	3	2		30		F	N	—	3	K	02	—	2	3	E	
	看護研究Ⅱ（卒業論文）	4	2		60		F	N	—	3	K	03	—	3	4	E	
	看護統合実習	4	3		135		F	N	—	3	K	04	—	3	4	G	
	公衆衛生看護学概論	2	2		30		F	N	—	3	L	01	—	7	2	A	
	公衆衛生看護活動対象論Ⅰ（母子・成人・高齢者保健）	3		2	30	●	F	N	—	3	M	01	—	8	3	A	
	公衆衛生看護活動対象論Ⅱ（難病・精神・障害等保健活動）	3		2	30	●	F	N	—	3	M	02	—	8	3	A	
	公衆衛生看護活動方法論Ⅰ（家庭訪問・健康診査等）	4		1	30	●	F	N	—	3	M	03	—	8	4	D	
	公衆衛生看護活動方法論Ⅱ（地区踏査・地域診断）	4		1	30	●	F	N	—	3	M	04	—	8	4	D	
	公衆衛生看護活動展開論	4		2	30	●	F	N	—	3	M	05	—	8	4	A	
	産業保健	2		1	15	●	F	N	—	3	M	06	—	7	2	A	
	学校保健	2		1	15	●	F	N	—	3	M	07	—	7	2	A	
	健康教育・保健指導論	2		2	30	●	F	N	—	3	M	08	—	8	2	A	
	公衆衛生看護管理論	4		1	15	●	F	N	—	3	M	09	—	9	4	A	
	公衆衛生看護学実習Ⅰ（行政保健）	4		4	180	●	F	N	—	3	M	10	—	9	4	G	
	公衆衛生看護学実習Ⅱ（産業保健）	4		1	45	●	F	N	—	3	M	11	—	9	4	G	

●は保健師履修コースに必要な選択科目を示す

8-1-10 履修系統図（看護学科）

ディプロマポリシー					
①看護専門職を目指す者として、社会的責務と倫理観を根幹とした幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、一人の人間として豊かな心を身につけている。					
②看護学の基礎となる学問を理解する専門職業人としての基礎力を養い、関連職種の機能を理解し、看護の対象となる人々の利益のために連携を図ることのできるコミュニケーション力を身につけている。					
③個人、家族、組織、地域社会における人々の健康課題を査定し、基本的な看護実践を行うための知識・技術・態度を身につけている。					
④看護を必要とする様々な事象について論理的かつ多面的に理解し、自らの考えを表現し、行動する責任と能力を身につけている。					
⑤未知の事象に対し、専門的知識や技術力を統合して創造的に課題解決に取り組むための基礎力と探究力を身につけている。					
⑥看護専門職を目指す者として、責務を果たすために、必要な自己研鑽を重ねることを意義を理解し、自己開発の方法を身につけている。					
分野・領域	1年次		2年次		
	前期	後期	前期	後期	
総合教育科目	人間系	コミュニケーション概論			
	社会系	我が国の社会福祉・医療保障政策の知識 日本国憲法	医療関連法規	海外保健福祉事情Ⅰ（講義） 海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	
	自然・情報系	情報処理Ⅰ（基礎）	医療必修－医療の倫理とプロ意識・医療情報Ⅰ	情報処理Ⅱ（応用）	
	総合系	大学入門講座－医療人・社会人として成長するために－	【選択科目】 ①人間系：文学論、死生学・死を通して生を考える、演劇論、心理学、哲学、雑談と傾聴～話す力と聞く力～、人間学、倫理学、宗教学、日本近現代史、文化人類学、教育学 ②社会系：経済の仕組み、社会学、国際関係論、ボランティア論、国際医療福祉論、法学、手話入門 ③自然・情報系：物理学、医学/医療史、生物学、化学、人間工学 ④総合系：メディカルマナー入門、医療福祉教養講義、郷土論・大川学		
	外国語系	英語講読Ⅰ（Primary） 英語CALLⅠ（Primary）	英語講読Ⅱ（Basic） 英語CALLⅡ（Basic）		
	総合系	健康科学理論	健康科学実践		
専門基礎／学部共通	専門基礎学部共通	生化学 ケースワーク論 医療管理学 社会福祉学 国際医療保健学	ケアマネジメント論 リスクマネジメント論 臨床心理学概論	救急医学 医療情報学概論	
	健康支援と社会保障制度	保健医療福祉制度論	公衆衛生学	保健統計学 関連職種連携論	
	微生物と病気				
	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病の成り立ち（病理学） 疾病・治療Ⅰ（呼吸、循環、腎泌尿器系） 疾病・治療Ⅱ（消化、代謝・内分泌系） 遺伝と医療	臨床薬理学 疾病・治療Ⅲ（免疫、脳神経、運動器、精神系） 疾病・治療Ⅳ（リプロダクティブヘルス、小児）	栄養と健康 疾病・治療Ⅴ（感覚器、口腔、皮膚系） 放射線科学概論	
	人体の構造と機能	からだの構造 からだの機能			
専門科目	基礎看護学	看護学概論	看護理論		
		看護コミュニケーション			
		看護技術論Ⅰ（共通基本技術）	看護技術論Ⅱ（日常生活援助技術）	看護技術論Ⅲ（医療支援技術）	
				看護過程展開論	
		フィジカルアセスメントⅠ（概論・基本技術・問診・呼吸器系・循環器系） 基礎看護学実習Ⅰ（生活支援）	フィジカルアセスメントⅡ（運動器系・消化器系・乳腺・中脳神経系・感覚器系）	基礎看護学実習Ⅱ（看護過程）	
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論Ⅰ（地域での暮らしと健康） 地域・在宅看護論実習Ⅰ（対象理解）		地域・在宅看護論Ⅱ（地域での療養支援） 家族看護論	
	成人看護学		成人看護学概論	成人看護学方法論Ⅱ（慢性期・終末期）	
	老年看護学		老年看護学概論	老年看護学方法論	
	小児看護学	小児看護学概論 小児看護学実習Ⅰ（保育所）		小児看護学方法論	
	リプロダクティブヘルス看護学		リプロダクティブヘルス看護学概論	リプロダクティブヘルス看護学方法論	
	専門分野	精神看護学		精神看護学概論	
		看護の統合と実践		看護倫理学 感染看護論	
		公衆衛生看護学		公衆衛生看護学概論	
保健師課程専門科目			産業保健 学校保健 健康教育・保健指導論 保健医療福祉行政論		
		・・・ 必修科目			
		・・・ 選択科目			
		・・・ 保健師履修コース選択必修科目			

カリキュラムポリシー

- ①看護専門職者としての基礎となる社会的責務と倫理観を根幹とした幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、一人の人間として豊かな心を身につけるための科目を設定する。
- ②看護学の基礎となる学問を理解する専門職業人としての基礎力を養い、関連職種との協働を理解し、看護の対象となる人々の利益のために連携を図ることのできるコミュニケーション力を身につけるための科目を設定する。
- ③個人、家族、組織、地域社会における人々の健康問題を特定し、基本的な看護実践を行うための知識・技術・態度を身につけるための科目、および、看護を必要とする様々な事象について論理的かつ多面的に理解し、自らの考えを表現し、行動する資質と能力を身につけるための科目を設定する。
- ④未知の事象に対し、専門的知識や技術力を統合して創造的に課題解決に取り組むための基礎力と探究力を身につけるための科目、および、看護専門職者としての責務を果たすために、必要な自己研鑽を重ねることの意義を理解し、自己開発の方法を身につけるための科目を設定する。

3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期

リハビリテーション概論	関連職種連携実習
-------------	----------

関連職種連携ワーク

看護管理論	看護教育学
-------	-------

地域・在宅看護方法論		
地域・在宅看護論実習	地域・在宅看護論実習Ⅱ（地域療養支援）	地域・在宅看護論実習Ⅲ（継続看護）
成人看護学方法論Ⅰ（急性期・回復期）	成人・老年看護学実習Ⅰ（急性期・回復期）	
	成人・老年看護学実習Ⅱ（慢性期・終末期）	
老年看護学演習	成人・老年看護学実習Ⅲ（高齢者施設）	
小児看護学演習	小児看護学実習Ⅱ（病棟）	

リプロダクティブヘルス看護学演習	リプロダクティブヘルス看護学実習Ⅰ（地域 育児支援）	リプロダクティブヘルス看護学実習Ⅱ（病棟）
精神看護学方法論	精神看護学実習	
精神看護学演習		

	国際看護論	
	災害看護論	看護学特論
看護研究Ⅰ（研究方法）	看護研究Ⅱ（卒業論文）	
	看護統合実習	

公衆衛生看護活動対象Ⅰ（母子・成人・高齢者保健）	公衆衛生看護活動方法Ⅰ（家庭訪問・健康診査等）	公衆衛生看護管理論
公衆衛生看護活動対象Ⅱ（障害・精神・障害等保健活動）	公衆衛生看護活動方法Ⅱ（地区調査・地域診断）	
疫学	公衆衛生看護活動展開論	
	公衆衛生看護学実習Ⅰ（行政保健）	
	公衆衛生看護学実習Ⅱ（産業保健）	

8-1-11 カリキュラムマップ（看護学科）

		ディプロマ・ポリシー(DP)			
		[DP1] 看護専門職を目指す者として、社会的責務と倫理観を根幹とした幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、一人の人間として豊かな心を身につけている。	[DP2] 看護学の基礎となる学問を理解する専門職業人としての基礎力を養い、関連職種の機能を理解し、看護の対象となる人々の利益のために連携を図ることのできるコミュニケーション力を身につけている。	[DP3] 個人、家族、組織、地域社会における人々の健康課題を査定し、基本的な看護実践を行うための知識・技術・態度を身につけている。	
各 年 次 の 教 育 目 標 （到達目標・SBOs）	1 年 次	[SBOs1/CP1] 幅広い教養と豊かな感性を培い、人間を理解するための基礎力、語学力を高める。	[DP1/SBOs1/CP1] 大学入門講座-医療人・社会人として成長するために- (1)、英語講義1(Priority)(1)、英語講義2(Basic)(1)、英語CALL1(Priority)(1)、英語CALL2(Basic)(1)、文学論、演義論、心理学、哲学、宗教学、雑談と傾聴～話す力と聴く力～、人間学、日本近現代史、物理学、化学、郷土論-大川学、英会話、資格英語1(Priority)、資格英語2(Basic)、中国語、韓国語 <留学生用外国語> 作文・読解Ⅱ(応用)(1)、文法・語彙Ⅱ(応用)(1)、発表・討論Ⅰ(応用)(1)、医療福祉専門漢字(1)、医療福祉専門語彙(1)、作文・読解Ⅰ(入門)、作文・読解Ⅲ(完成)、文法・語彙Ⅰ(入門)、文法・語彙Ⅲ(完成)、発表・討論Ⅱ(完成)、日本語基礎Ⅰ(初級)、日本語基礎Ⅱ(初級)	[DP2/SBOs1/CP1] コミュニケーション概論(2)	[DP3/SBOs1/CP1]
		[SBOs1/CP2] 人間と環境を理解するための諸科学を学び、看護学に応用するための基礎を固める。	[DP1/SBOs1/CP2] 医学/医療史、医療必修-医療の倫理とプロ意識・医療情報・(1)、倫理学、宗教学、文化人類学、教育学、衛生学-死を通して生を考える、法学、日本国憲法、我が国の社会福祉・医療保障政策の知識(1)、医療関連法規(2)、社会学、国際関係論、ボランティア論、経済の仕組み、国際医療福祉論、情報処理Ⅰ(基礎)(1)、情報処理Ⅱ(応用)、人間工学、医療福祉教養講義、社会福祉学、国際医療保健学、生物学	[DP2/SBOs1/CP2] 手話入門、メディカルマナー入門、健康科学理論、健康科学実践	[DP3/SBOs1/CP2] 公衆衛生学(2)、保健医療福祉制度論(2)、からだの構造(2)、からだの機能(2)、遺伝と医療(1)、疾病のなりたち(病理学)(1)、微生物と病気(2)、医療管理学、放射線科学概論、生化学
		[SBOs1/CP3] 個人や家族の健康状態を査定し、健康課題を解決するための看護の視点を身につける。	[DP1/SBOs1/CP3]	[DP2/SBOs1/CP3] 看護コミュニケーション(1)	[DP3/SBOs1/CP3] 疾病・治療論Ⅰ(呼吸、循環、泌尿器系)(1)、疾病・治療論Ⅱ(消化、代謝、内分泌系)(1)、フィジカルアセスメントⅠ(概論・基本技術・問診・呼吸器系・循環器系)(1)、地域・在宅看護論Ⅰ(地域での暮らしと健康)(1)、小児看護学概論(1)、医療管理学、ケースワーク論、社会福祉学
		[SBOs1/CP4] 自らの学修課題を認識し、自らを動機づけ、主体的な学修活動を行うことができる。	[DP1/SBOs1/CP4]	[DP2/SBOs1/CP4]	[DP3/SBOs1/CP4] 地域・在宅看護論実習Ⅰ(対象理解)(1)、小児看護学実習Ⅰ(保育所)(1)、基礎看護学実習Ⅰ(生活支援)(1)
	2 年 次	[SBOs2/CP1] 豊かな教養を持ち、グローバルな視点で考える力、異文化を理解する力、国際的な感覚を身につける。	[DP1/SBOs2/CP1] 海外保健福祉事情Ⅰ(講義)(1)、実用英会話、実用韓国語会話、実用中国語会話	[DP2/SBOs2/CP1] 医療情報学概論	[DP3/SBOs2/CP1]
		[SBOs2/CP2] 保健医療福祉関連職の機能や社会の仕組みを理解し、看護に活用するための基礎を固める。	[DP1/SBOs2/CP2] ケアマネジメント論	[DP2/SBOs2/CP2]	[DP3/SBOs2/CP2] 保健統計学(2)、関連職種連携論(2)、臨床心理学概論(2)、臨床薬理学(2)、栄養と健康(1)、疾病・治療論Ⅲ(免疫、脳神経、運動器、精神系)(1)、疾病・治療論Ⅳ(感覚器、口腔、皮膚系)(1)、疾病・治療論Ⅴ(リプロダクティブヘルス、小児)(1)、家族看護論(1)、感染看護論(1)、保健統計学(2)、保健医療福祉行政論、産業保健、学校保健、救急医学、リスクマネジメント論、臨床心理学概論(2)
		[SBOs2/CP3] 必要な看護を査定、計画、実践、評価し改善を行うための基礎的知識・技術・態度を身につける。	[DP1/SBOs2/CP3]	[DP2/SBOs2/CP3]	[DP3/SBOs2/CP3] 看護過程展開論(1)、フィジカルアセスメントⅡ(運動器系・消化器系・乳房・中枢神経系・感覚器系)(1)、地域・在宅看護論Ⅱ(地域での暮らしと健康)(2)、成人看護学概論(2)、成人看護学方法論Ⅱ(慢性期・終末期)(2)、老年看護学概論(1)、老年看護学方法論(2)、小児看護学方法論(2)、リプロダクティブヘルス看護学概論(1)、リプロダクティブヘルス看護学方法論(2)、精神看護学概論(1)、公衆衛生看護学概論(2)、健康教育・保健指導論
		[SBOs2/CP4] 演習や実習に主体的に取り組むことができ、看護専門職者としての自己研鑽力の基礎ができていく。	[DP1/SBOs2/CP4] 海外保健福祉事情Ⅱ(実習)(1)	[DP2/SBOs2/CP4]	[DP3/SBOs2/CP4] 基礎看護学実習Ⅱ(看護過程)(2)
	3 年 次	[SBOs3/CP1] 多様性を理解し、自らの考えをもち、論理的かつ建設的に思考する力を身につける。	[DP1/SBOs3/CP1]	[DP2/SBOs3/CP1]	[DP3/SBOs3/CP1] 疫学
		[SBOs3/CP2] 保健医療福祉関連職の機能や社会の仕組みに関する知識を看護に応用することができる。	[DP1/SBOs3/CP2]	[DP2/SBOs3/CP2]	[DP3/SBOs3/CP2] 関連職種連携ワーク(1)、リハビリテーション概論
		[SBOs3/CP3] 必要な看護を行うための知識・技術・態度を実習で具体的にを行うことができる。	[DP1/SBOs3/CP3]	[DP2/SBOs3/CP3]	[DP3/SBOs3/CP3] 公衆衛生看護活動対象論Ⅰ(母子・成人・高齢者保健)、公衆衛生看護活動対象論Ⅱ(難病・精神・障害者等保健活動)
		[SBOs3/CP4] 看護に関する未知の事象への興味関心を表現でき、探究活動を開始することができる。	[DP1/SBOs3/CP4]	[DP2/SBOs3/CP4]	[DP3/SBOs3/CP4]
	4 年 次	[SBOs4/CP1] 看護専門職者の社会的責務を認識し、倫理観に基づいた看護を行う基礎を固める。	[DP1/SBOs4/CP1]	[DP2/SBOs4/CP1]	[DP3/SBOs4/CP1] 災害看護論(2)、国際看護論、看護教育学
		[SBOs4/CP2] 対象を中心とした保健医療福祉を行うための看護の知識・技術・態度、関連職種と連携を図ることのできるコミュニケーション力を身につける。	[DP1/SBOs4/CP2]	[DP2/SBOs4/CP2]	[DP3/SBOs4/CP2]
		[SBOs4/CP3] 複雑な健康課題、組織や地域社会の健康関連課題を論理的かつ多面的に理解し、看護するための知識・技術・態度を身につける。	[DP1/SBOs4/CP3]	[DP2/SBOs4/CP3]	[DP3/SBOs4/CP3] 公衆衛生看護活動方法論Ⅰ(家庭訪問・健康診査等)、公衆衛生看護活動方法論Ⅱ(地区踏査・地域診断)、公衆衛生看護活動展開論
		[SBOs4/CP4] 看護研究を行うための基本的な知識・技術・態度を身につける。	[DP1/SBOs4/CP4]	[DP2/SBOs4/CP4]	[DP3/SBOs4/CP4]

黒:必修科目、水色:選択科目、緑:保健師課程選択必修科目

ディプロマ・ポリシー(DP)		
[DP4] 看護を必要とする様々な事象について論理的かつ多面的に理解し、自らの考えを表現し、行動する資質と能力を身につけている。	[DP5] 未知の事象に対し、専門的知識や技術力を統合して創造的に課題解決に取り組むための専門職業人としての基盤力と探究力を身につけている。	[DP6] 看護専門職を目指す者として、責務を果たすために、必要な自己研鑽を重ねることの意義を理解し、自己開発の方法を身につけている。
[DP4/SBOs1/CP1]	[DP5/SBOs1/CP1]	[DP6/SBOs1/CP1]
[DP4/SBOs1/CP2] 看護学概論(2)	[DP5/SBOs1/CP2]	[DP6/SBOs1/CP2]
[DP4/SBOs1/CP3] 看護技術論Ⅰ(共通基本技術)(1)、看護技術論Ⅱ(日常生活援助技術)(2)	[DP5/SBOs1/CP3]	[DP6/SBOs1/CP3]
[DP4/SBOs1/CP4]	[DP5/SBOs1/CP4]	[DP6/SBOs1/CP4]
[DP4/SBOs2/CP1]	[DP5/SBOs2/CP1]	[DP6/SBOs2/CP1]
[DP4/SBOs2/CP2] 看護倫理学(1)	[DP5/SBOs2/CP2]	[DP6/SBOs2/CP2]
[DP4/SBOs2/CP3] 看護技術論Ⅲ(医療支援技術)(1)	[DP5/SBOs2/CP3]	[DP6/SBOs2/CP3]
[DP4/SBOs2/CP4]	[DP5/SBOs2/CP4]	[DP6/SBOs2/CP4]
[DP4/SBOs3/CP1]	[DP5/SBOs3/CP1]	[DP6/SBOs3/CP1]
[DP4/SBOs3/CP2] 地域・在宅看護方法論(2)、地域・在宅看護論演習(1)、成人看護学方法論Ⅰ(急性期・回復期)(2)、老年看護学演習(1)、小児看護学演習(1)、リプロダクティブヘルス看護学演習(1)、精神看護学方法論(2)、精神看護学演習(1)、	[DP5/SBOs3/CP2]	[DP6/SBOs3/CP2]
[DP4/SBOs3/CP3] 地域・在宅看護論実習Ⅱ(地域療養支援)(2)、成人・老年看護学実習Ⅰ(急性期・回復期)(3)、成人・老年看護学実習Ⅱ(慢性期・終末期)(3)、成人・老年看護学実習Ⅲ(高齢者施設)(1)、小児看護学実習Ⅱ(病棟)(1)、リプロダクティブヘルス看護学実習Ⅰ(地域育児支援)(1)、リプロダクティブヘルス看護学実習Ⅱ(病棟)(1)、精神看護学実習(2)	[DP5/SBOs3/CP3]	[DP6/SBOs3/CP3]
[DP4/SBOs3/CP4] 看護研究Ⅰ(研究方法)(2)	[DP5/SBOs3/CP4]	[DP6/SBOs3/CP4]
[DP4/SBOs4/CP1] 看護管理論	[DP5/SBOs4/CP1] 公衆衛生看護管理論	[DP6/SBOs4/CP1]
[DP4/SBOs4/CP2] 関連職種連携実習	[DP5/SBOs4/CP2]	[DP6/SBOs4/CP2]
[DP4/SBOs4/CP3]	[DP5/SBOs4/CP3] 公衆衛生看護学実習Ⅰ(行政保健)、公衆衛生看護学実習Ⅱ(産業保健)	[DP6/SBOs4/CP3] 看護学特論(1)、看護統合実習(3)、地域・在宅看護論実習Ⅲ(継続看護)(1)
[DP4/SBOs4/CP4]	[DP5/SBOs4/CP4] 看護研究Ⅱ(卒業論文)(2)	[DP6/SBOs4/CP4] 看護研究Ⅱ(卒業論文)(2)

8-2 理学療法学科

8-2-1 教育研究上の目的

福岡保健医療学部教育研究上の目的

看護学、理学療法学、作業療法学、言語聴覚学、医学検査学の各分野について、理論及び応用の研究を行うとともに、それぞれ十分な知識と技能を有し、保健医療の実践を担うことのできる応用能力及び豊かな人間性を備えた人材を育成することを目的とする。

福岡保健医療学部理学療法学科教育研究上の目的

理学療法学科は、人を深く思いやるこころ「情意」、さまざまな障害に対処できる豊富な「知識」、障害を克服できるよう導く高い「技術」を育み、バランス感覚にも優れた理学療法士の育成を目的とする。

8-2-2 アドミッションポリシー

1. 求める学生像

本学が入学者に求める要件を十分理解し、理学療法士として、豊かな心、コミュニケーション能力、新しい知識の追求に向けた関心や意欲を持ち備え、日々進化する保健・医療・福祉分野における高度化・専門化及び国際化に対応し、学びを深めるための客観的・科学的な分析・判断力を養うことが期待できる人

2. 理学療法学科の入学者に求める要件

1) 知識・技能

高等学校時代の教科・科目等に相応した基礎知識と技能にあたる語学系科目の修得を通して身につけた読解力、文章力、コミュニケーション能力、また、理数系科目の修得を通して身につけた論理的な思考力、科学的な理解力を有していること。

2) 思考力・判断力・表現力

保健・医療・福祉分野における新しい知識を学ぶための積極的な意欲を有し、継続的な努力を惜しまず、他人を思いやる寛容性及びコミュニケーション能力、学修で得た知識・技能をもとにした客観的な思考力及び理解力、筋道を立てて科学的に考えることができる分析力及び判断力を有していること。

3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

本学の基本理念及び教育理念を十分理解し、理学療法士として「共に生きる社会」の実現に寄与すべく、地域とのつながりを大切に考えることができ、保健・医療・福祉分野の発展に貢献したいという強い意志を持ち、積極的に自ら研鑽し、また相手の立場に立って物事を考え多職種と協調的に連携を図る態度を身につけていること。

8-2-3 ディプロマポリシー

- DP1:理学療法士を目指す者として、建学の精神である「共に生きる社会」の実現を目指し、幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、社会的責務と倫理観を身につけている。
- DP2:理学療法士を目指す者として、理学療法を提供するために必要な基礎的な知識を身につけている。
- DP3:理学療法士を目指す者として、基礎的な学力を養い、多様性を受け入れ、適切なマナーと円滑なコミュニケーションによって豊かな対人関係を築き、他者への共感的態度を身につけている。
- DP4:理学療法士を目指す者として、備えた基礎的知識を理学療法場面に当てはめて客観的・科学的に分析でき、基礎的な理学療法技術を身につけている。
- DP5:理学療法士を目指す者として、様々な状況において備えた高度な専門的知識や技術力を統合して、的確な判断に基づく問題解決能力を身につけている。
- DP6:理学療法士を目指す者として、効果的な多職種連携のために、自職種および他職種を理解し、チームの一員としての役割が果たせる。
- DP7:理学療法士を目指す者として、自身の更なる発展のため、生涯学習を行うことの重要性を認識し、理学療法分野における新しい知識を追求する方法（研究活動）を身につけている。

8-2-4 カリキュラムポリシー

- CP1:理学療法や関連領域の基礎的・専門的な知識・技術を有し、他文化・異文化を問わない態度で人類の健康を理解できる理学療法士を育成するための科目を設定する。
- CP2:獲得した知識・技術・態度をもとに問題点を的確に把握し、病態に応じた適切な理学療法評価・治療を提供できる理学療法士を育成するための科目を設定する。
- CP3:理学療法の過程で得た情報を定量的・論理的に分析し、適切なコミュニケーション手段を用いて他者と共有し、チームを構築して問題解決にあたることのできる理学療法士を育成するための科目を設定する。
- CP4:常に向上心を持って自己研鑽に努め、修得した知識や技術を関連職種を含めたチーム内で共有しながらリーダーシップを発揮し、専門職業人としての高い倫理観を有した、社会から求められる理学療法士を育成するための科目を設定する。

8-2-5 学年ごとの教育目標

<1 年次 (SB0s1) >

- CP1 : 保健医療福祉に関する基本的知識や異文化に関する知識を修得する。
- CP2 : 保健医療福祉に関する基本的知識を修得し、理学療法とのかかわりを理解する。
- CP3 : 理学療法に必要な論理的思考を養い、コミュニケーションスキルを身につける。
- CP4 : 多様な学問領域に関心を持ち、主体的な学びを通して、使命感、倫理観、責任感、思いやりの心などの豊かな人間性を獲得する。

<2 年次 (SB0s2) >

- CP1 : 保健医療福祉や異文化に関する発展的な基礎知識を修得する。
- CP2 : 病態に応じた理学療法検査手技を正確に実施できる。
- CP3 : データと情報を収集し、適切に管理できる。
- CP4 : 他者と協働し、チームの一員として貢献できる。

<3 年次 (SB0s3) >

- CP1 : 理学療法専門分野および関連領域における基礎的な知識を修得する。
- CP2 : 病態に応じた理学療法評価を正確に実施し、一連の治療プログラムを想定できる。
- CP3 : 収集した情報を基に、障害像の統合と解釈ができる。
- CP4 : 理学療法の発展的な基礎知識を修得し、専門職業人としての倫理観を養い、関連する職種間との連携に貢献できる。

<4 年次 (SB0s4) >

- CP1 : 理学療法専門分野および関連領域における知識を修得し、それらを臨床応用できる能力を獲得する。
- CP2 : 適切な評価を選択・実施できる。また、評価結果から医学的根拠に基づいた一連の治療プログラムを立案し、治療の実施および再評価することができる。
- CP3 : 臨床的な疑問点を探究し、その解決を図るための研究デザインや研究チームを構築することができる。また、計画に基づいた研究の実施および結果の臨床応用について検討することができる。
- CP4 : 理学療法における応用的・発展的な知識を修得し、関連職種へ情報提供および共有することができる。

8-2-6 卒業要件（理学療法学科 2025（令和7）年度入学生 留学生以外）

下記に定める卒業に必要な単位数（必修科目すべてと選択科目）を修得しなければなりません。なお、必修科目については、「8-2-9 授業科目一覧」を参照してください。

(1) 卒業に必要な単位数

授業科目の区分		最低単位数		備考
		必修	選択	
総合教育科目	人 間 系	13単位	8単位以上 ※1 うち 3単位は 選択必修	総合教育科目 「教育学」、「海外保健福祉事情Ⅰ（講義）」、「海外保健福祉事情Ⅱ（実習）」、「我が国の社会福祉・医療保障政策の知識」、「統計学」、「データリテラシー」、「医療必修-医療倫理とプロ意識・医療情報-」、「大学入門講座-医療人・社会人として成長するために-」、「医学英語Ⅰ（入門）」、「医学英語Ⅱ（応用）」、「英会話」は必修科目で13単位。 ※1. 「中国語」「韓国語」より2単位以上、「実用英会話」「実用韓国語会話」「実用中国語会話」より1単位以上選択必修
	社 会 系			
	自然・情報系			
	総 合 系			
	外 国 語 系			
	保 健 体 育 系			
小計		13単位	8単位以上	
専門教育科目	専門基礎科目	35単位	専門教育科目から 5単位以上	選択科目： 「公衆衛生学」、「保健医療福祉制度論」、「ケアマネジメント論」、「リスクマネジメント論」、「関連職種連携実習」、「精神医学Ⅱ（各論）」、「栄養学」、「カウンセリング論」 ※上記以外は必修
	専門科目	65単位		選択科目： 「理学療法診断学Ⅳ（電気診断学）」、「高次脳機能障害学」、「スポーツ理学療法学」、「障害者スポーツⅠ（入門）」、「障害者スポーツⅡ（応用）」、「癌のリハビリテーション」、「福祉環境論」、「理学療法技術学」、「卒業研究」 ※上記以外は必修
	小計	100単位	5単位以上	
合計		113単位	13単位以上	
総計		126単位以上		

8-2-7 進級条件

(1) 2 学年から 3 学年への進級条件

必修の専門教育科目のうち、未修得科目が 2 科目以下であること。

(2) 3 学年から 4 学年への進級条件

必修科目の単位をすべて修得していること。

8-2-8 科目履修条件

(1) 第 3 学年前期までに開講された必修科目の単位をすべて修得しなければ、「臨床実習Ⅰ（入門）」と「地域リハビリテーション実習」を履修することができない。

8-2-6 卒業要件（理学療法学科 2025（令和7）年度入学生 留学生以外）

下記に定める卒業に必要な単位数（必修科目すべてと選択科目）を修得しなければなりません。なお、必修科目については、「8-2-9 授業科目一覧」を参照してください。

(1) 卒業に必要な単位数

授業科目の区分		最低単位数		備考
		必修	選択	
総合教育科目	人 間 系	15単位 ※1 ※2	5単位 以上 ※2	1単位 以上 ※3
	社 会 系			
	自 然・情 報 系			
	総 合 系			
	外 国 語 系			
	保 健 体 育 系			
小計		15単位	6単位以上	
専門教育科目	専 門 基 礎 科 目	35単位	専門教育科目から 5単位以上	選択科目： 「公衆衛生学」、「保健医療福祉制度論」、「ケアマネジメント論」、「リスクマネジメント論」、「関連職種連携実習」、「精神医学Ⅱ（各論）」、「栄養学」、「カウンセリング論」 ※上記以外は必修
	専 門 科 目	65単位		選択科目： 「理学療法診断学Ⅳ（電気診断学）」、「高次脳機能障害学」、「スポーツ理学療法学」、「障害者スポーツⅠ（入門）」、「障害者スポーツⅡ（応用）」、「癌のリハビリテーション」、「福祉環境論」、「理学療法技術学」、「卒業研究」 ※上記以外は必修
	小計	100単位		
	合計	115単位	5単位以上	
総計		126単位以上		

8-2-7 進級条件

(1) 2 学年から 3 学年への進級条件

必修の専門教育科目のうち、未修得科目が 2 科目以下であること。

(2) 3 学年から 4 学年への進級条件

必修科目の単位をすべて修得していること。

8-2-8 科目履修条件

- (1) 第3学年前期までに開講された必修科目の単位をすべて修得しなければ、「臨床実習Ⅰ（入門）」と「地域リハビリテーション実習」を履修することができない。
- (2) 留学生の日本語履修について

科目名	配当年次	単位			時間数
		必修	選択	自由	
作文・読解Ⅰ（入門）	1 2 3 4		1		30
作文・読解Ⅱ（応用）	1 2 3 4	1			30
作文・読解Ⅲ（完成）	1 2 3 4		1		30
文法・語彙Ⅰ（入門）	1 2 3 4		1		30
文法・語彙Ⅱ（応用）	1 2 3 4	1			30
文法・語彙Ⅲ（完成）	1 2 3 4		1		30
発表・討論Ⅰ（応用）	1 2 3 4	1			30
発表・討論Ⅱ（完成）	1 2 3 4		1		30
医療福祉専門漢字	1 2 3 4	1			30
医療福祉専門語彙	1 2 3 4	1			30
日本語基礎Ⅰ（初級）	1 2 3 4			3	90
日本語基礎Ⅱ（初級）	1 2 3 4			3	90

- (3) 日本語科目の区分

必修科目＝必ず履修する科目（留学生全員、卒業要件に必要な単位）

選択科目＝必要に応じて履修する科目

自由科目＝必要に応じて履修する科目（単位の修得は可能だが、修得した単位は卒業要件に含まない）

- (4) 履修条件

外国語の履修については、原則として日本語科目を10単位修得すること。

①10単位の内2単位までは日本語科目以外の外国語科目（母国語としない外国語に限る）をもって代えることができる。

②「外国人のための日本語能力テスト」の得点により、最大3単位まで認定することができる。

8-2-9 授業科目一覧（総合教育科目：理学療法学科）

授業科目の 区分		科目名	配当年次	単位数		時間数	①	②	③	④	⑤⑥	⑦	⑧	⑨	備考	履修 登録	確認	
				必修	選択													
総合教育科目	人間系	文学論	1 2 3 4		2	30	F	P	—	0	1	01	—	7	7	C		
		死生学-死を通して生を考える	1 2 3 4		2	30	F	P	—	0	1	16	—	7	7	C		
		演劇論	1 2 3 4		1	15	F	P	—	0	1	02	—	7	7	C		
		心理学	1 2 3 4		2	30	F	P	—	0	1	04	—	7	7	C		
		哲学	1 2 3 4		2	30	F	P	—	0	1	05	—	7	7	C		
		コミュニケーション概論	1 2 3 4		2	30	F	P	—	0	1	06	—	7	7	C		
		雑談と傾聴～話す力と聴く力～	1 2 3 4		2	30	F	P	—	0	1	07	—	7	7	C		
		人間学	1 2 3 4		2	30	F	P	—	0	1	08	—	7	7	C		
		倫理学	1 2 3 4		2	30	F	P	—	0	1	10	—	7	7	C		
		宗教学	1 2 3 4		2	30	F	P	—	0	1	11	—	7	7	C		
		日本近現代史	1 2 3 4		2	30	F	P	—	0	1	12	—	7	7	C		
		文化人類学	1 2 3 4		2	30	F	P	—	0	1	13	—	7	7	C		
	教育学	1	2	30	F	P	—	0	1	14	—	1	1	A				
	教育方法論	3 4	2	30	F	P	—	0	1	15	—	7	7	C				
	社会系	経済の仕組み	1 2 3 4		2	30	F	P	—	0	2	18	—	7	7	C		
		海外保健福祉事情Ⅰ（講義）	② 3 4	1	15	F	P	—	0	2	26	—	1	2	A			
		海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	② 3 4	1	45	F	P	—	0	2	27	—	1	2	G			
		社会学	1 2 3 4		2	30	F	P	—	0	2	06	—	7	7	C		
		国際関係論	1 2 3 4		2	30	F	P	—	0	2	23	—	7	7	C		
		ボランティア論	1 2 3 4		2	30	F	P	—	0	2	30	—	7	7	C		
		国際医療福祉論	1 2 3 4		2	30	F	P	—	0	2	24	—	7	7	C		
		組織運営管理論	1 2 3 4		2	30	F	P	—	0	2	22	—	7	7	C		
		日本国憲法	1 2 3 4		2	30	F	P	—	0	2	02	—	7	7	C		
		法学	1 2 3 4		2	30	F	P	—	0	2	01	—	7	7	C		
	我が国の社会福祉・医療保障政策の知識	1	1	30	F	P	—	0	2	28	—	1	1	D				
	自然・情報系	統計学	2	2	30	F	P	—	0	3	01	—	2	2	B			
		物理学	1 2 3 4		2	30	F	P	—	0	3	06	—	7	7	C		
		データリテラシー	1	1	30	F	P	—	0	3	18	—	1	1	D			
		医療必修－医療の倫理とプロ意識・医療情報－	1	1	30	F	P	—	0	3	23	—	1	1	D			
		医療データサイエンスⅠ（DS基礎）	2 3 4		1	30	F	P	—	0	3	20	—	8	2	F		
		医療データサイエンスⅡ（AI基礎）	2 3 4		1	30	F	P	—	0	3	21	—	8	2	F		
		医学／医療史	1 2 3 4		2	30	F	P	—	0	3	24	—	7	7	C		
		数学	1 2 3 4		2	30	F	P	—	0	3	05	—	7	7	C		
	生物学	1 2 3 4		2	30	F	P	—	0	3	12	—	7	7	C			
	総合系	大学入門講座－医療人・社会人として成長するために－	1	1	30	F	P	—	0	4	01	—	1	1	D			
		メディカルマナー入門	1 2 3 4		2	30	F	P	—	0	4	04	—	7	7	C		
医療福祉教養講義		1 2 3 4		1	15	F	P	—	0	4	03	—	7	7	C			
郷土論－大川学		1 2 3 4		1	15	F	P	—	0	4	02	—	7	7	C			
医学英語Ⅰ（入門）		1	1	30	F	P	—	0	5	20	—	1	1	A				
外国語系	医学英語Ⅱ（応用）	1	1	30	F	P	—	0	5	21	—	1	1	A				
	英会話	1	1	30	F	P	—	0	5	14	—	1	1	D				
	中国語 ※1	1 2 3 4		2	60	F	P	—	0	6	12	—	4	7	C	※1から2単位以上選択必修		
	韓国語 ※1	1 2 3 4		2	60	F	P	—	0	6	16	—	4	7	C			
	実用英会話 ※2	2	1	30	F	P	—	0	5	15	—	5	2	F	※2から1単位以上選択必修			
	実用中国語会話 ※2	2	1	30	F	P	—	0	6	15	—	5	2	F				
	実用韓国語会話 ※2	2	1	30	F	P	—	0	6	20	—	5	2	F				
	資格英語1 (Primary)	1 2 3 4		1	30	F	P	—	0	5	29	—	7	7	C			
	資格英語2 (Basic)	1 2 3 4		1	30	F	P	—	0	5	30	—	7	7	C			
	保健体育系	健康科学理論	1 2 3 4		1	15	F	P	—	0	7	01	—	7	7	C		

* 配当年次の○印は、その年次の履修を原則とする

8-2-9 授業科目一覧（専門教育科目：理学療法学科）

授業科目の 区分	科目名	配当年次				単位数		時間数	①	②	③	④	⑤⑥	⑦	⑧	⑨	備考	履修 登録	確認
		1	2	3	4	必修	選択												
専門 教育 科目	公衆衛生学	1	2	3	4		2	30	F	P	—	1	0	01	—	7	7	C	
	保健医療福祉制度論	1	2	3	4		2	30	F	P	—	1	0	09	—	7	7	C	
	ケアマネジメント論	1	2	3	4		1	15	F	P	—	1	0	06	—	7	7	C	
	リスクマネジメント論		3	4			2	30	F	P	—	1	0	16	—	8	3	C	
	関連職種連携実習		4				1	45	F	P	—	1	0	15	—	9	4	H	
	リハビリテーション概論	1					2	30	F	P	—	1	0	04	—	1	1	A	
	臨床心理学概論	2					2	30	F	P	—	1	0	11	—	2	2	A	
	救急医学	2		1				15	F	P	—	1	2	02	—	2	2	A	
	関連職種連携論	2					2	30	F	P	—	1	0	05	—	2	2	A	
	関連職種連携ワーク		3				1	30	F	P	—	1	0	14	—	2	3	D	
	解剖学Ⅰ（循環器系、消化器系、呼吸器系）	1					1	30	F	P	—	2	1	01	—	1	1	A	
	解剖学Ⅱ（神経系、内分泌系、生殖系）	1					1	30	F	P	—	2	1	02	—	1	1	A	
	解剖学実習Ⅰ（肉眼）	1					1	45	F	P	—	2	1	03	—	1	1	D	
	解剖学実習Ⅱ（組織）	1					1	45	F	P	—	2	1	04	—	1	1	D	
	生理学Ⅰ（植物性機能）	1					1	30	F	P	—	2	1	05	—	1	1	A	
	生理学Ⅱ（動物性機能）	1					1	30	F	P	—	2	1	06	—	1	1	A	
	生理学実習	1					1	45	F	P	—	2	1	07	—	1	1	D	
	病理学	2					1	30	F	P	—	2	1	08	—	2	2	A	
	臨床医学概論	1					1	30	F	P	—	2	2	02	—	1	1	A	
	内科学Ⅰ（基礎）	2					1	30	F	P	—	2	2	03	—	2	2	A	
	内科学Ⅱ（臨床）	2					1	30	F	P	—	2	2	04	—	2	2	A	
	神経学Ⅰ（基礎）	2					1	30	F	P	—	2	2	05	—	2	2	A	
	神経学Ⅱ（臨床）	2					1	30	F	P	—	2	2	06	—	2	2	A	
	整形外科Ⅰ（基礎）	2					1	30	F	P	—	2	2	07	—	2	2	A	
	整形外科Ⅱ（臨床）	2					1	30	F	P	—	2	2	08	—	2	2	A	
	精神医学Ⅰ（総論・各論）	2					1	30	F	P	—	2	2	09	—	2	2	A	
	精神医学Ⅱ（各論）	2	3				1	30	F	P	—	2	2	10	—	8	2	C	
	リハビリテーション医学	1					1	30	F	P	—	2	2	11	—	1	1	A	
	小児科学	2					1	30	F	P	—	2	2	12	—	2	2	A	
	老年学	2					1	30	F	P	—	2	3	01	—	2	2	A	
	臨床薬理学概論	1					1	15	F	P	—	2	2	13	—	1	1	A	
	栄養学	1	2	3	4		1	15	F	P	—	2	3	02	—	7	7	C	
	人間発達学	1					1	30	F	P	—	2	1	09	—	1	1	A	
	カウンセリング論	1	2	3	4		1	15	F	P	—	1	0	10	—	7	7	C	
	運動学Ⅰ（基礎）	1					1	30	F	P	—	2	1	10	—	1	1	A	
	運動学Ⅱ（応用）	1					1	30	F	P	—	2	1	11	—	1	1	A	
	運動生理学	1					2	30	F	P	—	2	1	12	—	1	1	A	
	運動学演習Ⅰ（基礎）	2					1	30	F	P	—	2	1	13	—	2	2	D	
	運動学演習Ⅱ（応用）	2					1	30	F	P	—	2	1	14	—	2	2	D	
	理学療法概論	1					2	30	F	P	—	3	G	01	—	1	1	A	
	PTスキルⅠ演習	1					1	30	F	P	—	3	G	02	—	1	1	D	
	PTスキルⅡ演習	2					1	30	F	P	—	3	I	01	—	2	2	D	
	PTスキルⅢ演習		3				2	60	F	P	—	3	I	02	—	3	3	D	
	PTスキルⅣ演習			4			1	30	F	P	—	3	I	05	—	3	4	A	
	病態運動学		3				2	30	F	P	—	3	A	07	—	3	3	A	
	運動解剖学	1					2	30	F	P	—	3	A	01	—	1	1	A	
	理学療法用語論	1					1	15	F	P	—	3	B	07	—	1	1	A	
	バイオメカニクス	1					1	15	F	P	—	3	A	15	—	1	1	A	

* 配当年次の○印は、その年次の履修を原則とする

8-2-9 授業科目一覧（専門教育科目：理学療法学科）

授業科目の 区分	科目名	配当年次	単位数		時間数	①	②	③	④	⑤⑥	⑦	⑧	⑨	備考	履修 登録	確認
			必修	選択												
専門 教育 科目	理学療法評価学	1	2		30	F	P	—	3	B 02	—	1	1	A		
	理学療法診断学Ⅰ（基礎）	2	2		60	F	P	—	3	B 03	—	2	2	D		
	理学療法診断学Ⅱ（疾患編）	2	1		30	F	P	—	3	B 04	—	2	2	A		
	理学療法診断学Ⅲ（神経・画像評価学を含む）	2	2		30	F	P	—	3	B 05	—	2	2	D		
	理学療法診断学Ⅳ（電気診断学）	2 3 4		1	15	F	P	—	3	B 09	—	8	2	C		
	高次脳機能障害学	2 3 4		1	15	F	P	—	3	E 07	—	8	2	C		
	物理療法学Ⅰ（基礎）	2	1		30	F	P	—	3	A 04	—	2	2	A		
	物理療法学Ⅱ（応用）	2	1		30	F	P	—	3	A 09	—	2	2	D		
	運動療法学総論	2	1		30	F	P	—	3	A 08	—	2	2	A		
	生活技術学	2	1		30	F	P	—	3	A 05	—	2	2	A		
	生活環境学	2	1		30	F	P	—	3	A 10	—	2	2	A		
	義肢学	2	1		30	F	P	—	3	A 11	—	2	2	A		
	装具学	2	1		30	F	P	—	3	A 06	—	2	2	A		
	理学療法治療総論	3	1		15	F	P	—	3	A 03	—	3	3	A		
	運動系理学療法学Ⅰ（基礎）	3	1		30	F	P	—	3	C 01	—	3	3	A		
	運動系理学療法学Ⅱ（応用）	3	1		30	F	P	—	3	C 02	—	3	3	A		
	神経系理学療法学Ⅰ（脳血管）	3	1		30	F	P	—	3	E 01	—	3	3	A		
	神経系理学療法学Ⅱ（神経筋）	3	1		30	F	P	—	3	E 02	—	3	3	A		
	小児理学療法学	2	1		30	F	P	—	3	E 03	—	2	2	A		
	呼吸器系理学療法学	3	2		30	F	P	—	3	F 01	—	3	3	A		
	循環器系理学療法学	3	1		15	F	P	—	3	F 02	—	3	3	A		
	代謝系理学療法学	3	1		15	F	P	—	3	F 03	—	3	3	A		
	地域理学療法学演習（在宅・地域）	3	2		30	F	P	—	3	A 02	—	3	3	A		
	老人理学療法学	2	1		15	F	P	—	3	H 03	—	2	2	A		
	スポーツ理学療法学	3 4		1	15	F	P	—	3	D 02	—	9	3	C		
	障害者スポーツⅠ（入門）	1 2 3 4		1	15	F	P	—	3	D 03	—	7	7	C		
	障害者スポーツⅡ（応用）	3 4		1	45	F	P	—	3	D 04	—	9	3	F		
	癌のリハビリテーション	2 3 4		1	15	F	P	—	3	F 06	—	8	2	C		
	福祉住環境論	2 3		1	15	F	P	—	3	G 09	—	8	2	C		
	理学療法技術学	3 4		1	30	F	P	—	3	A 16	—	9	3	F		
	理学療法特論Ⅰ（基礎）	4	1		30	F	P	—	3	I 09	—	3	4	A		
	理学療法特論Ⅱ（総合）	4	2		30	F	P	—	3	I 10	—	3	4	A		
	理学療法管理学	3	2		30	F	P	—	3	G 04	—	3	3	A		
	卒業研究	4		4	120	F	P	—	3	G 08	—	3	4	J		
	基礎実習	1	1		45	F	P	—	3	I 11	—	1	1	G		
	検査実習	2 3	1		45	F	P	—	3	I 03	—	2	2	G		
	評価実習	3	1		45	F	P	—	3	I 06	—	3	3	G		
	地域リハビリテーション実習	3 4	1		45	F	P	—	3	I 04	—	3	3	G		
	臨床実習Ⅰ（入門）	3 4	8		360	F	P	—	3	I 07	—	3	3	G		
	臨床実習Ⅱ（応用）	4	8		360	F	P	—	3	I 08	—	3	4	G		

8-2-10 履修系統図（理学療法学科）

ディプロマポリシー	
DP1: 理学療法士を目指す者として、建学の精神である「共に生きる社会」の実現を目指し、幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、社会的責務と倫理観を身につけている。 DP2: 理学療法士を目指す者として、理学療法を提供するために必要な基礎的な知識を身につけている。 DP3: 理学療法士を目指す者として、基礎的な学力を養い、多様性を受け入れ、適切なマナーと円滑なコミュニケーションによって豊かな対人関係を築き、他者への共感的態度を身につけている。 DP4: 理学療法士を目指す者として、備えた基礎的知識を理学療法場面に当てはめて客観的・科学的に分析でき、基礎的な理学療法技術を身につけている。 DP5: 理学療法士を目指す者として、様々な状況において備えた高度な専門的知識や技術力を統合して、的確な判断に基づく問題解決能力を身につけている。 DP6: 理学療法士を目指す者として、効果的な多職種連携のために、自職種および他職種を理解し、チームの一員としての役割を果たせる。 DP7: 理学療法士を目指す者として、自身の更なる発展のため、生涯学習を行うことの重要性を認識し、理学療法分野における新しい知識を追求する方法（研究活動）を身につけている。	
科目分類の学修・教育目標	1年次
	前期 後期
総合教育	2年次
	前期 後期
総合教育	①人間系 文学論、死生学、演劇論、心理学、哲学、コミュニケーション概論、雑談と傾聴～話す力と聴く力～、人間学、倫理学、宗教学、日本近現代史 文化人類学、教育学、教育方法論 ②社会系 経済の仕組み、海外保健福祉事情Ⅰ（講義）、海外保健福祉事情Ⅱ（実習）、社会学、国際関係論、ボランティア論、国際医療福祉論、組織運営管理論 日本国憲法、法学、我が国の社会福祉・医療保障政策の知識 ③自然・情報系 統計学、物理学、データリテラシー、医療必修－医療の倫理とプロ意識・医療情報－、医療データサイエンスⅠ（DS基礎） 医療データサイエンスⅡ（AI基礎）、医学／医療史、数学、生物学 ④総合系 大学入門講座－医療人・社会人として成長するために－、メディカルマナー入門、医療福祉教養講義、郷土論－大川学 ⑤外国語系 医学英語Ⅰ（入門）、医学英語Ⅱ（応用）、英会話、中国語、韓国語、実用英会話、実用中国語会話、実用韓国語会話 資格英語1（Primary）、資格英語2（Basic） ⑥体育系 健康科学理論
	リハビリテーション概論 保健医療福祉制度論 ケアマネジメント論
専門基礎/学部共通	カウンセリング論 公衆衛生学
	臨床心理学概論 関連職種連携論
専門基礎	解剖学Ⅰ（循環器系、消化器系、呼吸器系） 解剖学実習Ⅰ（肉眼） 運動学Ⅰ（基礎） 生理学Ⅰ（植物性機能）
	解剖学Ⅱ（神経系、内分泌系、生殖器系） 解剖学実習Ⅱ（組織） 運動学Ⅱ（応用） 運動生理学 生理学Ⅱ（動物性機能） 生理学実習 人間発達学
	臨床医学概論 臨床薬理学概論 リハビリテーション医学
	内科学Ⅰ（基礎） 神経学Ⅰ（基礎） 神経学Ⅱ（臨床） 整形外科Ⅰ（基礎） 精神医学Ⅰ（総論・各論） 小児科学
臨床医学	内科学Ⅱ（臨床） 整形外科Ⅱ（臨床） 精神医学Ⅱ（各論） 救急医学 病理学
	栄養学 老年学
関連医学	運動解剖学 バイオメカニクス
	物理療法学Ⅰ（基礎） 生活技術学 装具学
理学療法治療基礎科目	物理療法学Ⅱ（応用） 運動療法学総論 生活環境学 義肢学
	理学療法用語論 理学療法評価学
理学療法評価基礎科目	理学療法診断学Ⅰ（基礎） 理学療法診断学Ⅱ（疾患編） 理学療法診断学Ⅲ（神経・画像評価学を含む）
	理学療法診断学Ⅳ（電気診断学）
運動系理学療法科目	
	障害者スポーツⅠ（入門）
スポーツ理学療法科目	
	小児理学療法学
神経系理学療法科目	
	癌のリハビリテーション
内部障害系理学療法科目	
	理学療法概論 PTスキルⅠ演習
キャリアデザイン系科目、理学療法研究科目	福祉住環境論
	老人理学療法学
国際系科目、多職種連携・理学療法学際領域科目	
	PTスキルⅡ演習 検査実習
理学療法演習・実習科目、国家試験対策科目	基礎実習
: 必修科目 : 選択科目 : 実習科目	

カリキュラムポリシー

- CP1: 理学療法や関連領域の基礎的・専門的な知識・技術を有し、他文化・異文化を問わない態度で人類の健康を理解できる理学療法士を育成するための科目を設定する。
- CP2: 獲得した知識・技術・態度をもとに問題点を的確に把握し、病態に応じた適切な理学療法評価・治療を提供できる理学療法士を育成するための科目を設定する。
- CP3: 理学療法の過程で得た情報を定量的・論理的に分析し、適切なコミュニケーション手段を用いて他者と共有し、チームを構築して問題解決にあたることのできる理学療法士を育成するための科目を設定する。
- CP4: 常に向上心を持って自己研鑽に努め、修得した知識や技術を関連職種を含めたチーム内で共有しながらリーダーシップを発揮し、専門職業人としての高い倫理観を有した、社会から求められる理学療法士を育成するための科目を設定する。

3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期

関連職種連携ワーク リスクマネジメント論	関連職種連携実習
-------------------------	----------

病態運動学 理学療法治療総論 地域理学療法実習(在宅・地域) 理学療法技術学

運動系理学療法学Ⅰ(基礎) 運動系理学療法学Ⅱ(応用)

障害者スポーツⅡ(応用) スポーツ理学療法学

神経系理学療法学Ⅰ(脳血管) 神経系理学療法学Ⅱ(神経筋) 高次脳機能障害学
--

呼吸器系理学療法学 循環器系理学療法学 代謝系理学療法学

理学療法管理学	卒業研究
---------	------

PTスキルⅢ演習	評価実習 臨床実習Ⅰ(入門) 地域リハビリテーション実習	PTスキルⅣ演習 臨床実習Ⅱ(応用)	理学療法特論Ⅰ 理学療法特論Ⅱ
----------	------------------------------------	-----------------------	--------------------

8-2-11 カリキュラムマップ（理学療法学科）

		ディプロマ・ポリシー(DP)			
		【DP1】 理学療法士を志す者として、建学の精神である「共に生きる社会」の実現を目指し、幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、社会的責務と倫理観を身につけている。	【DP2】 理学療法士を志す者として、理学療法を提供するために必要な基礎的な知識を身につけている。	【DP3】 理学療法士を志す者として、基礎的な学力を養い、多様性を受け入れ、適切なマナーと円滑なコミュニケーションによって豊かな対人関係を築き、他者への共感的態度を身につけている。	
各 年 次 の 教 育 目 標 (到達目標・SBOs)	1 年 次	【SBOs1/CP1】 保健医療福祉に関する基本的知識や異文化に関する知識を修得する	【DP1/SBOs1/CP1】 医学英語Ⅰ(入門)、医学英語Ⅱ(応用)、英会話、中国語、韓国語、資格英語Ⅰ(Primary)、資格英語2(Basic)	【DP2/SBOs1/CP1】 リハビリテーション概論、解剖学Ⅰ(循環器系、消化器系、呼吸器系)、解剖学Ⅱ(神経系、内分泌系、生殖器系)、解剖学実習Ⅰ(内臓)、解剖学実習Ⅱ(組織)、生理学Ⅰ(植物性機能)、生理学Ⅱ(動物性機能)、生理学実習、臨床医学概論、リハビリテーション医学、人間発達学、運動学Ⅰ(基礎)、運動学Ⅱ(応用)、運動生理学 ケアマネジメント論、臨床薬理学概論、栄養学	【DP3/SBOs1/CP1】 カウンセリング論、コミュニケーション概論、雑談と傾聴～話す力と聴く力～、教育学
		【SBOs1/CP2】 保健医療福祉に関する基本的知識を修得し、理学療法とのかかわりを理解する	【DP1/SBOs1/CP2】 我が国の社会福祉・医療保障政策の知識、医療必修-医療の倫理とプロ意識・医療情報-	【DP2/SBOs1/CP2】 理学療法概論、運動解剖学、理学療法用語論、バイオメカニクス、理学療法評価学、公衆衛生学、保健医療福祉制度論	【DP3/SBOs1/CP2】 障害者スポーツⅠ(入門)
		【SBOs1/CP3】 理学療法に必要な論理的思考を養い、コミュニケーションスキルを身につける	【DP1/SBOs1/CP3】	【DP2/SBOs1/CP3】 健康科学理論	【DP3/SBOs1/CP3】 メディカルマナー入門、医療福祉教養講義、基礎実習、PTスキルⅠ 演習
		【SBOs1/CP4】 多様な学問領域に関心を持ち、主体的な学びを通して、使命感、倫理観、責任感、思いやりの心などの豊かな人間性を獲得する	【DP1/SBOs1/CP4】 文学論、死生学、演劇論、心理学、哲学、人間学、倫理学、宗教学、日本近現代史、文化人類学、経済の仕組み、社会学、国際関係論、国際医療福祉論、組織運営管理論、日本国憲法、法学、社会保障制度論、物理学、データサイエンス、生命倫理、医学/医療史、数学、生物学、大学入門講座、郷土論-大川学	【DP2/SBOs1/CP4】	【DP3/SBOs1/CP4】 ボランティア論
	2 年 次	【SBOs2/CP1】 保健医療福祉や異文化に関する発展的な基礎知識を修得する	【DP1/SBOs2/CP1】 海外保健福祉事情Ⅰ(講義)、海外保健福祉事情Ⅱ(実習)、統計学、医療データサイエンスⅠ・Ⅱ、実用英会話、実用中国語会話、実用韓国語会話	【DP2/SBOs2/CP1】 病理学、内科学Ⅰ(基礎)、内科学Ⅱ(臨床)、神経学Ⅰ(基礎)、神経学Ⅱ(臨床)、整形外科Ⅰ(基礎)、整形外科Ⅱ(臨床)、精神医学Ⅰ(総論・各論)、精神医学Ⅱ(各論)、小児科学、老年学、臨床心理学概論、救急医学	【DP3/SBOs2/CP1】
		【SBOs2/CP2】 病態に応じた理学療法検査手技を正確に実施できる	【DP1/SBOs2/CP2】	【DP2/SBOs2/CP2】	【DP3/SBOs2/CP2】
		【SBOs2/CP3】 データと情報を収集し、適切に管理できる	【DP1/SBOs2/CP3】	【DP2/SBOs2/CP3】	【DP3/SBOs2/CP3】
		【SBOs2/CP4】 他者と協働し、チームの一員として貢献できる	【DP1/SBOs2/CP4】	【DP2/SBOs2/CP4】	【DP3/SBOs2/CP4】 関連職種連携論
	3 年 次	【SBOs3/CP1】 理学療法専門分野および関連領域における基礎的な知識を修得する	【DP1/SBOs3/CP1】	【DP2/SBOs3/CP1】 リスクマネジメント論	【DP3/SBOs3/CP1】 教育方法論
		【SBOs3/CP2】 病態に応じた理学療法評価を正確に実施し、一連の治療プログラムを想定できる	【DP1/SBOs3/CP2】	【DP2/SBOs3/CP2】	【DP3/SBOs3/CP2】
		【SBOs3/CP3】 収集した情報を基に、障害者の統合と解釈ができる	【DP1/SBOs3/CP3】	【DP2/SBOs3/CP3】	【DP3/SBOs3/CP3】
		【SBOs3/CP4】 理学療法の発展的な基礎知識を修得し、専門職人としての倫理観を養い、関連する職種間との連携に貢献できる	【DP1/SBOs3/CP4】	【DP2/SBOs3/CP4】	【DP3/SBOs3/CP4】
	4 年 次	【SBOs4/CP1】 理学療法専門分野および関連領域における知識を修得し、それらを臨床応用できる能力を獲得する	【DP1/SBOs4/CP1】	【DP2/SBOs4/CP1】	【DP3/SBOs4/CP1】
		【SBOs4/CP2】 適切な評価を選択・実施できる。また、評価結果から医学的根拠に基づいた一連の治療プログラムを立案し、治療の実施および再評価することができる	【DP1/SBOs4/CP2】	【DP2/SBOs4/CP2】	【DP3/SBOs4/CP2】
		【SBOs4/CP3】 臨床的な疑問点を探求し、その解決を図るための研究デザインや研究チームを構築することができる。また、計画に基づいた研究の実施及び結果の臨床応用について検討することができる	【DP1/SBOs4/CP3】	【DP2/SBOs4/CP3】	【DP3/SBOs4/CP3】
		【SBOs4/CP4】 理学療法における応用的・発展的な知識を修得し、関連職種へ情報提供および共有することができる	【DP1/SBOs4/CP4】	【DP2/SBOs4/CP4】	【DP3/SBOs4/CP4】

ディプロマ・ポリシー(DP)			
【DP4】 理学療法士を志す者として、備えた基礎的知識を理学療法 場面に当てはめて客観的・科学的に分析でき、基礎的な理 学療法技術を身につけている。	【DP5】 理学療法士を志す者として、様々な状況において備えた高 度な専門的知識や技術力を統合して、的確な判断に基づ く問題解決能力を身につけている。	【DP6】 理学療法士を志す者として、効果的な多職種連携のため に、自職種及び他職種を理解し、チームの一員としての役割 を果たせる。	【DP7】 理学療法士を志す者として、自身の更なる発展のため、生 涯学習を行うことの重要性を認識し、理学療法分野における 新しい知識の追求(研究活動)へ新しい知識を追求する方法 を身につけることができる。
【DP4/SBOs1/CP1】	【DP5/SBOs1/CP1】	【DP6/SBOs1/CP1】	【DP7/SBOs1/CP1】
【DP4/SBOs1/CP2】	【DP5/SBOs1/CP2】	【DP6/SBOs1/CP2】	【DP7/SBOs1/CP2】
【DP4/SBOs1/CP3】	【DP5/SBOs1/CP3】	【DP6/SBOs1/CP3】	【DP7/SBOs1/CP3】
【DP4/SBOs1/CP4】	【DP5/SBOs1/CP4】	【DP6/SBOs1/CP4】	【DP7/SBOs1/CP4】
【DP4/SBOs2/CP1】	【DP5/SBOs2/CP1】	【DP6/SBOs2/CP1】	【DP7/SBOs2/CP1】
【DP4/SBOs2/CP2】 PTスキルⅡ演習、理学療法診断学Ⅰ(基礎)、理学療法診 断学Ⅱ(疾患編)、理学療法診断学Ⅲ(神経・画像評価を含 む)、物理療法Ⅰ(基礎)、物理療法Ⅱ(応用)、運動療 法学総論、生活技術学、生活環境学、義肢学、装具学、小 児理学療法学、老人理学療法学、福祉住環境論 理学療法診断学Ⅳ(電気診断学)、高次脳機能障害学、癌 のリハビリテーション	【DP5/SBOs2/CP2】	【DP6/SBOs2/CP2】	【DP7/SBOs2/CP2】
【DP4/SBOs2/CP3】 運動学演習Ⅰ(基礎)、運動学演習Ⅱ(応用)	【DP5/SBOs2/CP3】	【DP6/SBOs2/CP3】	【DP7/SBOs2/CP3】
【DP4/SBOs2/CP4】 検査実習	【DP5/SBOs2/CP4】	【DP6/SBOs2/CP4】	【DP7/SBOs2/CP4】
【DP4/SBOs3/CP1】	【DP5/SBOs3/CP1】 病態運動学、理学療法治療総論、運動系理学療法Ⅰ(基 礎)、運動系理学療法Ⅱ(応用)、神経系理学療法Ⅰ (脳血管)、神経系理学療法Ⅱ(神経筋)、呼吸器系理学 療法学、循環器系理学療法学、代謝系理学療法学、地域理 学療法学演習(在宅・地域)、理学療法技術学、理学療法管 理学 スポーツ理学療法学、障害者スポーツⅡ(応用)	【DP6/SBOs3/CP1】	【DP7/SBOs3/CP1】
【DP4/SBOs3/CP2】	【DP5/SBOs3/CP2】 PTスキルⅢ演習	【DP6/SBOs3/CP2】	【DP7/SBOs3/CP2】
【DP4/SBOs3/CP3】	【DP5/SBOs3/CP3】 評価実習	【DP6/SBOs3/CP3】	【DP7/SBOs3/CP3】
【DP4/SBOs3/CP4】	【DP5/SBOs3/CP4】	【DP6/SBOs3/CP4】 関連職種連携ワーク、地域リハビリテーション実習、 臨床実習Ⅰ(入門)	【DP7/SBOs3/CP4】
【DP4/SBOs4/CP1】	【DP5/SBOs4/CP1】 PTスキルⅣ演習、理学療法特論Ⅰ(基礎) 理学療法特論Ⅱ(総合)	【DP6/SBOs4/CP1】	【DP7/SBOs4/CP1】
【DP4/SBOs4/CP2】	【DP5/SBOs4/CP2】	【DP6/SBOs4/CP2】 臨床実習Ⅱ(応用)	【DP7/SBOs4/CP2】
【DP4/SBOs4/CP3】	【DP5/SBOs4/CP3】	【DP6/SBOs4/CP3】	【DP7/SBOs4/CP3】 卒業研究
【DP4/SBOs4/CP4】	【DP5/SBOs4/CP4】	【DP6/SBOs4/CP4】 関連職種連携実習	【DP7/SBOs4/CP4】

8-3 作業療法学科

8-3-1 教育研究上の目的

福岡保健医療学部教育研究上の目的

看護学、理学療法学、作業療法学、言語聴覚学、医学検査学の各分野について、理論及び応用の研究を行うとともに、それぞれ十分な知識と技能を有し、保健医療の実践を担うことのできる応用能力及び豊かな人間性を備えた人材を育成することを目的とする。

福岡保健医療学部作業療法学科教育研究上の目的

作業療法学科は、高度で幅広い知識と技術を修得し、一人ひとりのニーズに応えられる柔軟性と応用力を身に付け、現状を科学的に分析し、変化にも機敏に対応できる作業療法士の育成を目的とする。

8-3-2 アドミッションポリシー

1. 求める学生像

本学が入学者に求める要件を十分理解し、作業療法士として、豊かな人間性と自己研鑽の意欲を兼ね備え、日々進化する保健・医療・福祉分野に対応し、他者と協働しながら課題解決する力を養うことが期待できる人

2. 作業療法学科の入学者に求める要件

1) 知識・技能

高等学校までの教科・科目やボランティア活動・課外活動を通して、作業療法とその関連領域についての学修を主体的かつ協調的に展開できる、基礎的な知識と技能を有していること。

2) 思考力・判断力・表現力

保健・医療・福祉分野の課題解決に対して強い関心を持ち、論理的に思考・分析・判断し実行する力と他者との協働の基礎となるコミュニケーション能力を有していること。

3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

「共に生きる社会」の実現に貢献したいという強い意志を持ち、他者を尊重し思いやる豊かな人間性、物事に対して誠実に向き合う態度を身につけていること。

8-3-3 ディプロマポリシー

- DP1：作業療法士を目指す者として、建学の精神である「共に生きる社会」の実現を目指し、幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、社会的責務と倫理観を身につけている。
- DP2：作業療法士を目指す者として、基礎的学力を養い、関連職種の機能を理解し連携を図ることの出来るコミュニケーション力を身につけている。
- DP3：作業療法士を目指す者として、作業療法実践に必要な他者への共感的態度および自己の治療的応用（Therapeutic Use of Self）を身につけている。
- DP4：作業療法士を目指す者として、人々の生活機能を客観的・科学的に分析でき、作業療法を実践するために必要な専門的知識・技術を身につけている。
- DP5：作業療法士を目指す者として、様々な状況において高度な専門的知識や技術を統合し創造的に課題解決に取り組む力を身につけている。
- DP6：作業療法士を目指す者として、国内外問わず自らの活躍の場を模索し、生涯学習を行うことの重要性を認識し、科学的・創造的な探究心を持って作業療法分野の発展に向けて新しい知識を追求（研究活動）する方法を身につけている。

8-3-4 カリキュラムポリシー

- CP1：作業療法分野の基礎知識を体系的に理解するとともに、多様な背景を持つ人々の生活や価値観を大切にし、社会生活を支える作業療法士を育成するための科目を設定する。
- CP2：獲得した知識・技能・態度等を総合的に利用し、保健・医療・福祉の発展に寄与するため、人々の個別性に着目しながら科学的・創造的探究ができる作業療法士を育成するための科目を設定する。
- CP3：多様な人々と協働していくために必要なコミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力を社会の中で汎用的に活用できる作業療法士を育成するための科目を設定する。
- CP4：常に向上心を持って自己研鑽できる専門職業人としての高い倫理観を有し、人間の生命、人間としての尊厳および権利を尊重できる作業療法士を育成するための科目を設定する。

8-3-5 学年ごとの教育目標

<1 年次 (SB0s1) >

CP1：作業療法を含む保健医療福祉領域とその関連領域に関する基本的知識を修得する。

CP2：人々や社会とのかかわりにおける作業療法の役割を理解する。

CP3：作業療法学生として大学生活を送るにあたって必要な汎用的技能を身につける。

CP4：大学生として保健医療福祉領域の学修を進めるにあたって必要な態度・志向性を身につける。

<2 年次 (SB0s2) >

CP1：作業療法専門分野および関連領域における基礎的知識を修得する。

CP2：生活機能に応じた作業療法のかかわりを理解できる。

CP3：作業療法分野の専門教育を深めるにあたって必要な汎用的技能を身につける。

CP4：作業療法学生として専門教育を深めるにあたって必要な態度・志向性を身につける。

<3 年次 (SB0s3) >

CP1：作業療法専門分野および関連領域における応用的な知識を修得する。

CP2：生活機能に応じた作業療法評価を実施できる。

CP3：作業療法学生として臨床場面に参加するにあたって必要な汎用的技能を身につける。

CP4：作業療法学生として臨床場面に参加するにあたって必要な態度・志向性を身につける。

<4 年次 (SB0s4) >

CP1：作業療法専門分野およびその関連領域における発展的な知識を修得する。

CP2：生活機能に応じた作業療法による治療・訓練・支援を提供できる。

CP3：作業療法士として職業生活を始めるにあたって必要な汎用的技能を身につける。

CP4：作業療法士として職業生活を始めるにあたって必要な態度・志向性を身につける。

8-3-6 卒業要件（作業療法学科 2025（令和7）年度入学生 留学生以外）

下記に定める卒業に必要な単位数（必修科目すべてと選択科目）を修得しなければなりません。なお、必修科目については、「8-3-9 授業科目一覧」を参照してください。

(1) 卒業に必要な単位数

授業科目の区分		最低単位数		備考
		必修	選択	
総合教育科目	人 間 系	11単位	10単位以上 ※1 うち 3単位は 選択必修	総合教育科目 「海外保健福祉事情Ⅰ（講義）」、「海外保健福祉事情Ⅱ（実習）」、「我が国の社会福祉・医療保障政策の知識」、「統計学」、「データリテラシー」、「医療必修-医療倫理とプロ意識・医療情報」、「大学入門講座-医療人・社会人として成長するために」、「医学英語Ⅰ（入門）」、「医学英語Ⅱ（応用）」、「英会話」は必修科目で11単位。 ※1. 「中国語」「韓国語」より2単位以上、「実用英会話」「実用韓国語会話」「実用中国語会話」より1単位以上選択必修
	社 会 系			
	自 然・情 報 系			
	総 合 系			
	外 国 語 系			
	保 健 体 育 系			
	小 計	11単位	10単位以上	
専門教育科目	専 門 基 礎 科 目	33単位	専門教育科目から 7単位以上	選択科目： 「保健医療福祉制度論」、「ケアマネジメント論」、「リスクマネジメント論」、「関連職種連携実習」、「臨床医学概論」、「内科学Ⅱ（臨床）」、「栄養学」、「カウンセリング論」 <u>※上記以外は必修</u>
	専 門 科 目	65単位		選択科目： 「作業応用論」、「卒業研究」、「作業療法諸理論」、「中枢神経疾患作業療法学Ⅲ（特論）」、「精神疾患作業療法学Ⅲ（特論）」、「小児作業療法学Ⅲ（特論）」、「職業関連技術学」、「バリアフリー論」 <u>※上記以外は必修</u>
	小 計	98単位		
	合 計	109単位	7単位以上	
総 計		126単位以上		

8-3-7 進級条件

(1) 2 学年から 3 学年への進級条件

必修の専門教育科目のうち、未修得科目が 3 科目以下であること。

(2) 3 学年から 4 学年への進級条件

必修科目の単位をすべて修得していること。

8-3-6 卒業要件（作業療法学科 2025（令和7）年度入学生 留学生）

下記に定める卒業に必要な単位数（必修科目すべてと選択科目）を修得しなければなりません。なお、必修科目については、「8-3-9 授業科目一覧」を参照してください。

(1) 卒業に必要な単位数

授業科目の区分		最低単位数			備考
		必修	選択		
総合教育科目	人 間 系	13単位 ※ 1 ※ 2	5単位 以上 ※ 2	3単位 以上 ※ 3	※1. 総合教育科目「海外保健福祉事情Ⅰ（講義）」、「海外保健福祉事情Ⅱ（実習）」、「我が国の社会福祉・医療保障政策の知識」、「統計学」、「医療必修-医療倫理とプロ意識・医療情報-」、「データリテラシー」、「大学入門講座-医療人・社会人として成長するために-」、は必修科目で8単位。 ※2. 外国語の履修については、原則として日本語科目を必修単位の5単位を含め10単位修得すること。 (1) 10単位の内2単位までは日本語科目以外の外国語科目（母国語としない外国語に限る）をもって代えることができる。 (2) 「外国人のための日本語能力テスト」の得点により、最大3単位まで認定することができる。 ※3. 外国語以外の総合教育科目から3単位以上修得すること。
	社 会 系				
	自然・情報系				
	総 合 系				
	外 国 語 系				
	保 健 体 育 系				
	小計	13単位	8単位以上		
専門教育科目	専 門 基 礎 科 目	33単位	専門教育科目から 7単位以上		選択科目： 「保健医療福祉制度論」、「ケアマネジメント論」、「リスクマネジメント論」、「関連職種連携実習」、「臨床医学概論」、「内科学Ⅱ（臨床）」、「栄養学」、「カウンセリング論」 <u>※上記以外は必修</u>
	専 門 科 目	65単位			選択科目： 「作業応用論」、「卒業研究」、「作業療法諸理論」、「中枢神経疾患作業療法学Ⅲ（特論）」、「精神疾患作業療法学Ⅲ（特論）」、「小児作業療法学Ⅲ（特論）」、「職業関連技術学」、「バリアフリー論」 <u>※上記以外は必修</u>
	小計	98単位			7単位以上
	合計		111単位	15単位以上	
	総計		126単位以上		

8-3-7 進級条件

(1) 2 学年から 3 学年への進級条件

必修の専門教育科目のうち、未修得科目が 3 科目以下であること。

(2) 3 学年から 4 学年への進級条件

必修科目の単位をすべて修得していること。

8-3-8 科目履修条件

(1) 留学生の日本語履修について

科目名	配当年次	単位			時間数
		必修	選択	自由	
作文・読解Ⅰ（入門）	1 2 3 4		1		30
作文・読解Ⅱ（応用）	1 2 3 4	1			30
作文・読解Ⅲ（完成）	1 2 3 4		1		30
文法・語彙Ⅰ（入門）	1 2 3 4		1		30
文法・語彙Ⅱ（応用）	1 2 3 4	1			30
文法・語彙Ⅲ（完成）	1 2 3 4		1		30
発表・討論Ⅰ（応用）	1 2 3 4	1			30
発表・討論Ⅱ（完成）	1 2 3 4		1		30
医療福祉専門漢字	1 2 3 4	1			30
医療福祉専門語彙	1 2 3 4	1			30
日本語基礎Ⅰ（初級）	1 2 3 4			3	90
日本語基礎Ⅱ（初級）	1 2 3 4			3	90

(2) 日本語科目の区分

必修科目＝必ず履修する科目（留学生全員、卒業要件に必要な単位）

選択科目＝必要に応じて履修する科目

自由科目＝必要に応じて履修する科目（単位の修得は可能だが、修得した単位は卒業要件に含まない）

(3) 履修条件

外国語の履修については、原則として日本語科目を10単位修得すること。

①10単位の内2単位までは日本語科目以外の外国語科目（母国語としない外国語に限る）をもって代えることができる。

②「外国人のための日本語能力テスト」の得点により、最大3単位まで認定することができる。

8-3-9 授業科目一覧（総合教育科目：作業療法学科）

授業科目の 区分	科目名	配当 年次	単位数		時間数	①	②	③	④	⑤⑥	⑦	⑧	⑨	備考	履修 登録	確認
			必修	選択												
総合教育科目	人間系	文学論	1 2 3 4	2	30	F	O	—	0	1	01	—	7	7	G	
		死生学—死を通して生を考える	1 2 3 4	2	30	F	O	—	0	1	16	—	7	7	G	
		演劇論	1 2 3 4	1	15	F	O	—	0	1	02	—	7	7	C	
		心理学	1 2 3 4	2	30	F	O	—	0	1	04	—	7	7	G	
		哲学	1 2 3 4	2	30	F	O	—	0	1	05	—	7	7	G	
		コミュニケーション概論	1 2 3 4	2	30	F	O	—	0	1	06	—	7	7	G	
		雑談と傾聴～話す力と聴く力～	1 2 3 4	2	30	F	O	—	0	1	07	—	7	7	C	
		人間学	1 2 3 4	2	30	F	O	—	0	1	08	—	7	7	G	
		倫理学	1 2 3 4	2	30	F	O	—	0	1	10	—	7	7	G	
		宗教学	1 2 3 4	2	30	F	O	—	0	1	11	—	7	7	C	
		日本近現代史	1 2 3 4	2	30	F	O	—	0	1	12	—	7	7	G	
		文化人類学	1 2 3 4	2	30	F	O	—	0	1	13	—	7	7	G	
	社会系	教育学	1 2 3 4	2	30	F	O	—	0	1	14	—	7	7	C	
		教育方法論	3 4	2	30	F	O	—	0	1	15	—	7	3	C	
		経済の仕組み	1 2 3 4	2	30	F	O	—	0	2	18	—	7	7	G	
		海外保健福祉事情Ⅰ（講義）	② 3 4	1	15	F	O	—	0	2	26	—	1	2	A	
		海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	② 3 4	1	45	F	O	—	0	2	27	—	1	2	G	
		社会学	1 2 3 4	2	30	F	O	—	0	2	06	—	7	7	G	
		国際関係論	1 2 3 4	2	30	F	O	—	0	2	23	—	7	7	G	
		ボランティア論	1 2 3 4	2	30	F	O	—	0	2	30	—	7	7	C	
		国際医療福祉論	1 2 3 4	2	30	F	O	—	0	2	24	—	7	7	G	履修推薦科目
		組織運営管理論	1 2 3 4	2	30	F	O	—	0	2	22	—	7	7	G	
		日本国憲法	1 2 3 4	2	30	F	O	—	0	2	02	—	7	7	G	
		法学	1 2 3 4	2	30	F	O	—	0	2	01	—	7	7	C	
	自然・情報系	我が国の社会福祉・医療保障政策の知識	1	1	30	F	O	—	0	2	28	—	1	1	D	
		統計学	2	2	30	F	O	—	0	3	01	—	2	2	B	
		物理学	1 2 3 4	2	30	F	O	—	0	3	06	—	7	7	C	履修推薦科目
		データリテラシー	1	1	30	F	O	—	0	3	18	—	1	1	D	
		医療必修—医療の倫理とプロ意識・医療情報—	1	1	30	F	O	—	0	3	23	—	1	1	D	
		医療データサイエンスⅠ（DS基礎）	2 3 4	1	30	F	O	—	0	3	20	—	8	2	F	
		医療データサイエンスⅡ（AI基礎）	2 3 4	1	30	F	O	—	0	3	21	—	8	2	F	
		医学／医療史	1 2 3 4	2	30	F	O	—	0	3	24	—	7	7	C	
		数学	1 2 3 4	2	30	F	O	—	0	3	05	—	7	7	G	
		生物学	1 2 3 4	2	30	F	O	—	0	3	12	—	7	7	C	履修推薦科目
	総合系	大学入門講座—医療人・社会人として成長するために—	1	1	30	F	O	—	0	4	01	—	1	1	D	
		メディカルマナー入門	1 2 3 4	2	30	F	O	—	0	4	04	—	7	7	G	
		医療福祉教養講義	1 2 3 4	1	15	F	O	—	0	4	03	—	7	7	G	
		郷土論—大川学	1 2 3 4	1	15	F	O	—	0	4	02	—	7	7	C	
	外国語系	医学英語Ⅰ（入門）	1	1	30	F	O	—	0	5	20	—	1	1	A	
		医学英語Ⅱ（応用）	1	1	30	F	O	—	0	5	21	—	1	1	A	
		英会話	1	1	30	F	O	—	0	5	14	—	1	1	D	
		中国語 ※1	1 2 3 4	2	60	F	O	—	0	6	12	—	4	7	C	※1から2単位以上選択必修
		韓国語 ※1	1 2 3 4	2	60	F	O	—	0	6	16	—	4	7	G	
		実用英会話 ※2	2	1	30	F	O	—	0	5	15	—	5	2	F	※2から1単位以上選択必修
		実用中国語会話 ※2	2	1	30	F	O	—	0	6	15	—	5	2	F	
		実用韓国語会話 ※2	2	1	30	F	O	—	0	6	20	—	5	2	F	
		資格英語1 (Primary)	1 2 3 4	1	30	F	O	—	0	5	29	—	7	7	G	
		資格英語2 (Basic)	1 2 3 4	1	30	F	O	—	0	5	30	—	7	7	G	
	保健体育系	健康科学理論	1 2 3 4	1	15	F	O	—	0	7	01	—	7	7	C	

* 配当年次の○印は、その年次の履修を原則とする

8-3-9 授業科目一覧（専門教育科目：作業療法学科）

授業科目の 区分	授 業 科 目	配当 年次	単位数		時間数	①	②	③	④	⑤⑥	⑦	⑧	⑨	備考	履修 登録	確認
			必修	選択												
専門 基礎 科目	公衆衛生学	1	2		30	F	O	—	1	0	01	—	1	1	A	
	保健医療福祉制度論	1 2 3 4		2	30	F	O	—	1	0	09	—	7	7	C	
	ケアマネジメント論	1 2 3 4		1	15	F	O	—	1	0	06	—	7	7	C	
	リスクマネジメント論	3 4		2	30	F	O	—	1	0	16	—	7	3	C	
	関連職種連携実習	4		1	45	F	O	—	1	0	15	—	7	4	G	
	リハビリテーション概論	1	2		30	F	O	—	1	0	04	—	1	1	A	
	臨床心理学概論	2	2		30	F	O	—	1	0	11	—	1	2	A	
	救急医学	2	1		15	F	O	—	1	0	02	—	1	2	A	
	関連職種連携論	2	2		30	F	O	—	1	0	05	—	1	2	A	
	関連職種連携ワーク	3	1		30	F	O	—	1	0	14	—	1	3	D	
	解剖学Ⅰ（循環器系、消化器系、呼吸器系）	1	1		30	F	O	—	2	1	01	—	1	1	A	
	解剖学Ⅱ（神経系、内分泌系、生殖器系）	1	1		30	F	O	—	2	1	02	—	1	1	A	
	解剖学実習	1	1		45	F	O	—	2	1	03	—	1	1	D	
	生理学Ⅰ（植物性機能）	1	1		30	F	O	—	2	1	04	—	1	1	A	
	生理学Ⅱ（動物性機能）	1	1		30	F	O	—	2	1	05	—	1	1	A	
	生理学実習	1	1		45	F	O	—	2	1	06	—	1	1	D	
	病理学	1	1		30	F	O	—	2	2	01	—	2	1	A	
	臨床医学概論	1 2 3 4		1	30	F	O	—	2	2	12	—	7	7	A	
	内科学Ⅰ（基礎）	2	1		30	F	O	—	2	2	02	—	2	2	A	
	内科学Ⅱ（臨床）	② 3		1	30	F	O	—	2	2	13	—	2	2	A	
	神経学Ⅰ（基礎）	2	1		30	F	O	—	2	2	03	—	2	2	A	
	神経学Ⅱ（臨床）	2	1		30	F	O	—	2	2	04	—	2	2	A	
	整形外科Ⅰ（基礎）	2	1		30	F	O	—	2	2	05	—	2	2	A	
	整形外科Ⅱ（臨床）	2	1		30	F	O	—	2	2	06	—	2	2	A	
	精神医学Ⅰ（基礎）	2	1		30	F	O	—	2	2	07	—	2	2	A	
	精神医学Ⅱ（臨床）	2	1		30	F	O	—	2	2	08	—	2	2	A	
	リハビリテーション医学	1	1		30	F	O	—	2	2	11	—	2	1	A	
	小児科学	2	1		30	F	O	—	2	2	09	—	2	2	A	
	老年学	2	1		30	F	O	—	2	2	10	—	2	2	A	
	臨床薬理学概論	1	1		15	F	O	—	2	3	01	—	2	1	A	
	栄養学	1 2 3 4		1	15	F	O	—	2	3	02	—	8	7	A	
	人間発達学	1	1		30	F	O	—	2	1	11	—	1	1	A	
	カウンセリング論	1 2 3 4		1	15	F	O	—	2	3	04	—	7	7	A	
	運動学Ⅰ（基礎）	1	1		30	F	O	—	2	1	07	—	1	1	A	
	運動学Ⅱ（応用）	1	1		30	F	O	—	2	1	08	—	1	1	A	
	運動生理学	2	1		30	F	O	—	2	1	10	—	2	2	A	
	運動学実習	2	1		45	F	O	—	2	1	09	—	2	2	D	
専門 科目	作業療法概論	1	1		15	F	O	—	3	A	01	—	1	1	A	
	作業学概論	1	1		15	F	O	—	3	A	02	—	1	1	A	
	作業工程技術学	1	1		45	F	O	—	3	A	03	—	1	1	D	
	作業分析学	2	1		45	F	O	—	3	A	05	—	1	2	D	
	作業応用論	2 3 4		1	30	F	O	—	3	A	07	—	7	2	F	
	研究法概論	3	1		15	F	O	—	3	A	08	—	1	3	D	
	研究法演習	3	1		30	F	O	—	3	A	09	—	3	3	A	
	卒業研究	4	4		120	F	O	—	3	A	10	—	9	4	L	
	作業療法管理学	4	1		15	F	O	—	3	A	11	—	1	4	A	
	作業療法教育学	3	1		15	F	O	—	3	A	13	—	1	3	A	
	作業療法評価学概論	2	1		15	F	O	—	3	B	01	—	2	2	A	

* 配当年次の○印は、その年次の履修を原則とする

8-3-9 授業科目一覧（専門教育科目：作業療法学科）

授業科目の 区分	科目名	配当年次	単位数		時間数	①	②	③	④	⑤⑥	⑦	⑧	⑨	備考	履修 登録	確認
			必修	選択												
専門教育科目	作業療法評価学各論	2	1		30	F	O	—	3	B 02	—	2	2	A		
	作業療法評価学演習	2	1		30	F	O	—	3	B 03	—	2	2	D		
	基礎運動機能評価法	2	1		30	F	O	—	3	B 04	—	2	2	D		
	生活機能評価法	2	1		30	F	O	—	3	B 07	—	2	2	A		
	上肢機能評価法	2	1		15	F	O	—	3	B 06	—	2	2	A		
	高次脳機能評価法	2	1		15	F	O	—	3	B 08	—	2	2	A		
	作業療法諸理論	2 3 4		1	15	F	O	—	3	C 01	—	8	2	C		
	作業療法適用学概論	2	1		15	F	O	—	3	C 02	—	2	2	A		
	内科系疾患作業療法学	3	1		30	F	O	—	3	C 03	—	3	3	A		
	運動器疾患作業療法学	3	1		30	F	O	—	3	C 04	—	3	3	A		
	中枢神経疾患作業療法学Ⅰ（総論）	3	1		30	F	O	—	3	C 05	—	3	3	A		
	中枢神経疾患作業療法学Ⅱ（各論）	3	1		30	F	O	—	3	C 06	—	3	3	A		
	中枢神経疾患作業療法学Ⅲ（特論）	3 4		1	15	F	O	—	3	C 18	—	9	3	C		
	精神疾患作業療法学Ⅰ（総論）	3	1		30	F	O	—	3	C 07	—	3	3	A		
	精神疾患作業療法学Ⅱ（各論）	3	1		30	F	O	—	3	C 08	—	3	3	A		
	精神疾患作業療法学Ⅲ（特論）	3 4		1	15	F	O	—	3	C 19	—	9	3	C		
	小児作業療法学Ⅰ（総論）	3	1		30	F	O	—	3	C 09	—	3	3	A		
	小児作業療法学Ⅱ（各論）	3	1		30	F	O	—	3	C 10	—	3	3	A		
	小児作業療法学Ⅲ（特論）	3 4		1	15	F	O	—	3	C 20	—	9	3	C		
	老年作業療法学	3	1		30	F	O	—	3	C 11	—	3	3	A		
	認知障害作業療法学	3	1		30	F	O	—	3	C 12	—	3	3	A		
	作業療法応用学概論	4	1		15	F	O	—	3	E 01	—	3	4	A		
	就学・就労支援論	3	1		15	F	O	—	3	E 02	—	3	3	A		
	生活技術学Ⅰ（総論）	3	1		30	F	O	—	3	C 15	—	3	3	A		
	生活技術学Ⅱ（各論）	3	1		30	F	O	—	3	C 16	—	3	3	A		
	コミュニケーション技術論	3	1		30	F	O	—	3	C 17	—	3	3	A		
	職業関連技術学	3 4		1	15	F	O	—	3	E 03	—	8	3	C		
	地域生活作業療法論	3	1		15	F	O	—	3	E 05	—	3	3	A		
	地域ケアシステム論	3	1		15	F	O	—	3	E 06	—	3	3	A		
	地域生活支援論	3	1		15	F	O	—	3	E 07	—	3	3	A		
	地域生活支援演習	3	1		30	F	O	—	3	E 08	—	3	3	D		
	障害代償学概論	2	1		15	F	O	—	3	D 01	—	3	2	A		
	義肢適用論	3	1		15	F	O	—	3	D 02	—	3	3	A		
	装具・副子適用論	3	1		30	F	O	—	3	D 03	—	3	3	A		
	自助具・福祉機器適用論	3	1		30	F	O	—	3	D 04	—	3	3	A		
	住環境整備論	3	1		15	F	O	—	3	D 05	—	3	3	A		
	バリアフリー論	2 3		1	15	F	O	—	3	D 06	—	8	2	A		
	作業療法総括論	4	1		30	F	O	—	3	A 12	—	3	4	A		
	基礎実習	1	1		45	F	O	—	3	F 03	—	1	1	G		
	検査実習	2	1		45	F	O	—	3	F 04	—	2	2	G	臨床実習	
	地域作業療法実習	3	1		45	F	O	—	3	F 05	—	2	3	G	臨床実習	
	評価実習	3	3		135	F	O	—	3	F 06	—	3	3	G	臨床実習	
	総合実習	4	18		810	F	O	—	3	F 07	—	3	4	G	臨床実習	

8-3-10 履修系統図（作業療法学科）

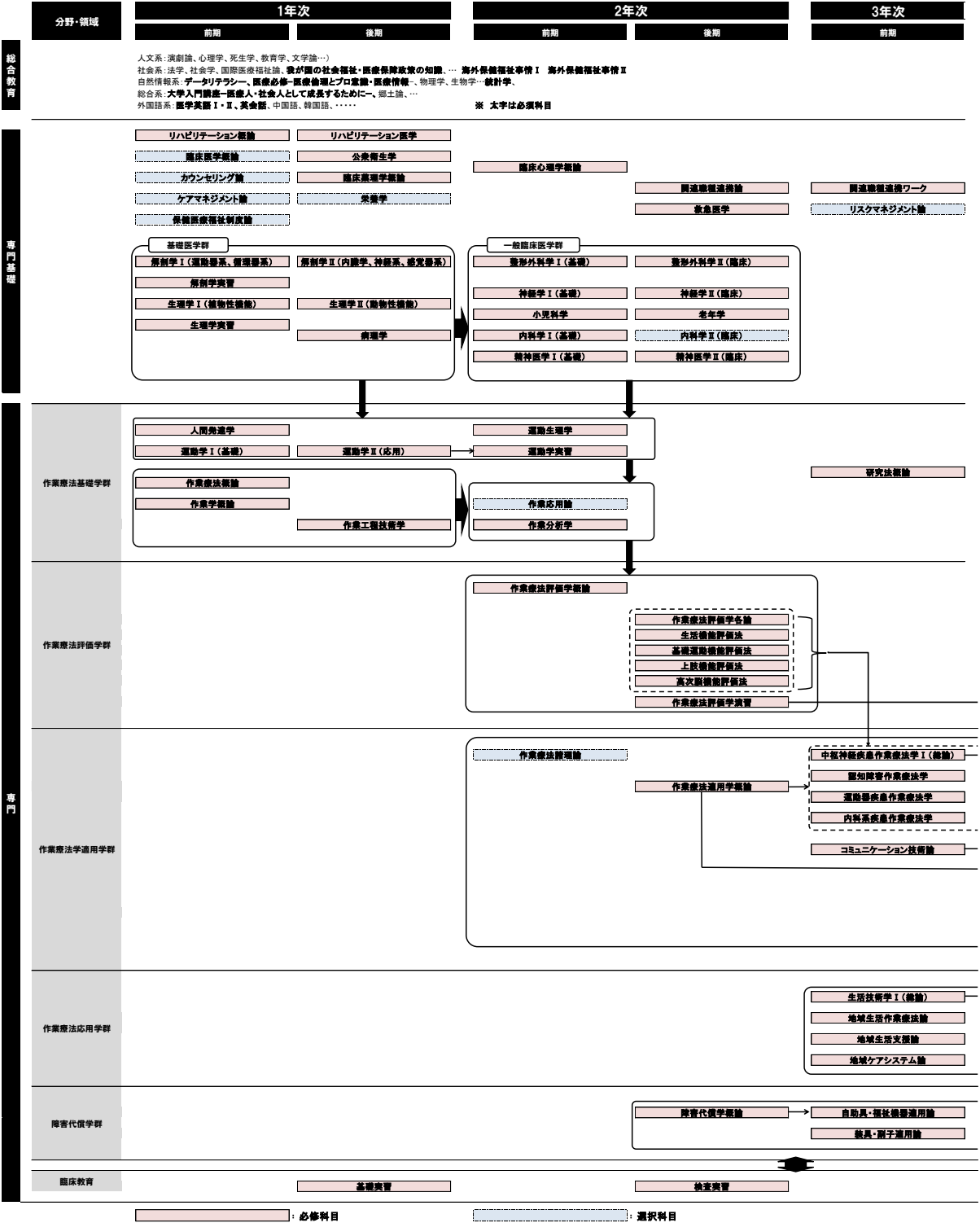
カリキュラムポリシー

①作業療法分野の基礎知識を体系的に理解するとともに、多様な背景を持つ人々の生活や価値観を大切に、社会生活を支える作業療法士を育成するための科目を設定する。

②獲得した知識・技能・態度等を総合的に利用し、保健・医療・福祉の発展に寄与するため、人々の個性性に着目しながら科学的・創造的探究ができる作業療法士を育成するための科目を設定する。

③「多様な人々と協働していくために必要なコミュニケーションスキル、数値的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力を社会の中で汎用的に活用できる作業療法士を育成するための科目を設定する。

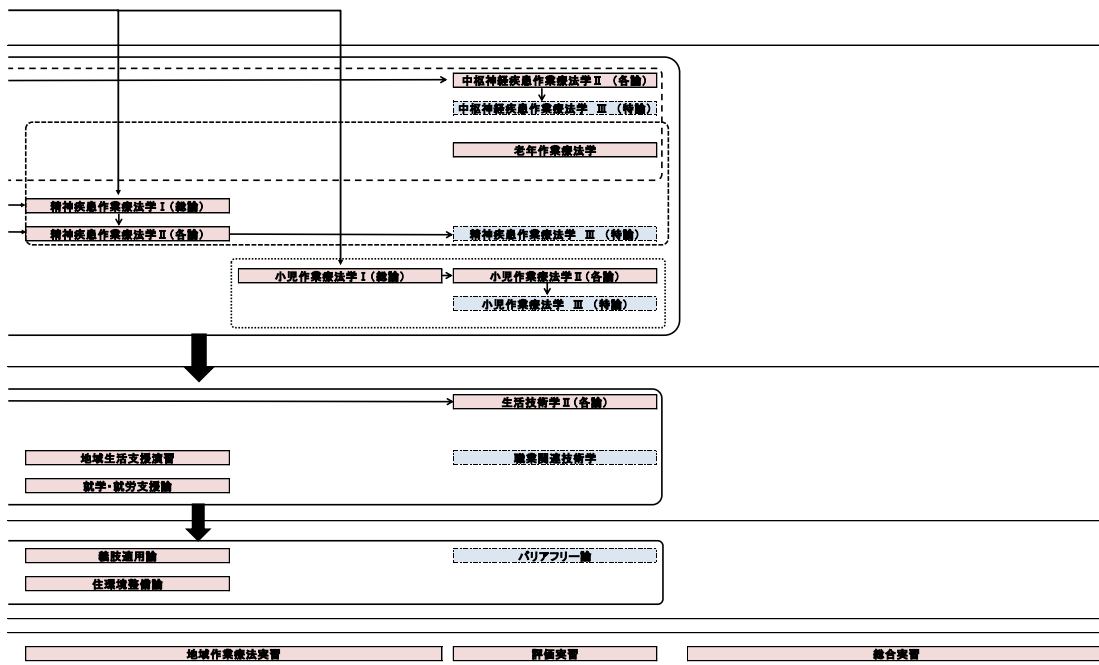
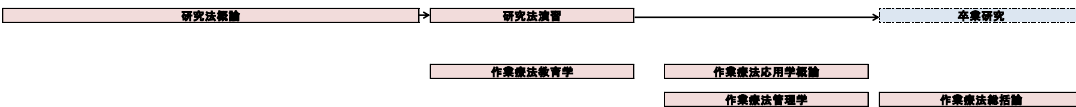
④常に向上心を持って自己研鑽できる専門職業人としての高い倫理観を有し、人間の生命、人間としての尊厳および権利を尊重できる作業療法士を育成するための科目を設定する。



ディプロマポリシー

- ①作業療法士を目指す者として、建学の精神である「共に生きる社会」の実現を目指し、幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、社会的責務と倫理観を身につけている。
- ②作業療法士を目指す者として、基礎的学力を養い、関連職種との機能を理解し連携を図ることの出来るコミュニケーション力を身につけている。
- ③作業療法士を目指す者として、作業療法実践に必要な他者への共感的態度および自己の治療的応用 (Therapeutic Use of Self) を身につけている。
- ④作業療法士を目指す者として、人々の生活機能を客観的・科学的に分析でき、作業療法を実践するために必要な専門的知識・技術を身につけている。
- ⑤作業療法士を目指す者として、様々な状況において高度な専門的知識や技術を統合し創造的に課題解決に取り組み力を身につけている。
- ⑥作業療法士を目指す者として、国内外問わず自らの活躍の場を模索し、生涯学習を行うことの重要性を認識し、科学的・創造的な探究心を持って作業療法分野の発展に向けて新しい知識を追求 (研究活動) する方法を身につけている。

3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期



8-3-11 カリキュラムマップ（作業療法学科）

		ディプロマ・ポリシー(DP)			
		[DP1] 作業療法士を目指す者として、建学の精神である「共に生きる社会」の実現を目指す、幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、社会的責務と倫理観を身につけている。	[DP2] 作業療法士を目指す者として、基礎的学力を養い、関連職種の機能を理解し連携を図ることの出来るコミュニケーション能力を身につけている。	[DP3] 作業療法士を目指す者として、作業療法実践に必要な他者への共感的態度および自己の治療的応用(Therapeutic Use of Self)を身につけている。	
1 年 次	[SBOs1/CP1] 作業療法を含む保健医療福祉領域とその関連領域に関する基本的知識を修得する	[DP1/SBOs1/CP1] 公衆衛生学 医学英語Ⅰ(入門) 医学英語Ⅱ(応用) 英会話 *作文・読解Ⅱ(応用) *文法・語彙Ⅱ(応用) *発表・討論Ⅰ(応用) *医療福祉専門漢字 *医療福祉専門語彙 文学論 死生学-死を通して生を考える 演劇論 心理学 哲学 人間学 倫理学 宗教学 近現代史 文化人類学 教育学 経済の仕組み 社会学 国際関係論 非ランティアル論 国際医療福祉論 組織運営管理論 日本国憲法 法学 我が国の社会福祉・医療保障政策の知識 物理学 データリテラシー 医療必修-医療の倫理とプロ意識・医療情報- 医学/医療史 数学 生物学 メディカルマナー入門 医療福祉教育講義 部土論-大川学 健康科学理論 中国語 韓国語 資格英語1(Primary) 資格英語2(Basic) *作文・読解Ⅰ(入門) *作文・読解Ⅲ(完成) *文法・語彙Ⅰ(入門) *文法・語彙Ⅲ(完成) *発表・討論Ⅱ(完成) *日本語基礎Ⅰ(初級) *日本語基礎Ⅱ(初級)	[DP2/SBOs1/CP1] 公衆衛生学 リハビリテーション概論 リハビリテーション医学 解剖学Ⅰ(循環器系、消化器系、呼吸器系) 解剖学Ⅱ(神経系、内分泌系、生殖系) 解剖学実習 生理学Ⅰ(植物性機能) 生理学Ⅱ(動物性機能) 生理学実習 病理学 臨床薬理学概論 運動学Ⅰ(基礎) 運動学Ⅱ(応用) メディカルマナー入門 保健医療福祉制度論 ケアマネジメント論 臨床医学概論 栄養学	[DP3/SBOs1/CP1] 作業療法概論 作業学概論 作業工程技術学 メディカルマナー入門	
	[SBOs1/CP2] 人々や社会とのかわりにおける作業療法の役割を理解する	[DP1/SBOs1/CP2] メディカルマナー入門 保健医療福祉制度論 国際関係論 組織運営管理論 我が国の社会福祉・医療保障政策の知識 医学/医療史	[DP2/SBOs1/CP2]	[DP3/SBOs1/CP2] 基礎実習 メディカルマナー入門	
	[SBOs1/CP3] 作業療法学生として大学生活を送るにあたって必要な汎用的技能を身につける	[DP1/SBOs1/CP3] 大学入門講座-医療人・社会人として成長するために- コミュニケーション概論 雑談と傾聴-話す力と聴く力- メディカルマナー入門 データリテラシー	[DP2/SBOs1/CP3] コミュニケーション概論 雑談と傾聴-話す力と聴く力- メディカルマナー入門	[DP3/SBOs1/CP3] 基礎実習 コミュニケーション概論 雑談と傾聴-話す力と聴く力- メディカルマナー入門 カウンセリング論	
	[SBOs1/CP4] 大学生として保健医療福祉領域の学修を進めるにあたって必要な態度・志向性を身につける	[DP1/SBOs1/CP4] 大学入門講座-医療人・社会人として成長するために-	[DP2/SBOs1/CP4]	[DP3/SBOs1/CP4] 基礎実習	
2 年 次	[SBOs2/CP1] 作業療法専門分野および関連領域における基本的知識を修得する	[DP1/SBOs2/CP1] 海外保健福祉事情Ⅰ(講義) 実用英会話※ 実用中国語会話※ 実用韓国語会話※ ※から1単位以上必修 海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	[DP2/SBOs2/CP1] 臨床心理学概論 救急医学 内科学Ⅰ(基礎) 内科学Ⅱ(臨床) 神経学Ⅰ(基礎) 神経学Ⅱ(臨床) 整形外科Ⅰ(基礎) 整形外科Ⅱ(臨床) 精神医学Ⅰ(基礎) 精神医学Ⅱ(臨床) 小児科学 老年学 運動生理学 運動学実習	[DP3/SBOs2/CP1] 作業分析学 作業療法適用学概論 作業応用論	
	[SBOs2/CP2] 生活機能に応じた作業療法のかかわりを理解できる	[DP1/SBOs2/CP2]	[DP2/SBOs2/CP2]	[DP3/SBOs2/CP2] 検査実習	
	[SBOs2/CP3] 作業療法分野の専門教育を深めるにあたって必要な汎用的技能を身につける	[DP1/SBOs2/CP3] 統計学	[DP2/SBOs2/CP3]	[DP3/SBOs2/CP3] 検査実習	
	[SBOs2/CP4] 作業療法学生として専門教育を深めるにあたって必要な態度・志向性を身につける	[DP1/SBOs2/CP4]	[DP2/SBOs2/CP4] 関連職種連携論	[DP3/SBOs2/CP4] 検査実習	
3 年 次	[SBOs3/CP1] 作業療法専門分野および関連領域における応用的知識を修得する	[DP1/SBOs3/CP1] 教育方法論	[DP2/SBOs3/CP1] 就学・就労支援論 コミュニケーション技術論 地域生活作業療法論 地域ケアシステム論 地域生活支援論 職業関連技術学 リスクマネジメント論	[DP3/SBOs3/CP1] 内科系疾患作業療法学 運動器疾患作業療法学 中枢神経疾患作業療法学Ⅰ(総論) 精神疾患作業療法学Ⅰ(総論) 小児作業療法学Ⅰ(総論) 老年作業療法学 認知障害作業療法学 コミュニケーション技術論	
	[SBOs3/CP2] 生活機能に応じた作業療法評価を実施できる	[DP1/SBOs3/CP2]	[DP2/SBOs3/CP2] 関連職種連携ワーク 就学・就労支援論 職業関連技術学	[DP3/SBOs3/CP2] 内科系疾患作業療法学 運動器疾患作業療法学 中枢神経疾患作業療法学Ⅱ(各論) 精神疾患作業療法学Ⅱ(各論) 小児作業療法学Ⅱ(各論) 老年作業療法学 認知障害作業療法学 評価実習 中枢神経疾患作業療法学Ⅲ(特論) 精神疾患作業療法学Ⅲ(特論) 小児作業療法学Ⅲ(特論)	
	[SBOs3/CP3] 作業療法学生として臨床場面に参加するにあたって必要な汎用的技能を身につける	[DP1/SBOs3/CP3]	[DP2/SBOs3/CP3] コミュニケーション技術論 関連職種連携ワーク 地域作業療法実習 地域生活支援演習	[DP3/SBOs3/CP3] コミュニケーション技術論 地域作業療法実習 地域生活支援演習 評価実習	
	[SBOs3/CP4] 作業療法学生として臨床場面に参加するにあたって必要な態度・志向性を身につける	[DP1/SBOs3/CP4]	[DP2/SBOs3/CP4] 関連職種連携ワーク 就学・就労支援論 コミュニケーション技術論 地域生活作業療法論 地域ケアシステム論 地域生活支援演習 地域作業療法実習 職業関連技術学	[DP3/SBOs3/CP4] コミュニケーション技術論 評価実習 地域作業療法実習	
4 年 次	[SBOs4/CP1] 作業療法専門分野およびその関連領域における発展的な知識を修得する	[DP1/SBOs4/CP1]	[DP2/SBOs4/CP1]	[DP3/SBOs4/CP1]	
	[SBOs4/CP2] 生活機能に応じた作業療法による治療・訓練・支援を提供できる	[DP1/SBOs4/CP2]	[DP2/SBOs4/CP2] 関連職種連携実習	[DP3/SBOs4/CP2] 総合実習	
	[SBOs4/CP3] 作業療法士として職業生活始めるにあたって必要な汎用的技能を身につける	[DP1/SBOs4/CP3]	[DP2/SBOs4/CP3]	[DP3/SBOs4/CP3] 総合実習	
	[SBOs4/CP4] 作業療法士として職業生活始めるにあたって必要な態度・志向性を身につける	[DP1/SBOs4/CP4]	[DP2/SBOs4/CP4] 関連職種連携実習	[DP3/SBOs4/CP4] 総合実習	

ディプロマ・ポリシー(DP)		
【DP4】 作業療法士を目指す者として、人々の生活機能を客観的・科学的に分析でき、作業療法を実践するために必要な専門的知識・技術を身につけている。	【DP5】 作業療法士を目指す者として、様々な状況において高度な専門的知識や技術を統合し創造的に課題解決に取り組む力を身につけている。	【DP6】 作業療法士を目指す者として、国内外問わず自らの活躍の場を模索し、生涯学習を行うことの重要性を認識し、科学的・創造的な探究心を持って作業療法分野の発展に向けて新しい知識を追求(研究活動)する方法を身につけている。
【DP4/SBOs1/CP1】 作業療法概論 作業学概論 作業工程技術学	【DP5/SBOs1/CP1】	【DP6/SBOs1/CP1】
【DP4/SBOs1/CP2】 解剖学Ⅰ(循環器系、消化器系、呼吸器系) 解剖学Ⅱ(神経系、内分泌系、生殖系) 解剖学実習 生理学Ⅰ(補助性機能) 生理学Ⅱ(動物性機能) 生理学実習 病理学 リハビリテーション医学 臨床薬理学概論 人間発達学 運動学Ⅰ(基礎) 運動学Ⅱ(応用) 作業学概論 作業工程技術学 臨床医学概論 栄養学	【DP5/SBOs1/CP2】 作業療法概論 基礎実習	【DP6/SBOs1/CP2】
【DP4/SBOs1/CP3】	【DP5/SBOs1/CP3】 基礎実習	【DP6/SBOs1/CP3】 データリテラシー
【DP4/SBOs1/CP4】	【DP5/SBOs1/CP4】 基礎実習	【DP6/SBOs1/CP4】
【DP4/SBOs2/CP1】 臨床心理学概論 内科学Ⅰ(基礎) 内科学Ⅱ(臨床) 神経学Ⅰ(基礎) 神経学Ⅱ(臨床) 整形外科Ⅰ(基礎) 整形外科Ⅱ(臨床) 精神医学Ⅰ(基礎) 精神医学Ⅱ(臨床) 小児科学 老年学 運動生理学 運動学実習 作業分析学 作業療法適用学概論 作業療法評価学概論 作業療法評価学各論 作業療法評価学演習 基礎運動機能評価法 生活機能評価法 上肢機能評価法 高次脳機能評価法 作業応用論 作業療法諸理論 バリアフリー論	【DP5/SBOs2/CP1】 作業療法適用学概論 障害代償学概論 バリアフリー論	【DP6/SBOs2/CP1】 海外保健福祉事情Ⅰ(講義) 海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
【DP4/SBOs2/CP2】 運動学実習 作業療法評価学概論 作業療法評価学各論 作業療法評価学演習 基礎運動機能評価法 生活機能評価法 上肢機能評価法 高次脳機能評価法 検査実習	【DP5/SBOs2/CP2】 運動学実習 作業療法評価学各論 作業療法評価学演習 基礎運動機能評価法 生活機能評価法 上肢機能評価法 高次脳機能評価法 検査実習	【DP6/SBOs2/CP2】
【DP4/SBOs2/CP3】 検査実習	【DP5/SBOs2/CP3】 検査実習	【DP6/SBOs2/CP3】 統計学
【DP4/SBOs2/CP4】 検査実習	【DP5/SBOs2/CP4】 関連職種連携論 検査実習	【DP6/SBOs2/CP4】
【DP4/SBOs3/CP1】 内科系疾患作業療法学 運動器疾患作業療法学 中枢神経疾患作業療法学Ⅰ(総論) 精神疾患作業療法学Ⅰ(総論) 小児作業療法学Ⅰ(総論) 老年作業療法学 認知障害作業療法学 生活技術学Ⅰ(総論) 住環境整備論 作業療法教育学 リスクマネジメント論	【DP5/SBOs3/CP1】 内科系疾患作業療法学 運動器疾患作業療法学 中枢神経疾患作業療法学Ⅰ(総論) 精神疾患作業療法学Ⅰ(総論) 小児作業療法学Ⅰ(総論) 老年作業療法学 認知障害作業療法学 就学・就労支援論 生活技術学Ⅰ(総論) 地域生活作業療法論 地域ケアシステム論 住環境整備論 地域生活支援論 リスクマネジメント論 職業関連技術学	【DP6/SBOs3/CP1】
【DP4/SBOs3/CP2】 内科系疾患作業療法学 運動器疾患作業療法学 中枢神経疾患作業療法学Ⅱ(各論) 精神疾患作業療法学Ⅱ(各論) 小児作業療法学Ⅱ(各論) 老年作業療法学 認知障害作業療法学 生活技術学Ⅱ(各論) 義肢適用論 装具・副子適用論 自助具・福祉機器適用論 住環境整備論 評価実習 中枢神経疾患作業療法学Ⅲ(特論) 精神疾患作業療法学Ⅲ(特論) 小児作業療法学Ⅲ(特論)	【DP5/SBOs3/CP2】 内科系疾患作業療法学 運動器疾患作業療法学 中枢神経疾患作業療法学Ⅱ(各論) 精神疾患作業療法学Ⅱ(各論) 老年作業療法学 認知障害作業療法学 就学・就労支援論 生活技術学Ⅱ(各論) 義肢適用論 装具・副子適用論 自助具・福祉機器適用論 住環境整備論 評価実習 中枢神経疾患作業療法学Ⅲ(特論) 精神疾患作業療法学Ⅲ(特論) 職業関連技術学	【DP6/SBOs3/CP2】
【DP4/SBOs3/CP3】 評価実習	【DP5/SBOs3/CP3】 関連職種連携ワーク 地域作業療法実習 地域生活支援演習 評価実習	【DP6/SBOs3/CP3】 研究法概論 研究法演習
【DP4/SBOs3/CP4】 評価実習	【DP5/SBOs3/CP4】 関連職種連携ワーク 就学・就労支援論 地域生活作業療法論 地域ケアシステム論 地域生活支援演習 評価実習 地域作業療法実習 職業関連技術学	【DP6/SBOs3/CP4】
【DP4/SBOs4/CP1】 作業療法管理学 作業療法応用学概論 作業療法総括論	【DP5/SBOs4/CP1】 作業療法応用学概論 作業療法総括論 関連職種連携実習	【DP6/SBOs4/CP1】
【DP4/SBOs4/CP2】 作業療法応用学概論 作業療法総括論 総合実習	【DP5/SBOs4/CP2】 作業療法応用学概論 関連職種連携実習 作業療法総括論 総合実習	【DP6/SBOs4/CP2】
【DP4/SBOs4/CP3】 総合実習	【DP5/SBOs4/CP3】 総合実習	【DP6/SBOs4/CP3】
【DP4/SBOs4/CP4】 総合実習	【DP5/SBOs4/CP4】 総合実習 関連職種連携実習	【DP6/SBOs4/CP4】 卒業研究

8-4 医学検査学科

8-4-1 教育研究上の目的

福岡保健医療学部の実験研究上の目的

看護学、理学療法学、作業療法学、言語聴覚学、医学検査学の各分野について、理論及び応用の研究を行うとともに、それぞれ十分な知識と技能を有し、保健医療の実践を担うことのできる応用能力及び豊かな人間性を備えた人材を育成することを目的とする。

福岡保健医療学部医学検査学科の実験研究上の目的

医学検査学科は、医学と臨床検査の知識と技術を身に付けるとともに、高度先進医療に対応する能力並びに豊かな人間性とコミュニケーション能力を備え、国内外で活躍できる臨床検査技師を育成することを目的とする。

8-4-2 アドミッションポリシー

1. 求める学生像

本学が入学者に求める要件を十分理解し、臨床検査技師として、豊かな心、コミュニケーション能力、臨床検査医学に対する明確な目的意識を持ち、日々進化する保健・医療・福祉分野における高度化・専門化及び国際化に対応し、医療の発展に寄与する意志を持つ人

2. 医学検査学科の入学者に求める要件

1) 知識・技能

高等学校時代の教科・科目等に相応した語学系科目の修得を通して身につけた読解力、文章力、また理数系科目の修得を通して身につけた論理的かつ科学的な知識と技能を有していること。

2) 思考力・判断力・表現力

保健・医療・福祉分野における新しい知識を学ぶために主体的に行動し、継続的な努力を惜しまず、他人を思いやる寛容性及びコミュニケーション能力、科学的根拠に基づいた思考力や適切な判断力を有していること。

3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

本学の基本理念及び教育理念を十分理解し、臨床検査技師として「共に生きる社会」の実現に寄与すべく、多様な価値観の理解と異文化を認知し、相手の立場に立って多視点で物事を考え、多職種と連携を図る態度と保健・医療・福祉分野の発展に貢献したいという強い意志と責任感を有していること。

8-4-3 ディプロマポリシー

- DP1：臨床検査技師を目指す者として、広い教養と生命の尊重を基盤とした豊かな人間性を身につけ、人間理解、国際的感覚を養い、医療関連分野での倫理的側面を理解した医療従事者として行動できる。
- DP2：臨床検査における基本的知識および技術を修得し、専門医療職の立場のみならず患者の立場に立って、他者を思いやり、自らの考えを表現できる。
- DP3：チーム医療に積極的に参画できる幅広い教養を身につけ、自職種の専門性に誇りを持って他職種を理解し、調整・連携の役割を果たすための適切な他部門とのコミュニケーション能力を身につけている。
- DP4：臨床検査の正確かつ高精度な検査情報を提供するために必要な基礎的な知識および技術を身につけている。
- DP5：臨床検査に必要な専門的な知識および技術と実践能力を身につけ、検査データを総合的に解析する力を培い、臨床診断に寄与する検査能力を身につけている。
- DP6：問題解決に対する柔軟な応用力や想像力を身につけ、社会に貢献できる新たな技術や機器開発に取り組む基礎的能力を身につけている。
- DP7：医療の高度化に対応し、各自の実践の中から研究の課題を発見し、それを新しい知識の追求（研究活動）に発展させることができる。

8-4-4 カリキュラムポリシー

- CP1：臨床検査関連領域の基礎的・専門的な知識・技術を有し、他文化・異文化を問わない態度で人類の健康を理解できる臨床検査技師を育成するための科目を設定する。
- CP2：獲得した知識・技術・態度をもとに問題点を的確に把握し、適切な病態評価を行うための検査方法の選択や正確な検査データを提供できる臨床検査技師を育成するための科目を設定する。
- CP3：臨床検査の過程で得た情報をエビデンスに基づき定量的・論理的に分析し、適切なコミュニケーション手段を用いて他者と共有すると共に、他部門とのチームを構築して問題解決にあたることのできる臨床検査技師を育成するための科目を設定する。
- CP4：生涯にわたって探究心を持って学び続ける能力と姿勢を身につけ、修得した知識や技術に関連職種を含めたチーム内で共有しながらリーダーシップを発揮し、専門職業人としての高い倫理観を有した、社会から求められる臨床検査技師を育成するための科目を設定する。

8-4-5 学年ごとの教育目標

<1 年次 (SB0s1) >

- CP1：保健医療福祉に関する基本的知識や異文化に関する知識を修得する。
- CP2：保健医療福祉に関する基本的知識を修得し、臨床検査とのかかわりを理解する。
- CP3：臨床検査に必要な論理的思考を養い、コミュニケーションスキルを身につける。
- CP4：多様な学問領域に関心を持ち、主体的な学びを通して、使命感、倫理観、責任感、思いやりの心などの豊かな人間性を獲得する。

<2 年次 (SB0s2) >

- CP1：臨床検査専門分野および関連領域における基礎的な知識を修得する。
- CP2：臨床検査に関する応用的知識を修得する。
- CP3：臨床検査データと情報を収集し、他部門とチームを構築して問題解決ができる。
- CP4：他者と協働し、チームの一員として貢献できる。

<3 年次 (SB0s3) >

- CP1：臨床検査専門分野における専門的な知識や技術を修得する。
- CP2：臨床検査に関する応用的知識を修得すると共に、実践的な実習を行う。
- CP3：各臨床検査データの重要性を理解し、臨床の場に適用して、統合できる知識と技術を身につける。
- CP4：臨床検査の発展的な基礎知識を修得し、専門職業人としての倫理観を養い、関連する職種間との連携に貢献できる。

<4 年次 (SB0s4) >

- CP1：基本的な実践技術および施設における検査部門の運営法などを学ぶ。
- CP2：専門分野の研究に取り組むとともに臨床検査特論で臨床検査全体について再点検を行う。
- CP3：臨床的な疑問点を探究し、その解決を図るための研究デザインや研究チームを構築することができる。また、計画に基づいた研究の実施および結果の臨床応用について検討することができる。
- CP4：臨床検査技術を発展させるための知識や技術を修得し、臨床検査の発展に貢献できる能力を備える。

8-4-6 卒業要件（医学検査学科 2025（令和7）年度入学生 留学生以外）

下記に定める卒業に必要な単位数（必修科目すべてと選択科目）を修得しなければなりません。なお、必修科目については、「8-4-9 授業科目一覧」を参照してください。

(1) 卒業に必要な単位数

授業科目の区分		最低単位数		備考
		必修	選択	
総合教育科目	人 間 系	11単位	8単位以上 ※1 うち 3単位は 選択必修	総合教育科目の中で、「海外保健福祉事情Ⅰ（講義）」、「海外保健福祉事情Ⅱ（実習）」、「我が国の社会福祉・医療保障政策の知識」、「統計学」、「データリテラシー」、「医療必修-医療の倫理と医療プロフェッショナリズム-」、「医学英語Ⅰ（入門）」、「医学英語Ⅱ（応用）」、「英会話」、「大学入門講座-医療人・社会人として成長するために-」は必修科目で11単位。 ※1. 「中国語」、「韓国語」より2単位以上、「実用英会話」、「実用中国語会話」、「実用韓国語会話」より1単位以上選択必修。
	社 会 系			
	自 然 ・ 情 報 系			
	総 合 系			
	外 国 語 系			
	保 健 体 育 系			
小計		11単位	8単位以上	
専門教育科目	専 門 基 礎 科 目	24単位	専門教育科目から 4単位以上	選択科目： 「臨床心理学概論」、「リスクマネジメント論」、「救急医学」、「関連職種連携実習」、「臨床神経学」、「薬理学」、「保健機能食品学」、「食の安全管理学」 ※上記以外は必修
	専 門 科 目	81単位		選択科目： 「分子病態検査学演習」、「医学検査特論Ⅱ（発展）」、「先端臨床検査学」 ※上記以外は必修
小計		105単位	4単位以上	
合計		116単位	12単位以上	
総計		128単位以上		

8-4-7 進級条件

(1) 1 学年から 2 学年への進級条件

- ①第1学年の必修の専門教育科目のうち、別表1に定める実習科目の単位をすべて修得していること。
 - ②第1学年の必修の専門教育科目のうち、未修得科目が2科目以下であること。
- 以上、①②の両方の条件を満たしていること。

(2) 2 学年から 3 学年への進級条件

- ①第1学年の必修の専門教育科目の単位をすべて修得していること。
 - ②第2学年の必修の専門教育科目のうち、別表2に定める実習科目の単位をすべて修得していること。
 - ③第2学年の必修の専門教育科目のうち、未修得科目が2科目以下であること。
- 以上、①②③のすべての条件を満たしていること。

(3) 3 学年から 4 学年への進級条件

- 第3学年までの必修科目の単位をすべて修得していること。

【別表1】

解剖組織学実習、生化学実習

【別表2】

医用工学・情報実習、細胞検査学実習、病理検査学実習Ⅰ（基礎）、血液検査学実習Ⅰ（形態検査）、血液検査学実習Ⅱ（分析検査）、一般検査学実習Ⅰ（分析）、一般検査学実習Ⅱ（形態）、微生物学実習Ⅰ（基礎）、微生物学実習Ⅱ（応用）、免疫検査学実習、生理検査学実習Ⅰ（基礎）、生理検査学実習Ⅱ（応用）

8-4-6 卒業要件（医学検査学科 2025（令和7）年度入学生 留学生）

下記に定める卒業に必要な単位数（必修科目すべてと選択科目）を修得しなければなりません。なお、必修科目については、「8-4-9 授業科目一覧」を参照してください。

（1）卒業に必要な単位数

授業科目の区分		最低単位数			備考	
		必修	選択			
総合教育科目	人 間 系	13単位 ※1 ※2	5単位 以上 ※2	3単位 以上 ※3	※1. 総合教育科目の中で、「海外保健福祉事情Ⅰ（講義）」、「海外保健福祉事情Ⅱ（実習）」、「我が国の社会福祉・医療保障政策の知識」、「統計学」、「データリテラシー」、「医療必修-医療の倫理と医療プロフェッショナリズム」、「大学入門講座—医療人・社会人として成長するために」は必修科目で7単位。 ※2. 外国語の履修については、原則として日本語科目を必修単位の5単位を含め10単位修得すること。 (1) 10単位の内2単位までは日本語科目以外の外国語科目（母国語としない外国語に限る）をもって代えることができる。 (2) 「外国人のための日本語能力テスト」の得点により、最大3単位まで認定することができる。 ※3. 外国語以外の総合教育科目から4単位以上修得すること。	
	社 会 系					
	自 然 ・ 情 報 系					
	総 合 系					
	外 国 語 系					
	保 健 体 育 系					
小計		13単位	8単位			
専門教育科目	専 門 基 礎 科 目	24単位	専門教育科目から 4単位以上		選択科目： 「臨床心理学概論」、「リスクマネジメント論」、「救急医学」、「関連職種連携実習」、「臨床神経学」、「薬理学」、「保健機能食品学」、「食の安全管理学」 ※上記以外は必修	
	専 門 科 目	81単位			選択科目： 「分子病態検査学演習」、「医学検査特論Ⅱ（発展）」、「先端臨床検査学」 ※上記以外は必修	
	小計		105単位	4単位以上		
	合計		118単位	12単位以上		
総計		130単位以上				

8-4-7 進級条件

（1）1 学年から 2 学年への進級条件

- ①第1学年の必修の専門教育科目のうち、別表1に定める実習科目の単位をすべて修得していること。
 - ②第1学年の必修の専門教育科目のうち、未修得科目が2科目以下であること。
- 以上、①②の両方の条件を満たしていること。

（2）2 学年から 3 学年への進級条件

- ①第1学年の必修の専門教育科目の単位をすべて修得していること。
 - ②第2学年の必修の専門教育科目のうち、別表2に定める実習科目の単位をすべて修得していること。
 - ③第2学年の必修の専門教育科目のうち、未修得科目が2科目以下であること。
- 以上、①②③のすべての条件を満たしていること。

（3）3 学年から 4 学年への進級条件

- 第3学年までの必修科目の単位をすべて修得していること。

【別表1】

解剖組織学実習、生化学実習

【別表2】

医用工学・情報実習、細胞検査学実習、病理検査学実習Ⅰ（基礎）、血液検査学実習Ⅰ（形態検査）、血液検査学実習Ⅱ（分析検査）、一般検査学実習Ⅰ（分析）、一般検査学実習Ⅱ（形態）、微生物学実習Ⅰ（基礎）、微生物学実習Ⅱ（応用）、免疫検査学実習、生理検査学実習Ⅰ（基礎）、生理検査学実習Ⅱ（応用）

8-4-8 科目履修条件

(1) 留学生の日本語履修について

科目名	配当年次	単位			時間数
		必修	選択	自由	
作文・読解Ⅰ（入門）	1 2 3 4		1		30
作文・読解Ⅱ（応用）	1 2 3 4	1			30
作文・読解Ⅲ（完成）	1 2 3 4		1		30
文法・語彙Ⅰ（入門）	1 2 3 4		1		30
文法・語彙Ⅱ（応用）	1 2 3 4	1			30
文法・語彙Ⅲ（完成）	1 2 3 4		1		30
発表・討論Ⅰ（応用）	1 2 3 4	1			30
発表・討論Ⅱ（完成）	1 2 3 4		1		30
医療福祉専門漢字	1 2 3 4	1			30
医療福祉専門語彙	1 2 3 4	1			30
日本語基礎Ⅰ（初級）	1 2 3 4			3	90
日本語基礎Ⅱ（初級）	1 2 3 4			3	90

(2) 日本語科目の区分

必修科目＝必ず履修する科目（留学生全員、卒業要件に必要な単位）

選択科目＝必要に応じて履修する科目

自由科目＝必要に応じて履修する科目（単位の修得は可能だが、修得した単位は卒業要件に含まない）

(3) 履修条件

外国語の履修については、原則として日本語科目を10単位修得すること。

①10単位の内2単位までは日本語科目以外の外国語科目（母国語としない外国語に限る）をもって代えることができる。

②「外国人のための日本語能力テスト」の得点により、最大3単位まで認定することができる。

8-4-9 授業科目一覧（総合教育科目：医学検査学科）

授業科目の 区分		科目名	配当 年次				単位数		時間数	食品 衛生 ※1	健康 食品 ※2	①	②	③	④	⑤⑥		⑦	⑧	⑨	備考	履修 登録	確認
							必修	選択															
総合 教育科目	人間系	文学論	1	2	3	4		2	30			F	M	—	0	1	01	—	7	7	C		
		死生学－死を通して生を考える	1	2	3	4		2	30			F	M	—	0	1	16	—	7	7	C		
		演劇論	1	2	3	4		1	15			F	M	—	0	1	02	—	7	7	C		
		心理学	1	2	3	4		2	30			F	M	—	0	1	04	—	7	7	C		
		哲学	1	2	3	4		2	30			F	M	—	0	1	05	—	7	7	C		
		コミュニケーション概論	1	2	3	4		2	30			F	M	—	0	1	06	—	7	7	C		
		雑談と傾聴～話す力と聴く力～	1	2	3	4		2	30			F	M	—	0	1	07	—	7	7	C		
		人間学	1	2	3	4		2	30			F	M	—	0	1	08	—	7	7	C		
		倫理学	1	2	3	4		2	30			F	M	—	0	1	10	—	7	7	C		
		宗教学	1	2	3	4		2	30			F	M	—	0	1	11	—	7	7	C		
		日本近現代史	1	2	3	4		2	30			F	M	—	0	1	12	—	7	7	C		
		文化人類学	1	2	3	4		2	30			F	M	—	0	1	13	—	7	7	C		
	教育学	1	2	3	4		2	30			F	M	—	0	1	14	—	7	7	C			
	社会系	経済の仕組み	1	2	3	4		2	30			F	M	—	0	2	18	—	7	7	C		
		海外保健福祉事情Ⅰ（講義）		2	3	4	1		15			F	M	—	0	2	26	—	1	2	B		
		海外保健福祉事情Ⅱ（実習）		2	3	4	1		45			F	M	—	0	2	27	—	1	2	H		
		社会学	1	2	3	4		2	30			F	M	—	0	2	06	—	7	7	C		
		国際関係論	1	2	3	4		2	30			F	M	—	0	2	23	—	7	7	C		
		ボランティア論	1	2	3	4		2	30			F	M	—	0	2	30	—	7	7	C		
		国際医療福祉論	1	2	3	4		2	30			F	M	—	0	2	24	—	7	7	C	履修推薦科目	
		組織運営管理論	1	2	3	4		2	30			F	M	—	0	2	22	—	7	7	C		
		日本国憲法	1	2	3	4		2	30			F	M	—	0	2	02	—	7	7	C		
		法学	1	2	3	4		2	30			F	M	—	0	2	01	—	7	7	C		
		我が国の社会福祉・医療保障政策の知識	1				1		30			F	M	—	0	2	28	—	1	1	E		
		自然・ 情報系	統計学		2			2		30			F	M	—	0	3	01	—	2	2	B	
	物理学		1	2	3	4		2	30			F	M	—	0	3	06	—	7	7	C		
	データリテラシー		1				1		30			F	M	—	0	3	18	—	1	1	D		
	医療必修－医療の倫理とプロ意識・医療情報－		1				1		30			F	M	—	0	3	23	—	1	1	D		
	医療データサイエンスⅠ（DS基礎）			2	3	4		1	30			F	M	—	0	3	20	—	8	2	F		
	医療データサイエンスⅡ（AI基礎）			2	3	4		1	30			F	M	—	0	3	21	—	8	2	F		
	医学／医療史		1	2	3	4		2	30			F	M	—	0	3	24	—	7	7	C		
	数学		1	2	3	4		2	30			F	M	—	0	3	05	—	7	7	C		
	基礎生物学		1					2	30	●		F	M	—	0	3	11	—	7	1	B	履修推薦科目	
	基礎化学		1					1	30			F	M	—	0	3	08	—	7	1	C	履修推薦科目	
	総合系	大学入門講座－医療人・社会人として成長するために－	1				1		30			F	M	—	0	4	01	—	1	1	D		
		メディカルマナー入門	1	2	3	4		2	30			F	M	—	0	4	04	—	7	7	C		
		医療福祉教養講義	1	2	3	4		1	15			F	M	—	0	4	03	—	7	7	C		
		郷土論－大川学	1	2	3	4		1	15			F	M	—	0	4	02	—	7	7	C		
	外国語系	医学英語Ⅰ（入門）	1				1		30			F	M	—	0	5	20	—	1	1	A		
		医学英語Ⅱ（応用）	1				1		30			F	M	—	0	5	21	—	1	1	A		
英会話		1				1		30			F	M	—	0	5	14	—	1	1	D			
中国語 ※3		1	2	3	4		2	60			F	M	—	0	6	12	—	4	7	C	※3から2単位 以上選択必修		
韓国語 ※3		1	2	3	4		2	60			F	M	—	0	6	16	—	4	7	C			
実用英会話 ※4			2				1	30			F	M	—	0	5	15	—	5	2	F			
実用中国語会話 ※4			2				1	30			F	M	—	0	6	15	—	5	2	F	※4から1単位 以上選択必修		
実用韓国語会話 ※4			2				1	30			F	M	—	0	6	20	—	5	2	F			
資格英語1 (Primary)		1	2	3	4		1	30			F	M	—	0	5	29	—	7	7	C			
資格英語2 (Basic)		1	2	3	4		1	30			F	M	—	0	5	30	—	7	7	C			
保健体育系	健康科学理論 ※5	1	2	3	4		1	15			F	M	—	0	7	01	—	7	7	B			
	健康科学実践 ※5	1	2	3	4		1	30			F	M	—	0	7	02	—	7	7	E			

* 配当年次の○印は、その年次の履修を原則とする

8-4-9 授業科目一覧（専門教育科目：医学検査学科）

授業科目の区分	科目名	配当年次	単位数		時間数	食品衛生 ※1	健康食品 ※2	①	②	③	④	⑤⑥	⑦	⑧	⑨	備考	履修登録	確認
			必修	選択														
専門教育科目	保健医療福祉制度論	1	2		30	●		F	M	—	1	0	09	—	1	1	A	
	公衆衛生学	2	1		30	●	○	F	M	—	1	0	01	—	1	2	A	
	臨床心理学概論	1 2 3 4		2	30			F	M	—	1	0	11	—	7	7	G	
	リスクマネジメント論	2 3 4		2	30			F	M	—	1	0	16	—	7	2	G	
	救急医学	1 2 3 4		1	15			F	M	—	1	0	02	—	7	7	C	
	関連職種連携論	2	2		30			F	M	—	1	0	05	—	1	2	A	
	関連職種連携ワーク	3	1		30			F	M	—	1	0	14	—	1	3	D	
	関連職種連携実習	4		1	45			F	M	—	1	0	15	—	7	4	H	
	解剖学Ⅰ（総論）	1	1		30	●	○	F	M	—	2	1	12	—	1	1	A	
	解剖学Ⅱ（各論）	1	1		30	●	○	F	M	—	2	1	13	—	1	1	A	
	解剖組織学実習	1	1		45	●		F	M	—	2	1	15	—	1	1	G	
	食品栄養学	4	2		30	●	○	F	M	—	2	J	03	—	1	4	A	
	生理学	1	1		30	●	○	F	M	—	2	1	21	—	1	1	A	
	病理学	1	1		30	●	○	F	M	—	2	1	41	—	1	1	A	
	臨床医学概論	1	1		30	●	○	F	M	—	2	2	12	—	1	2	A	
	内科学	2	2		30	●	○	F	M	—	2	2	13	—	1	2	A	
	臨床神経学	2		1	30		○	F	M	—	2	2	14	—	7	2	A	
	薬理学	1 2 3 4		1	15		○	F	M	—	2	2	31	—	7	7	A	
	遺伝学	1	1		30	●		F	M	—	2	1	31	—	1	1	A	
	分析化学	1	1		30	●	○	F	M	—	2	2	11	—	1	1	A	
	生化学	1	1		30	●	○	F	M	—	2	1	01	—	1	1	A	
	生化学実習	1	1		45	●		F	M	—	2	1	02	—	1	1	G	
	医用工学・情報概論	1	1		30			F	M	—	2	4	01	—	1	1	A	
	医用工学・情報実習	2	1		45			F	M	—	2	4	02	—	1	2	G	
	検査機器学・情報システム学総論	3	2		30			F	M	—	2	4	03	—	2	3	A	
	保健機能食品学	4		1	30		○	F	M	—	3	J	01	—	9	4	A	
	食の安全管理学	3		1	30	●	○	F	M	—	3	J	02	—	9	3	A	
	病理検査学	2	2		30	●	○	F	M	—	3	C	02	—	2	2	A	
	病理検査学実習Ⅰ（基礎）	2	1		45			F	M	—	3	C	11	—	3	2	G	
	病理検査学実習Ⅱ（応用）	3	1		45			F	M	—	3	C	12	—	3	3	G	
	細胞診断検査学	2	2		30			F	M	—	3	C	21	—	2	2	A	
	細胞検査学実習	2	1		45			F	M	—	3	C	31	—	3	2	G	
	血液検査学Ⅰ（基礎）	1	2		30	●	○	F	M	—	3	B	01	—	1	1	A	
	血液検査学Ⅱ（臨床）	2	2		30	●	○	F	M	—	3	B	02	—	2	2	A	
	血液検査学実習Ⅰ（形態検査）	2	1		45	●		F	M	—	3	B	11	—	3	2	G	
	血液検査学実習Ⅱ（分析検査）	2	1		45	●		F	M	—	3	B	12	—	3	2	G	
	一般検査学Ⅰ（分析）	1	2		30	●		F	M	—	3	D	02	—	1	1	A	
	一般検査学Ⅱ（形態）	2	2		30			F	M	—	3	D	03	—	2	2	A	
	一般検査学実習Ⅰ（分析）	2	1		45	●		F	M	—	3	D	12	—	2	2	G	
	一般検査学実習Ⅱ（形態）	2	1		45			F	M	—	3	D	13	—	3	2	G	
	臨床化学検査学Ⅰ（総論）	2	2		30	●		F	M	—	3	E	01	—	2	2	A	
	臨床化学検査学Ⅱ（各論）	2	2		30	●		F	M	—	3	E	02	—	2	2	A	
	臨床化学検査学実習	3	1		45	●		F	M	—	3	E	11	—	3	3	G	

* 配当年次の○印は、その年次の履修を原則とする

※1 食品衛生管理者・食品衛生監視員（国家試験）取得のために必要な科目

※2 健康食品管理士（民間資格）受験のために必要な科目

※3 外国語系※3から2単位以上選択必修

※4 外国語系※4から1単位以上選択必修

※5 本学医学検査学科を卒業後に臨床工学技士1年制養成所に入學する際、修得が必要

※6 臨床検査技師国家試験受験資格取得のために修得が必要

8-4-9 授業科目一覧（専門教育科目：医学検査学科）

授業科目の 区分	科目名	配当 年次	単位数		時間数	食品 衛生 ※1	健康 食品 ※2	①	②	③	④	⑤⑥	⑦	⑧	⑨	備考	履修 登録	確認
			必修	選択														
専門 教育 科目	遺伝子検査学	2	2		30	●		F	M	—	3	F	01	—	2	2	A	
	遺伝子検査学実習	3	1		45	●		F	M	—	3	F	11	—	3	2	G	
	分子病態検査学演習	3		1	30			F	M	—	3	F	12	—	9	9	E	
	微生物検査学Ⅰ（総論）	1	2		30	●	○	F	M	—	3	H	01	—	2	1	A	
	微生物検査学Ⅱ（各論）	1	2		30	●	○	F	M	—	3	H	02	—	2	1	A	
	微生物学実習Ⅰ（基礎）	2	1		45	●	○	F	M	—	3	H	11	—	3	3	G	
	微生物学実習Ⅱ（応用）	2	1		45	●	○	F	M	—	3	H	12	—	3	3	G	
	医動物検査学演習	3	1		30	●	○	F	M	—	3	D	21	—	1	3	D	
	免疫検査学	2	2		30	●	○	F	M	—	3	E	21	—	2	2	A	
	輸血検査学	2	2		30	●		F	M	—	3	G	12	—	2	2	A	
	免疫検査学実習	2	1		45	●		F	M	—	3	E	31	—	3	2	G	
	輸血検査学実習	3	1		45	●		F	M	—	3	G	13	—	3	3	G	
	生理検査学Ⅰ（総論）	1	2		30	●		F	M	—	3	I	01	—	2	1	A	
	生理検査学Ⅱ（各論）	2	2		30	●		F	M	—	3	I	02	—	2	2	A	
	生理検査学実習Ⅰ（基礎）	2	1		45	●		F	M	—	3	I	11	—	3	2	G	
	生理検査学実習Ⅱ（応用）	2	1		45	●		F	M	—	3	I	12	—	3	2	G	
	超音波画像検査学	3	2		30			F	M	—	3	I	21	—	3	3	A	
	超音波検査学実習	3	1		45			F	M	—	3	I	31	—	3	3	G	
	検査学入門	1	1		30		○	F	M	—	3	K	02	—	1	1	A	
	精度管理学	3	2		30			F	M	—	3	J	05	—	3	3	A	
	検査管理運営学	4	2		30			F	M	—	3	J	02	—	3	4	A	
	臨床検査統計学	3	2		30			F	M	—	3	J	06	—	3	3	A	
	臨床検査医学総論	3	2		30		○	F	M	—	3	A	03	—	3	3	A	
	医療安全管理学	4	1		15		○	F	M	—	3	K	01	—	3	4	A	
	医学検査特論Ⅰ（応用）	4	2		60			F	M	—	3	S	01	—	3	4	A	
	医学検査特論Ⅱ（発展）	4		1	30			F	M	—	3	S	02	—	3	4	A	
	臨地実習	3	12		360			F	M	—	3	L	01	—	3	3	G	
	総合病態学演習	3	2		60			F	M	—	3	A	02	—	3	3	D	
	卒業研究	4	4		120			F	M	—	3	M	01	—	3	4	J	
	移植検査学	3	1		15	●		F	M	—	3	G	01	—	2	3	A	
	シミュレーション医学検査演習	2	1		30			F	M	—	3	I	42	—	2	2	A	
	先端臨床検査学	4		1	15			F	M	—	3	M	03	—	9	4	J	

8-4-10 履修系統図（医学検査学科）

カリキュラムポリシー

- ①臨床検査関連領域の基礎的・専門的な知識・技術を有し、他文化・異文化を問わない態度で人類の健康を理解できる臨床検査技師を育成するための科目を設定する。
- ②獲得した知識・技術・態度をもとに問題点を的確に把握し、適切な病態評価を行うための検査方法の選択や正確な検査データを提供できる臨床検査技師を育成するための科目を設定する。
- ③臨床検査の過程で得た情報をエビデンスに基づき定量的・論理的に分析し、適切なコミュニケーション手段を用いて他者と共有すると共に、他部門とのチームを構築して問題解決にあたることのできる臨床検査技師を育成するための科目を設定する。
- ④生涯にわたって探究心を持って学び続ける能力と姿勢を身に付け、修得した知識や技術を関連職種を含めたチーム内で共有しながらリーダーシップを発揮し、専門職業人としての高い倫理観を有した、社会から求められる臨床検査技師を育成するための科目を設定する。

科目分類の学修・教育目標		1年次		2年次	
		前期	後期	前期	後期
総合教育	総合教育	人文科学系[文学論、死生学-死を通して生を考える、演劇論、心理学、哲学、コミュニケーション概論、雑談と傾聴～話す力と聴く力～、人間学、倫理学、社会科学系[経済の仕組み、社会学、世界遺産と国際文化政策、国際関係論、ボランティア論、国際医療福祉論、組織運営管理論、日本国憲法、法学]自然・情報科学系[物理学、生命倫理、医学/医療史、数学、データリテラシー]外国語系[中国語、韓国語、資格英語1(PPrimary)、資格英語2(BBasic)]保健・体育系[健康科学理論、健康科学実践]総合系[メディカルマナー入門、医療福祉教養講座、郷土論-大川学]			
		医学英語Ⅰ(入門)	医学英語Ⅱ(応用)	外国語系[実用英会話、実用韓国語]	
		我が国の社会福祉・医療保障政策の知識	英会話		
		大学入門講座	医療必修-医療の倫理とプロ意識・医療情報-	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	統計学
		基礎化学		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	
		基礎生物学			
専門基礎	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ(総論)	解剖学Ⅱ(各論)		
			解剖組織学実習		
			生化学		
			生化学実習		
	生理学	遺伝学			
	食品化学				
	臨床検査の基礎とその疾病との関連	臨床医学概論	病理学	内科学	
			分析化学		
	保健医療福祉と臨床検査	臨床心理学概論、救急医学、薬理学、臨床神経学			
		保健医療福祉制度論	公衆衛生学	関連職種連携論	
医療工学及び医療情報		医用工学・情報概論	医用工学・情報実習		
専門科目	病態学				
	血液学的検査		血液検査学Ⅰ(基礎)	血液検査学Ⅱ(臨床)	
				血液検査学実習Ⅰ(形態検査)	血液検査学実習Ⅱ(分析検査)
	病理学的検査			病理検査学	病理検査学実習Ⅰ(基礎)
				細胞診断検査学	細胞検査学実習
	尿・糞便等一般検査(寄生虫学的検査含む)		一般検査学Ⅰ(分析)	一般検査学実習Ⅰ(分析)	
				一般検査学Ⅱ(形態)	一般検査学実習Ⅱ(形態)
	生化学的検査・免疫学的検査			臨床化学検査学Ⅰ(総論)	臨床化学検査学Ⅱ(各論)
				免疫検査学	免疫検査学実習
	遺伝子関連・染色体検査				遺伝子検査学
	輸血移植学的検査				輸血検査学
	微生物学的検査	微生物検査学Ⅰ(総論)	微生物検査学Ⅱ(各論)		微生物学実習Ⅰ(基礎)
					微生物学実習Ⅱ(応用)
	生理機能検査学		生理検査学Ⅰ(総論)	生理検査学Ⅱ(各論)	生理検査学実習Ⅰ(基礎)
				シミュレーション医学検査演習	生理検査学実習Ⅱ(応用)
臨床検査総合管理学					
医療安全管理学	検査学入門				
臨地実習					
卒業研究/研究指導					
臨床検査特論					

：必修科目

：実習科目

：選択科目

ディプロマポリシー

- ①臨床検査技師を目指す者として、広い教養と生命の尊重を基盤とした豊かな人間性を身につけ、人間理解、国際的感覚を養い、医療関連分野での倫理的側面を理解した医療従事者として行動できる。
- ②臨床検査における基本的知識および技術を修得し、専門医療職の立場のみならず患者の立場に立って、他者を思いやり、自らの考えを表現できる。
- ③チーム医療に積極的に参画できる幅広い教養を身につけ、自職種の専門性に誇りを持って他職種を理解し、調整・連携の役割を果たすための適切な他部門とのコミュニケーション能力を身につけている。
- ④臨床検査の正確かつ高精度な検査情報を提供するために必要な基礎的な知識および技術を身につけている。
- ⑤臨床検査に必要な専門的な知識および技術と実践能力を身につけ、検査データを総合的に解析する力を増い、臨床診断に寄与する検査能力を身につけている。
- ⑥問題解決に対する柔軟な応用力や想像力を身につけ、社会に貢献できる新たな技術や機器開発に取り組む基礎的能力を身につけている。
- ⑦医療の高度化に対応し、各自の実践の中から研究の課題を発見し、それを新しい知識の追求(研究活動)に発展させることができる。

3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期

宗教学、日本近現代史、文化人類学、教育学]

自然・情報科学系[医療データサイエンスⅠ(DS基礎)、医療データサイエンスⅡ(AI基礎)]

食の安全管理学	食品栄養学
	保健機能食品学

関連職種連携ワーク	関連職種連携実習
-----------	----------

検査機器学・情報システム学総論

臨床検査医学総論	総合病態学演習
----------	---------

病理検査学実習Ⅱ(応用)

医動物検査学演習

臨床化学検査学実習

遺伝子検査学実習	分子病態検査学演習
----------	-----------

輸血検査学実習

移植検査学

超音波画像検査学

超音波検査学実習

精度管理学

臨床検査統計学

検査管理運営学

医療安全管理学

臨地実習

先端臨床検査学

卒業研究

医学検査特論Ⅰ(応用)

医学検査特論Ⅱ(発展)

8-4-11 カリキュラムマップ（医学検査学科）

		ディプロマ・ポリシー（DP）			
		【DP1】	【DP2】	【DP3】	
		DP1: 臨床検査技師を志す者として、広い教養と生命の尊重を基礎とした豊かな人間性を身につけ、人間理解、国際的感覚を養い、医療関連分野での倫理的側面を理解した医療従事者として行動できる。	DP2: 臨床検査における基本的知識及び技術を修得し、専門医療職の立場のみならず患者の立場に立って、他者を思いやり、自らの考えを表現できる。	DP3: チーム医療に積極的に参加できる幅広い教養を身に付け、自職種の専門性に誇りを持って他職種を理解し、調整・連携の役割を果たすための適切な他部門とのコミュニケーション能力を身につけている。	
各 年 次 の 教 育 目 標 （ 制 定 目 標 ・ SBOs）	1 年 次	【SBOs1/CP1】 保健医療福祉に関する基本的知識や異文化に関する知識を修得する	【DP1/SBOs1/CP1】 我が国の社会福祉・医療保障政策の知識 大学入門講座－医療人・社会人として成長するために－ 臨床医学概論 文学論 死生学・死を通して生を考える 演劇論 日本近現代史 文化人類学 教育学 経済の仕組み 社会学 国際関係論 ボランティア論 国際医療福祉論 組織運営管理論 日本国憲法 法学 医学/医療史 医学英語Ⅰ・Ⅱ 英会話 中国語 韓国語 資格英語Ⅰ(Primary) 資格英語Ⅱ(Basic) メディカルマナー入門 医療福祉教養講義 郷土論－大川学	【DP2/SBOs1/CP1】 大学入門講座－医療人・社会人として成長するために－ 心理学 哲学 人間学	【DP3/SBOs1/CP1】
		【SBOs1/CP2】 保健医療福祉に関する基本的知識を修得し、臨床検査とのかかわりを理解する	【DP1/SBOs1/CP2】 病理学	【DP2/SBOs1/CP2】 臨床医学概論 保健医療福祉制度論 救急医学	【DP3/SBOs1/CP2】 大学入門講座－医療人・社会人として成長するために－ 生理検査学Ⅰ
		【SBOs1/CP3】 臨床検査に必要な論理的思考を養い、コミュニケーションスキルを身につける	【DP1/SBOs1/CP3】 臨床心理学概論 コミュニケーション概論 雑談と傾聴～話す力と聴く力～	【DP2/SBOs1/CP3】 検査学入門 生化学実習 病理学	【DP3/SBOs1/CP3】 検査学入門
		【SBOs1/CP4】 多様な学問領域に関心を持ち、主体的な学びを通して、使命感、倫理観、責任感、思いやりの心などの豊かな人間性を獲得する	【DP1/SBOs1/CP4】 医療必修－医療の倫理とプロ意識・医療情報－ 基礎生物学 倫理学 宗教学 物理学 数学 健康科学理論 健康科学実践	【DP2/SBOs1/CP4】	【DP3/SBOs1/CP4】 我が国の社会福祉・医療保障政策の知識 臨床医学概論
	2 年 次	【SBOs2/CP1】 臨床検査専門分野および関連領域における基礎的な知識を修得する	【DP1/SBOs2/CP1】 内科学 臨床神経学	【DP2/SBOs2/CP1】 臨床化学検査学Ⅰ(総論) 生理検査学Ⅱ(各論) 一般検査学Ⅱ(形態) 遺伝子検査学 輸血検査学 シミュレーション医学検査演習	【DP3/SBOs2/CP1】 リスクマネジメント論
		【SBOs2/CP2】 臨床検査に関する応用的知識を身につける。	【DP1/SBOs2/CP2】	【DP2/SBOs2/CP2】 関連職種連携論	【DP3/SBOs2/CP2】 内科学 公衆衛生学
		【SBOs2/CP3】 臨床検査データと情報を収集し、他部門とチームを構築して問題解決ができる	【DP1/SBOs2/CP3】 関連職種連携論	【DP2/SBOs2/CP3】 生理検査学Ⅱ(各論) 一般検査学Ⅱ(形態) 遺伝子検査学 輸血検査学	【DP3/SBOs2/CP3】
		【SBOs2/CP4】 他者と協働し、チームの一員として貢献できる	【DP1/SBOs2/CP4】 海外保健福祉事情Ⅱ(講義) 海外保健福祉事情Ⅲ(実習) 実用英会話 実用中国語会話 実用韓国語会話	【DP2/SBOs2/CP4】 細胞診断学 シミュレーション医学検査演習	【DP3/SBOs2/CP4】 海外保健福祉事情Ⅰ(講義) 海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携論
	3 年 次	【SBOs3/CP1】 臨床検査専門分野における専門的な知識や技術を修得する	【DP1/SBOs3/CP1】 臨地実習	【DP2/SBOs3/CP1】	【DP3/SBOs3/CP1】 臨床化学検査学実習
		【SBOs3/CP2】 臨床検査に関する応用的知識を修得すると共に、実践的な実習を行う。	【DP1/SBOs3/CP2】	【DP2/SBOs3/CP2】 総合病態学演習	【DP3/SBOs3/CP2】
		【SBOs3/CP3】 各臨床検査データの重要性を理解し、臨床の場に応用できる統合できる知識と技術を身につける	【DP1/SBOs3/CP3】	【DP2/SBOs3/CP3】 臨地実習	【DP3/SBOs3/CP3】
		【SBOs3/CP4】 臨床検査の発展的な基礎知識を修得し、専門職業人としての倫理観を養い、関連する職種間との連携に貢献できる	【DP1/SBOs3/CP4】 関連職種連携ワーク	【DP2/SBOs3/CP4】 関連職種連携ワーク	【DP3/SBOs3/CP4】 関連職種連携ワーク 臨地実習
	4 年 次	【SBOs4/CP1】 基本的な実践技術および施設における検査部門の運営法などを学ぶ	【DP1/SBOs4/CP1】	【DP2/SBOs4/CP1】 医療安全管理学	【DP3/SBOs4/CP1】 医療安全管理学 検査管理運営学
		【SBOs4/CP2】 専門分野の研究に取り組むとともに臨床検査特論で臨床検査全体について再点検を行う	【DP1/SBOs4/CP2】	【DP2/SBOs4/CP2】	【DP3/SBOs4/CP2】
		【SBOs4/CP3】 臨床的な疑問点を探索し、その解決を図るための研究デザインや研究チームを構築することができる。また、計画に基づいた研究の実施及び結果の臨床応用について検討することができる	【DP1/SBOs4/CP3】 関連職種連携実習	【DP2/SBOs4/CP3】 食品栄養学 保健機能食品学 食の安全管理学 関連職種連携実習	【DP3/SBOs4/CP3】 関連職種連携実習
		【SBOs4/CP4】 臨床検査技術を発展させるための知識や技術を修得し、臨床検査の発展に貢献できる能力を備える	【DP1/SBOs4/CP4】 食品栄養学 保健機能食品学 食の安全管理学	【DP2/SBOs4/CP4】	【DP3/SBOs4/CP4】

ディプロマ・ポリシー(DP)			
【DP4】 DP4: 臨床検査の正確かつ高精度な検査情報を提供するために必要な基礎的な知識および技術を身につけている。	【DP5】 DP5: 臨床検査に必要な専門的な知識および技術と実践能力を身に付け、検査データを総合的に解析する力を培い、臨床診断に寄与する検査能力を身につけている。	【DP6】 DP6: 問題解決に対する柔軟な応用力や想像力を身につけ、社会に貢献できる新たな技術や機器開発に取り組む基礎的能力を身につけている。	【DP7】 DP7: 医療の高度化に対応し、各自の実践の中から研究の課題を発見し、それを新しい知識を追求(研究活動)に発展させることができる。
【DP4/SBOs1/CP1】	【DP5/SBOs1/CP1】	【DP6/SBOs1/CP1】	【DP7/SBOs1/CP1】
血液検査Ⅰ(総論) 微生物検査Ⅰ(総論) 微生物検査Ⅱ(各論) 基礎化学		基礎化学	
【DP4/SBOs1/CP2】	【DP5/SBOs1/CP2】	【DP6/SBOs1/CP2】	【DP7/SBOs1/CP2】
生化学 遺伝学 解剖学Ⅰ(総論)、Ⅱ(各論) 解剖組織学実習 分析化学 検査学入門 一般検査Ⅰ(分析) 生理検査Ⅰ(総論) 薬理学	生理学 生化学 遺伝学 分析化学 一般検査Ⅰ(分析) 生理検査Ⅰ(総論) 血液検査Ⅰ(総論) 微生物検査Ⅰ(総論) 微生物検査Ⅱ(各論) 薬理学	分析化学	
【DP4/SBOs1/CP3】	【DP5/SBOs1/CP3】	【DP6/SBOs1/CP3】	【DP7/SBOs1/CP3】
生化学実習	医用工学・情報概論 生化学実習	血液検査Ⅰ(総論)	
【DP4/SBOs1/CP4】	【DP5/SBOs1/CP4】	【DP6/SBOs1/CP4】	【DP7/SBOs1/CP4】
病理学 基礎生物学	データテラシー	データテラシー	
【DP4/SBOs2/CP1】	【DP5/SBOs2/CP1】	【DP6/SBOs2/CP1】	【DP7/SBOs2/CP1】
免疫検査学 臨床化学検査Ⅰ(総論) 生理検査Ⅱ(各論) 細胞診断検査学 病理検査学 一般検査Ⅱ(形態) 遺伝子検査学 輸血検査学 シミュレーション医学検査演習	免疫検査学 臨床化学検査Ⅰ(総論) 病理検査学 統計学		
【DP4/SBOs2/CP2】	【DP5/SBOs2/CP2】	【DP6/SBOs2/CP2】	【DP7/SBOs2/CP2】
一般検査学実習Ⅰ(分析) 一般検査学実習Ⅱ(形態) 血液検査Ⅱ(臨床) 免疫検査学 臨床化学検査Ⅱ(各論)	血液検査Ⅱ(臨床) 免疫検査学 臨床化学検査Ⅱ(各論) 生理検査Ⅱ(各論) 一般検査Ⅱ(形態) 遺伝子検査学 輸血検査学	臨床化学検査Ⅱ(各論)	
【DP4/SBOs2/CP3】	【DP5/SBOs2/CP3】	【DP6/SBOs2/CP3】	【DP7/SBOs2/CP3】
病理検査学実習Ⅰ(基礎) 医用工学・情報実習 血液検査学実習Ⅰ(基礎) 血液検査学実習Ⅱ(応用) 免疫検査学実習 微生物学実習Ⅰ(基礎) 微生物学実習Ⅱ(応用)	一般検査学実習Ⅰ(分析) 一般検査学実習Ⅱ(形態) 免疫検査学実習 生理検査学実習Ⅰ(基礎) 生理検査学実習Ⅱ(応用)	一般検査学実習Ⅰ(分析) 一般検査学実習Ⅱ(形態) 免疫検査学実習 生理検査学実習Ⅰ(基礎) 医用工学・情報実習 病理検査学実習Ⅰ(基礎) 血液検査学実習Ⅱ(応用) 微生物学実習Ⅰ(基礎) 微生物学実習Ⅱ(応用) 免疫検査学実習	
【DP4/SBOs2/CP4】	【DP5/SBOs2/CP4】	【DP6/SBOs2/CP4】	【DP7/SBOs2/CP4】
細胞診断学演習			
【DP4/SBOs3/CP1】	【DP5/SBOs3/CP1】	【DP6/SBOs3/CP1】	【DP7/SBOs3/CP1】
臨床検査医学総論 移植検査学 超音波画像検査学 臨床検査統計学 検査機器学・情報システム学総論 臨床化学検査学実習 病理検査学実習Ⅱ(応用)	移植検査学 精度管理学 超音波画像検査学 臨床化学検査学実習	検査機器学・情報システム学総論	検査機器学・情報システム学総論 分子病理検査学演習
【DP4/SBOs3/CP2】	【DP5/SBOs3/CP2】	【DP6/SBOs3/CP2】	【DP7/SBOs3/CP2】
輸血検査学実習 臨床化学検査学実習 超音波検査学実習 臨地実習	臨床化学検査学実習 超音波検査学実習 病理検査学実習Ⅱ(応用) 遺伝子検査学実習 医動物検査学演習	臨床化学検査学実習 総合病態学演習	臨地実習
【DP4/SBOs3/CP3】	【DP5/SBOs3/CP3】	【DP6/SBOs3/CP3】	【DP7/SBOs3/CP3】
精度管理学	臨床検査統計学 臨床検査医学総論 輸血検査学実習 分子病理検査学演習	輸血検査学実習 超音波検査学実習	総合病態学演習
【DP4/SBOs3/CP4】	【DP5/SBOs3/CP4】	【DP6/SBOs3/CP4】	【DP7/SBOs3/CP4】
	検査機器学・情報システム学総論	臨床検査医学総論 検査機器学・情報システム学総論	臨床検査統計学
【DP4/SBOs4/CP1】	【DP5/SBOs4/CP1】	【DP6/SBOs4/CP1】	【DP7/SBOs4/CP1】
医療安全管理学			
【DP4/SBOs4/CP2】	【DP5/SBOs4/CP2】	【DP6/SBOs4/CP2】	【DP7/SBOs4/CP2】
検査管理運営学 医学検査特論Ⅰ(応用) 医学検査特論Ⅱ(発展)	医学検査特論Ⅰ(応用) 医学検査特論Ⅱ(発展)	卒業研究	
【DP4/SBOs4/CP3】	【DP5/SBOs4/CP3】	【DP6/SBOs4/CP3】	【DP7/SBOs4/CP3】
		検査管理運営学	卒業研究
【DP4/SBOs4/CP4】	【DP5/SBOs4/CP4】	【DP6/SBOs4/CP4】	【DP7/SBOs4/CP4】
	卒業研究	先端臨床検査学	先端臨床検査学

8-5 薬学科

8-5-1 教育研究上の目的

福岡薬学部教育研究上の目的

薬学の分野について、理論及び応用の研究を行うとともに、十分な知識と技能を有し、薬学の実践を担いうる応用能力及び豊かな人間性を備えた医療人としての薬剤師等の人材を育成することを目的とする。

福岡薬学部薬学科教育研究上の目的

薬学科は、薬学の各分野について、理論及び応用の研究を行うとともに、「くすり」に対する専門的な知識と、臨床現場で発揮される高い能力、技術を備え、調剤した「くすり」の適切な説明や薬物療法について、的確なアドバイスができる薬剤師の育成を目的とする。

8-5-2 アドミッションポリシー

1. 求める学生像

本学が入学者に求める要件を十分理解し、薬剤師として、豊かな心、コミュニケーション能力、新しい知識の追求に向けた関心や意欲を持ち、日々進化する薬物療法における高度化・専門化及び国際化に対応し、学びを深めるための科学的根拠に基づく論理的な思考力を身につけることが期待できる人

2. 薬学科の入学者に求める要件

1) 知識・技能

高等学校等で学んだ教科に相応した基礎知識と、化学等の理数系科目の修得を通して身につけた科学的な思考力・理解力、また、語学系科目（英語）の修得を通して身につけた読解力を有していること。

2) 思考力・判断力・表現力

薬剤師に必要な新しい知識を学ぶ意欲及び主体的な目標設定をもとに努力を継続する力、自ら思考し、判断したことを適切に表現する力を有していること。

3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

本学の基本理念及び教育理念を十分理解し、薬剤師として「共に生きる社会」の実現に寄与する意志を持つ人、他者と協調的に連携を図り、地域とのつながりを大切に考え、薬学の発展に貢献したいという強い意欲をもとに自他ともに研鑽しあう意志を持つ人であること。

8-5-3 ディプロマポリシー

- DP1：薬学に関する基礎および専門的な知識・技能をバランスよく有している。
- DP2：問題の発見から解決までの一連のプロセスの中で、必要な情報を収集し、科学的根拠に基づき論理的に考え行動できる。
- DP3：医療人を目指す者として、人間理解、国際的感覚を養い、相手に寄り添ったコミュニケーションを実施できる。
- DP4：薬剤師を目指す者として、使命感・倫理観・責任感を養い、他職種との連携を通して薬剤師の役割を理解、実践できる。
- DP5：保健・医療・福祉について、日本にとどまらず世界の情勢を広く理解し、地域に貢献する姿勢と実践能力を有している。
- DP6：医療の担い手を目指す者として、幅広い教養と豊かな人間性を育み、生涯にわたって自他ともに研鑽しあえる姿勢および意欲を有している。
- DP7：生命科学的知識および研究マインドを基に、薬物療法を実践する能力を有している。

8-5-4 カリキュラムポリシー

CP1：

- a. 薬学の専門家として必要な知識・技能を修得するために、講義、演習、実習を相互に関連付けて科目を配置する。
- b. 薬物治療の実践的能力を高めるために、知識・技能を統合した能動的学修を実施する。

CP2：

- a. 問題発見から解決する能力および科学的根拠に基づいた論理的思考力を養うために、問題解決型学修（PBL）をはじめとする能動的学修を講義、演習、実習で実施する。また、参加型実践的科目として卒業研究を配置する。
- b. 薬剤師として臨床での総合的实践能力を身につけるために、参加体験型学修である実務実習を行う。

CP3：

- a. 医療人としてのコミュニケーション能力を養成するために、ロールプレイを含む参加型実習を行う。
- b. 薬剤師の役割を理解するために、他職種との連携教育を実施する。

CP4：

- a. 薬剤師としての使命感・倫理観・責任感および豊かな人間性を涵養するために、スモールグループディスカッション（SGD）等を含めた講義、演習、体験実習を配置する。
- b. 国際的な感覚を養うために、世界の保健福祉事情に触れ、語学能力を高める機会を設ける。
- c. 生涯にわたり自ら研鑽できる医療の担い手になるために、ポートフォリオを用いた形成的自己評価の機会を設ける。

8-5-5 学年ごとの教育目標

1 学年：

- ・薬学で必要となる基礎科目（化学系・物理系・生物系）の知識・技能を修得するとともに、問題発見から解決のプロセスに関する知識を修得する（CP1a, CP2a）
- ・社会人・医療人としてのコミュニケーションに関する知識を修得する（CP3a）
- ・薬剤師を含む医療職の職能を理解するとともに、薬剤師としての使命感・倫理観・責任感を養う（CP3b, CP4a）
- ・総合教育科目（人間系、社会系、自然・情報系、総合系）を通して幅広い教養を身につけ、豊かな人間性を育む（CP4a）
- ・外国語を学修するとともに、海外の保健福祉事情に触れる（CP4b）

2 学年：

- ・基礎薬学科目の知識・技能を広く修得するとともに、衛生薬学・医療薬学科目の知識・技能を修得する（CP1a）
- ・与えられた課題に関するデータを能動的に収集・分析・考察する能力を修得する（CP2a）
- ・コミュニケーション実習を通してコミュニケーションスキルの基礎を修得する（CP3a）
- ・多職種の中での薬剤師の役割を理解する（CP3b）
- ・語学能力を高め、医療英語を修得する（CP4b）

3 学年：

- ・衛生薬学・医療薬学科目の知識・技能を広く修得する（CP1a）
- ・与えられた課題に関するデータを能動的に収集・分析・考察する能力を修得する（CP2a）
- ・医療コミュニケーションを修得するとともに、多職種の中での薬剤師の役割を実践することで専門領域を超えて問題を探求する姿勢を身につけ、薬剤師としての使命感・倫理観・責任感を養う（CP3a, CP3b, CP4a）
- ・組換え DNA・動物実験教育訓練を通して実習および卒業研究で必要となる研究倫理を理解する（CP4a）
- ・海外の保健福祉事情を知る（CP4b）

4 学年：

- ・基礎薬学、衛生薬学、医療薬学を関連付けて修得する（CP1a）
- ・4 年次までに修得した知識、技能を活用し、薬物治療を適切に評価する（CP1b）
- ・自ら問題を発見し、解決に必要なデータを能動的に収集・分析・考察する能力を修得する（CP2a）
- ・医療コミュニケーションを修得するとともに、多職種の中での薬剤師の役割を実践することで専門領域を超えて問題を探求する姿勢を身につけ、薬剤師としての使命感・倫理観・責任感を養う（CP3a）
- ・研究倫理講習を通して卒業研究で必要となる研究倫理への理解を深める（CP4a）

5 学年：

- ・実務実習（病院・薬局）を通して薬剤師（実習生）として使命感・倫理観・責任感をもって行動するとともに、臨床で必要となる実践的能力を身につける（CP1b, CP2b, CP4a）
- ・科学的根拠に基づいて課題を発見したり、問題点を解決する能力を修得する（CP2a）
- ・英語による医療コミュニケーションを実践する（CP3a, CP4b）

6 学年：

- ・薬学に関する全ての知識を統合し、患者に対する適切な薬物治療を選択・実践できる応用力を修得する（CP1a, CP1b）
- ・科学的根拠に基づいて課題を発見したり、問題点を解決する能力を修得する（CP2a）
- ・卒業研究発表および実務実習報告会などを通して取り組んだ問題、課題などを薬学的知見および科学的根拠に基づいてまとめ、プレゼンテーションする能力を修得する（CP2a）
- ・学内での講義・演習・実習および実務実習（病院・薬局）で養った薬剤師としての倫理観・責任感・使命感を総合的に身につける（CP4a）

8-5-6 卒業要件（薬学科 2025（令和7）年度入学生）

下記に定める履修すべきすべての必修科目 181 単位（留学生は 182 単位）を修得していること。
必修科目と選択科目の総単位数が 191 単位以上（留学生は 191 または 193 単位以上）である場合には卒業できる。

なお、必修科目については、「8-5-9 授業科目一覧」を参照してください。

(1) 卒業に必要な単位数

授業科目の区分			最低単位数	
			必修	選択
総合教育科目	人 間 系		4単位	10単位以上 内、総合教育科目 から3単位以上 (9または11 単位以上 内、3または5 単位は日本語科目の 選択科目)※1
	社 会 系		5単位	
	自 然 ・ 情 報 系		8単位	
	総 合 系		1単位	
	外 国 語 系		4単位 (5単位)※1	
	保 健 体 育 系			
	小 計		22単位 (23単位)※1	
専門教育科目	専門基礎科目	学 部 共 通	5単位	
		学科専門基礎	12単位	
		小 計	17単位	
	専 門 科 目		142単位	
	小 計		159単位	10単位以上 (9または11単位以上)※1
合 計			181単位 (182単位)※1	10単位以上 (9または11単位以上)※1
総 計			191単位以上 (191または 193単位以上)	

※1 () 内の単位は留学生の単位を表す。

留学生については、「8-5-8 科目履修条件（留学生の日本語履修について）」を参照すること。

8-5-7 進級条件

(1) 1 学年から 2 学年への進級条件

- ①1 学年必修科目 (35 単位) のうち、すべての実習科目 (2 単位) を含む 29 単位以上修得していること。

(2) 2 学年から 3 学年への進級条件

- ①1 学年必修科目 (35 単位) のすべてを修得していること。
- ②2 学年必修科目 (45 単位) のうち、すべての実習科目 (5 単位) を含む 39 単位以上修得していること。
- ③以上、①②の両方の条件を満たしていること。

(3) 3 学年から 4 学年への進級条件

- ①2 学年までの必修科目 (80 単位) のすべてを修得していること。
- ②3 学年必修科目 (40 単位) のうち、すべての実習科目 (4 単位) を含む 34 単位以上修得していること。
- ③以上、①②の両方の条件を満たしていること。

(4) 4 学年から 5 学年への進級条件

- ①3 学年までの必修科目 (120 単位) のすべてを修得していること。
- ②4 学年必修科目 26 単位のうち、「臨床薬学Ⅳ (チーム医療・地域医療の実践その前に)」を除く 25 単位のすべてを修得していること。
- ③以上、①②の両方の条件を満たしていること。

(5) 進級した場合

前年次の不合格必修科目については、受講し、定期試験を受け、単位を修得すること。

(6) 留年した場合

- ①合格した科目の単位は認められる。
- ②不合格の必修科目は再履修しなければならない。
- ③不合格になった選択科目は、新たに希望して選択するものとする。
- ④在学年限について：同一学年における在学年数を 2 年以内とする (休学期間を除く)
但し、5、6 学年は通算で 4 年間在籍できる。

8-5-7 進級条件（留学生）

(1) 1 学年から 2 学年への進級条件

- ①1 学年で履修できる外国語系科目を除く必修科目 33 単位と日本語科目 2 単位（必修/選択を問わない）を合わせた 35 単位のうち、すべての実習科目（2 単位）を含む 29 単位以上の必修科目を修得していること。

(2) 2 学年から 3 学年への進級条件

- ①1 学年で履修できる外国語系科目および留学生用日本語科目を除く必修科目 33 単位を修得していること。
- ②2 学年で履修できる外国語系科目を除く必修科目 43 単位のうち、すべての実習科目（5 単位）を含む 37 単位以上修得していること。
- ③日本語必修科目 2 単位以上を修得していること。
- ④以上、①②③の全ての条件を満たしていること。

(3) 3 学年から 4 学年への進級条件

- ①2 学年までに履修できる外国語系科目および留学生用日本語科目を除く必修科目 76 単位を修得していること。
- ②3 学年で履修できる必修科目 40 単位のうち、すべての実習科目（4 単位）を含む 34 単位以上修得していること。
- ③日本語必修科目 4 単位以上を修得していること。
- ④以上、①②③の全ての条件を満たしていること。

(4) 4 学年から 5 学年への進級条件

- ①3 学年までに履修できる外国語系科目および留学生用日本語科目を除く必修科目 116 単位を修得していること。
- ②4 学年必修科目 26 単位のうち、「臨床薬学Ⅳ（チーム医療・地域医療の実践その前に）」を除く 25 単位のすべてを修得していること。
- ③4 学年終了時までには日本語必修科目 5 単位すべてを修得していること。
- ④以上、①②③のすべての条件を満たしていること。

(5) 進級した場合

前年次の不合格必修科目については、受講し、定期試験を受け、単位を修得すること。

(6) 留年した場合

- ①合格した科目の単位は認められる。
- ②不合格の必修科目は再履修しなければならない。
- ③不合格になった選択科目は、新たに希望して選択するものとする。
- ④在学年限について：同一学年における在学年数を 2 年以内とする（休学期間を除く）。
但し、5、6 学年は通算で 4 年間在籍できる。

8-5-8 科目履修条件

(1) 5、6 学年において実務実習を履修するための条件

- ① 共用試験（CBT、OSCE）に合格すること。
- ② 実務実習生にふさわしい知識・技能・態度のバランスがとれていること。

(2) 留学生の日本語履修について

科目名	配当年次	単位			時間数
		必修	選択	自由	
作文・読解Ⅰ（入門）	1 2 3 4 5 6		1		30
作文・読解Ⅱ（応用）	1	1			30
作文・読解Ⅲ（完成）	1 2 3 4 5 6		1		30
文法・語彙Ⅰ（入門）	1 2 3 4 5 6		1		30
文法・語彙Ⅱ（応用）	1	1			30
文法・語彙Ⅲ（完成）	1 2 3 4 5 6		1		30
発表・討論Ⅰ（応用）	1	1			30
発表・討論Ⅱ（完成）	1 2 3 4 5 6		1		30
医療福祉専門漢字	1	1			30
医療福祉専門語彙	1	1			30
日本語基礎Ⅰ（初級）	1 2 3 4 5 6			1	30
日本語基礎Ⅱ（初級）	1 2 3 4 5 6			1	30

(3) 日本語科目の区分

必修科目＝必ず履修する科目（留学生全員、卒業要件に必要な単位）

選択科目＝必要に応じて履修する科目

自由科目＝必要に応じて履修する科目（単位の修得は可能だが、修得した単位は卒業要件に含まない）

(4) 履修条件

外国語の履修については、原則として日本語科目を 10 単位修得すること。

- ① 10 単位の内 2 単位までは日本語科目以外の 外国語科目（母国語としない外国語に限る）をもって代えることができる。
- ② 「外国人のための日本語能力テスト」の得点により、最大 3 単位まで認定することができる。

8-5-9 授業科目一覧（総合教育科目：薬学科）

授業科目の 区分	科目名	配当 年次	単位数		時間数	①	②	③	④	⑤⑥	⑦	⑧	⑨	備考	履修 登録	確認
			必修	選択												
総合教育科目	人間系	文学論	1 2 3 4 5 6	2	30	K	P	—	0 1	01	—	7 7	C			
		演劇論	1 2 3 4 5 6	1	15	K	P	—	0 1	02	—	7 7	C			
		心理学	1	2	30	K	P	—	0 1	04	—	1 1	B			
		哲学	1 2 3 4 5 6	2	30	K	P	—	0 1	05	—	7 7	C			
		コミュニケーション概論	1	2	30	K	P	—	0 1	06	—	1 1	B			
		雑談と傾聴～話す力と聴く力～	1 2 3 4 5 6	2	30	K	P	—	0 1	07	—	7 7	C			
		人間学	1 2 3 4 5 6	2	30	K	P	—	0 1	08	—	7 7	C			
		倫理学	1 2 3 4 5 6	2	30	K	P	—	0 1	10	—	7 7	C			
		宗教学	1 2 3 4 5 6	2	30	K	P	—	0 1	11	—	7 7	C			
		日本近現代史	1 2 3 4 5 6	2	30	K	P	—	0 1	12	—	7 7	C			
		文化人類学	1 2 3 4 5 6	2	30	K	P	—	0 1	13	—	7 7	C			
		教育学	1 2 3 4 5 6	2	30	K	P	—	0 1	14	—	7 7	C			
		死生学－死を通して生を考える	1 2 3 4 5 6	2	30	K	P	—	0 1	16	—	7 7	C			
	社会系	法学	1	2	30	K	P	—	0 2	01	—	1 1	B			
		日本国憲法	1 2 3 4 5 6	2	30	K	P	—	0 2	02	—	7 7	C			
		社会学	1 2 3 4 5 6	2	30	K	P	—	0 2	06	—	7 7	C			
		国際関係論	1 2 3 4 5 6	2	30	K	P	—	0 2	23	—	7 7	C			
		国際医療福祉論	1 2 3 4 5 6	2	30	K	P	—	0 2	24	—	7 7	C			
		組織運営管理論	1 2 3 4 5 6	2	30	K	P	—	0 2	22	—	7 7	C			
		海外保健福祉事情Ⅰ（講義）	2	1	15	K	P	—	0 2	26	—	1 2	B			
		海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	2	1	45	K	P	—	0 2	27	—	1 2	H			
		我が国の社会福祉・医療保障政策の知識	1	1	30	K	P	—	0 2	28	—	1 1	E			
		ボランティア論	1 2 3 4 5 6	2	30	K	P	—	0 2	30	—	7 7	C			
		経済の仕組み	1 2 3 4 5 6	2	30	K	P	—	0 2	18	—	7 7	C			
	自然・情報系	数学	1	2	30	K	P	—	0 3	05	—	1 1	B			
		物理学	1 2 3 4 5 6	2	30	K	P	—	0 3	06	—	7 7	B			
		化学	1	2	30	K	P	—	0 3	09	—	1 1	A			
		生物学	1	2	30	K	P	—	0 3	12	—	1 1	A			
		データリテラシー	1	1	30	K	P	—	0 3	18	—	1 1	E			
		医療データサイエンスⅠ（DS基礎）	2 3 4 5 6	1	30	K	P	—	0 3	20	—	8 2	F			
		医療データサイエンスⅡ（AI基礎）	2 3 4 5 6	1	30	K	P	—	0 3	21	—	8 2	F			
		医療必修-医療の倫理とプロ意識・医療情報-	1	1	30	K	P	—	0 3	23	—	1 1	B			
		医学／医療史	1 2 3 4 5 6	2	30	K	P	—	0 3	24	—	7 7	C			
	総合系	大学入門講座－医療人・社会人として成長するために－	1	1	30	K	P	—	0 4	01	—	1 1	B			
		郷土論－大川学	1 2 3 4 5 6	1	15	K	P	—	0 4	02	—	7 7	C			
		医療福祉教養講義	1 2 3 4 5 6	1	15	K	P	—	0 4	03	—	7 7	C			
		メディカルマナー入門	1 2 3 4 5 6	2	30	K	P	—	0 4	04	—	7 7	C			
	外国語系	英語講読1 (Primary)	1	1	30	K	P	—	0 5	01	—	1 1	B	留学生は選択		
		英語講読2 (Basic)	2	1	30	K	P	—	0 5	02	—	1 2	B	留学生は選択		
		英語CALL1 (Primary)	1	1	30	K	P	—	0 5	05	—	1 1	B	留学生は選択		
		英語CALL2 (Basic)	2	1	30	K	P	—	0 5	06	—	1 2	B	留学生は選択		
		英会話	1 2 3 4 5 6	1	30	K	P	—	0 5	14	—	7 0	F			
		実用英会話	2 3 4 5 6	1	30	K	P	—	0 5	15	—	8 2	F			
		医学英語Ⅰ（入門）	1 2 3 4 5 6	1	30	K	P	—	0 5	20	—	7 0	C			
		医学英語Ⅱ（応用）	1 2 3 4 5 6	1	30	K	P	—	0 5	21	—	7 0	C			
		資格英語1 (Primary)	1 2 3 4 5 6	1	30	K	P	—	0 5	29	—	7 0	C			
		資格英語2 (Basic)	1 2 3 4 5 6	1	30	K	P	—	0 5	30	—	7 0	C			
		中国語	1 2 3 4 5 6	2	60	K	P	—	0 6	12	—	7 0	C			
		実用中国語会話	2 3 4 5 6	1	30	K	P	—	0 6	15	—	8 0	F			
		韓国語	1 2 3 4 5 6	2	60	K	P	—	0 6	16	—	7 0	C			
		実用韓国語会話	2 3 4 5 6	1	30	K	P	—	0 6	20	—	8 0	F			
	保健体育系	健康科学理論	1 2 3 4 5 6	1	15	K	P	—	0 7	01	—	7 7	C			
		健康科学実践	1 2 3 4 5 6	1	30	K	P	—	0 7	02	—	8 3	F			

8-5-9 授業科目一覧（専門教育科目：薬学科）

授業科目の区分	科目名	配当年次	単位数		時間数	①	②	③	④	⑤⑥	⑦	⑧	⑨	備考	履修登録	確認
			必修	選択												
専門基礎科目	救急医学(救命救急を含む)	2 3		1	15	K	P	—	1	0 02	—	7	2	C		
	リハビリテーション概論	1 2 3 4 5 6		2	30	K	P	—	1	0 04	—	7	7	C		
	微生物と病気	1 2 3 4 5 6		2	30	K	P	—	1	0 03	—	7	7	C		
	ケアマネジメント論	2 3 4 5 6		1	15	K	P	—	1	0 06	—	7	2	C		
	保健医療福祉制度論	1 2 3 4 5 6		2	30	K	P	—	1	0 09	—	7	7	C		
	臨床心理学概論	1	2		30	K	P	—	1	0 11	—	1	1	B		
	関連職種連携論	2	2		30	K	P	—	1	0 05	—	1	2	B		
	関連職種連携ワーク	3	1		30	K	P	—	1	0 14	—	1	3	E		
	関連職種連携実習	5		1	45	K	P	—	1	0 15	—	7	5	H		
	リスクマネジメント論	3 4 5 6		2	30	K	P	—	1	0 16	—	7	3	C		
	医療関連法規Ⅰ(医薬品全般に関わる法律)	3	1		15	K	P	—	2	B 01	—	2	3	A		
	医療関連法規Ⅱ(医薬品開発と薬害に関する法律の理解)	4	1		15	K	P	—	2	B 02	—	2	4	A		
	薬学演習Ⅰ(物理・化学・生物:基礎)	2	1		30	K	P	—	2	H 01	—	2	2	D		
	薬学演習Ⅱ(物理・化学・生物:応用)	3	1		30	K	P	—	2	H 02	—	2	3	D		
	薬学演習Ⅲ(医療倫理・ヒューマンズム)	3	1		30	K	P	—	2	H 03	—	2	3	D		
	薬学計算	2		1	30	K	P	—	2	C 31	—	8	2	D		
	病原微生物学	2	2		30	K	P	—	2	C 01	—	2	2	A		
	コミュニケーション実習	2	1		45	K	P	—	2	B 03	—	2	2	G		
	基礎薬学実習	1	1		45	K	P	—	2	C 02	—	2	1	G		
	公衆衛生学Ⅰ(保健統計、疫学、制度)	2	2		30	K	P	—	2	E 01	—	2	2	A		
	公衆衛生学Ⅱ(感染症と予防)	3	1		15	K	P	—	2	E 02	—	2	3	A		
専門教育科目	薬学概論	1	2		30	K	P	—	3	B 01	—	2	1	A		
	基礎統計学	1	1		15	K	P	—	3	B 02	—	2	1	A		
	有機化学Ⅰ(脂肪族化合物1)	1	2		30	K	P	—	3	C 01	—	2	1	A		
	有機化学Ⅱ(脂肪族化合物2)	2	2		30	K	P	—	3	C 02	—	2	2	A		
	有機化学Ⅲ(芳香族化合物)	2	2		30	K	P	—	3	C 03	—	2	2	A		
	生物有機化学	3	1		15	K	P	—	3	C 04	—	2	3	A		
	生薬学	2	2		30	K	P	—	3	C 05	—	2	2	A		
	天然物化学	2	1		15	K	P	—	3	C 06	—	2	2	A		
	医薬品構造化学Ⅰ(コア構造と作用機構)	4	1		15	K	P	—	3	C 07	—	2	4	A		
	医薬品構造化学Ⅱ(代表的医薬品の構造と作用)	6	1		15	K	P	—	3	C 08	—	2	6	A		
	医薬品構造解析演習	2	1		30	K	P	—	3	C 09	—	2	2	D		
	有機化学演習	1		1	30	K	P	—	3	C 10	—	8	1	F		
	分析化学Ⅰ(化学平衡と滴定)	1	2		30	K	P	—	3	C 11	—	2	1	A		
	分析化学Ⅱ(機器分析)	2	2		30	K	P	—	3	C 12	—	2	2	A		
	分析化学Ⅲ(分離分析と臨床分析)	3	2		30	K	P	—	3	C 13	—	2	3	A		
	薬品物理化学Ⅰ(物性とエネルギー)	1	2		30	K	P	—	3	C 14	—	2	1	A		
	薬品物理化学Ⅱ(平衡と変化)	2	2		30	K	P	—	3	C 15	—	2	2	A		
	放射化学	2	2		30	K	P	—	3	C 16	—	2	2	A		
	生化学Ⅰ(生体分子)	1	2		30	K	P	—	3	C 17	—	2	1	A		
	生化学Ⅱ(生体エネルギー・代謝)	2	2		30	K	P	—	3	C 18	—	2	2	A		
	分子生物学	2	2		30	K	P	—	3	C 19	—	2	2	A		
	細胞生物学	2	1		15	K	P	—	3	C 20	—	2	2	A		
	解剖生理学Ⅰ(器官系概論、神経系等)	1	2		30	K	P	—	3	C 21	—	2	1	A		
	解剖生理学Ⅱ(循環器系、消化器系等)	2	2		30	K	P	—	3	C 22	—	2	2	A		
	がん薬物療法学	3	2		30	K	P	—	3	D 01	—	2	3	A		
	ゲノム医療	3	1		15	K	P	—	3	D 02	—	2	3	A		
	化学療法学	3	2		30	K	P	—	3	D 03	—	2	3	A		
	免疫学	3	2		30	K	P	—	3	D 23	—	2	3	A		
	疾病と病態生理学Ⅰ(神経精神系疾患、循環器系疾患等)	2	2		30	K	P	—	3	D 04	—	2	2	A		

8-5-9 授業科目一覧（専門教育科目：薬学科）

授業科目の 区分	科目名	配当 年次	単位数		時間数	①	②	③	④	⑤⑥	⑦	⑧	⑨	備考	履修 登録	確認
			必修	選択												
専門 教育 科目	疾病と病態生理学Ⅱ（代謝系疾患、消化器系疾患等）	2	2		30	K	P	—	3	D	05	—	2	2	A	
	薬理学Ⅰ（総論）	2	1		15	K	P	—	3	D	06	—	2	2	A	
	薬理学Ⅱ（末梢神経薬理、中枢神経薬理等）	2	2		30	K	P	—	3	D	07	—	2	2	A	
	薬理学Ⅲ（免疫・炎症薬理、循環器薬理等）	3	2		30	K	P	—	3	D	08	—	2	3	A	
	薬理学Ⅳ（呼吸器薬理、内分泌薬理等）	3	1		15	K	P	—	3	D	09	—	2	3	A	
	医薬品安全性学	4	2		30	K	P	—	3	D	10	—	2	4	A	
	臨床検査医学	4	2		30	K	P	—	3	D	11	—	2	4	A	
	薬物治療学Ⅰ（神経精神系疾患、内分泌系疾患等）	4	2		30	K	P	—	3	D	12	—	2	4	A	
	薬物治療学Ⅱ（循環器系疾患、呼吸器系疾患等）	4	2		30	K	P	—	3	D	13	—	2	4	A	
	薬物治療学Ⅲ（症例・病態解析）	6	1		30	K	P	—	3	D	14	—	2	6	D	
	物理薬剤学	3	1		15	K	P	—	3	D	15	—	2	3	A	
	製剤設計とDDS	3	2		30	K	P	—	3	D	16	—	2	3	A	
	臨床薬学Ⅰ（調剤の基礎）	3	2		30	K	P	—	3	F	01	—	2	3	A	
	臨床薬学Ⅱ（調剤の実践）	4	2		30	K	P	—	3	F	02	—	2	4	A	
	臨床薬学Ⅲ（薬物療法の実践）	4	2		30	K	P	—	3	F	03	—	2	4	A	
	臨床薬学Ⅳ（チーム医療・地域医療の実践その前に）	4 5	1		15	K	P	—	3	F	04	—	2	4	A	
	薬物動態学	3	2		30	K	P	—	3	D	17	—	2	3	A	
	臨床薬物動態学	4	2		30	K	P	—	3	D	18	—	2	4	A	
	医薬品情報学Ⅰ（医薬品情報の収集と活用）	3	2		30	K	P	—	3	D	19	—	2	3	A	
	医薬品情報学Ⅱ（EBMと臨床研究）	4	1		15	K	P	—	3	D	20	—	2	4	A	
	衛生化学Ⅰ（食品・栄養）	2	2		30	K	P	—	3	E	01	—	2	2	A	
	衛生化学Ⅱ（毒性・代謝）	3	2		30	K	P	—	3	E	02	—	2	3	A	
	環境衛生学	3	2		30	K	P	—	3	E	03	—	2	3	A	
	日本薬局方Ⅰ（通則、総則、一般試験法）	3	1		15	K	P	—	3	C	24	—	2	3	A	
	日本薬局方Ⅱ（代表的な医薬品の試験と生産管理）	6	1		15	K	P	—	3	C	25	—	2	6	A	
	漢方医学Ⅰ（漢方の基礎）	3	2		30	K	P	—	3	D	21	—	2	3	A	
	漢方医学Ⅱ（漢方の応用）	4		1	15	K	P	—	3	D	22	—	8	4	C	
	OTC医薬品概論	3	2		30	K	P	—	3	D	23	—	2	3	A	
	医療データサイエンス概論	4	1		15	K	P	—	3	B	03	—	2	4	A	
	医療データサイエンス演習	6	1		30	K	P	—	3	B	04	—	2	6	D	
	医薬品レギュラトリーサイエンス概論	6	1		15	K	P	—	3	B	05	—	2	6	A	
	化学系薬学実習Ⅰ（有機合成）	2	1		45	K	P	—	3	C	26	—	2	2	G	
	化学系薬学実習Ⅱ（天然資源）	2	1		45	K	P	—	3	C	27	—	2	2	G	
	物理系薬学実習	2	1		45	K	P	—	3	C	28	—	2	2	G	
	生物系薬学実習	3	1		45	K	P	—	3	D	24	—	2	3	G	
	分子生物学実習	3	1		45	K	P	—	3	C	29	—	2	3	G	
	免疫・微生物学実習	3	1		45	K	P	—	3	C	30	—	2	3	G	
	薬剤学実習	4	1		45	K	P	—	3	D	25	—	2	4	G	
	フィジカルアセスメント実習	4	1		45	K	P	—	3	D	26	—	2	4	G	
	衛生系薬学実習	3	1		45	K	P	—	3	E	04	—	2	3	G	
	早期体験実習	1	1		45	K	P	—	3	B	06	—	2	1	G	
	医療系薬学実習Ⅰ（調剤の基礎と情報収集）	4	1		45	K	P	—	3	F	05	—	2	4	G	
	医療系薬学実習Ⅱ（調剤の実践と服薬指導）	4	1		45	K	P	—	3	F	06	—	2	4	G	
	医療系薬学実習Ⅲ（実務実習で必要な基本的技能）	4	1		45	K	P	—	3	F	07	—	2	4	G	
	実務実習事前演習	4	2		60	K	P	—	3	H	01	—	2	4	D	
	薬局実務実習	5 6	10		450	K	P	—	3	F	08	—	3	5	G	
	病院実務実習	5 6	10		450	K	P	—	3	F	09	—	3	5	G	
	総合薬学演習Ⅰ（薬剤師の使命を含む基礎項目の確認）	6	1		30	K	P	—	3	H	02	—	3	6	D	
	総合薬学演習Ⅱ（理解力および問題解決能力の養成）	6	1		30	K	P	—	3	H	03	—	3	6	D	
	卒業研究	5 6	8		360	K	P	—	3	G	01	—	3	5	J	

8-5-10 履修系統図（薬学科）

ディプロマ・ポリシー

薬学科では所定の単位を修得し、次に掲げる学科の特性を考慮した学科ディプロマ・ポリシーを達成した学生に学位を授与する。

DP1: 薬学に関する基礎および専門的な知識・技能をバランスよく有している。

DP2: 問題の発見から解決までの一連のプロセスの中で、必要な情報を収集し、科学的根拠に基づき論理的に考え行動できる。

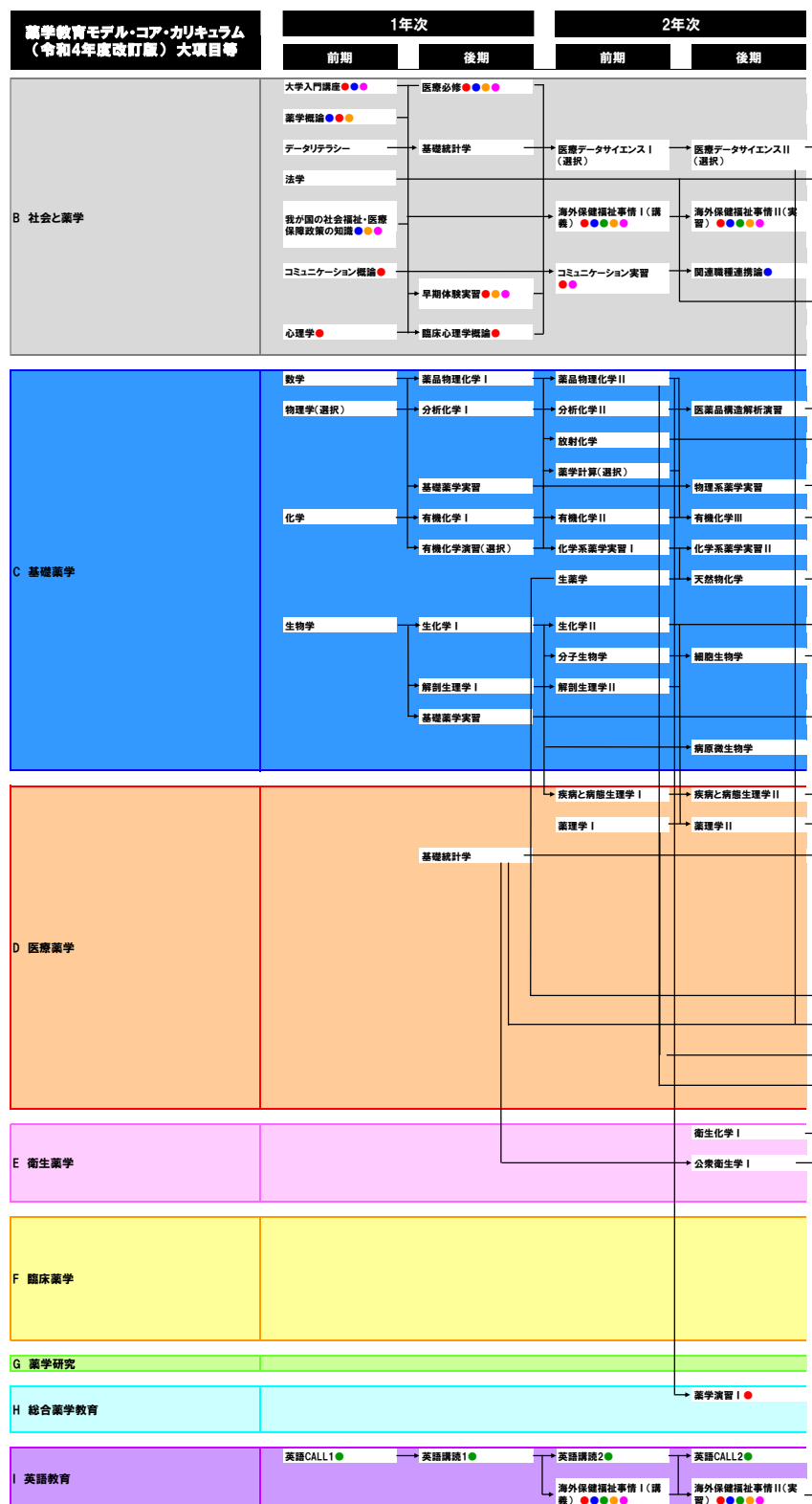
DP3: 医療人を担う者として、人間理解、国際感覚を養い、相手に寄り添ったコミュニケーションを実施できる。

DP4: 薬剤師を目指す者として、使命感・倫理観・責任感を養い、他職種との連携を通して薬剤師の役割を理解、実践できる。

DP5: 保健・医療・福祉について、日本にとどまらず世界の情勢を広く理解し、地域に貢献する姿勢と実践能力を有している。

DP6: 医療の担い手を目指す者として、幅広い教養と豊かな人間性を育み、生涯にわたって自己ともに研鑽しあえる姿勢および意欲を有している。

DP7: 生命科学的知識および研究マインドを基に、薬物療法を実践する能力を有している。



手業の成績は、授業参加態度、試験成績評価、レポート評価、課題達成状況などシラバスに記載される到達目標の手捗到達度を評価して判断する。

- D - 127

8-5-11 カリキュラムマップ（薬学科）

[illegible]

●:ヒューマニズム教育 ●:医療倫理教育 ●:語学教育 ●:医療安全教育 ●:問題解決能力養成教育 水色文字は選択科目 茶色文字は科目外

ディプロマ・ポリシー(DP)			
<p>[OP4]</p> <p>薬剤師としての使命感・倫理観・責任感を養い、他職種との連携を通して薬剤師の役割を理解、実践できる。</p>	<p>[OP5]</p> <p>保健・医療・福祉について、日本にとどまらず世界の情勢を広く理解し、地域に貢献する姿勢と実践能力を有している。</p>	<p>[OP6]</p> <p>医療の担い手として幅広い教養と豊かな人間性を育み、生涯にわたって自他ともに研鑽しあえる姿勢および意欲を有している。</p>	<p>[OP7]</p> <p>生命科学的知識および研究マインドを基に、薬物療法を実践する能力を有している。</p>
[OP4/CP1a, CP2a]	[OP5/CP1a, CP2a] 我が国の社会福祉・医療保障政策の知識●●●、	[OP6/CP1a, CP2a] 我が国の社会福祉・医療保障政策の知識●●●、有機化学演習	[OP7/CP1a, CP2a]
[OP4/CP3a]	[OP5/CP3a]	[OP6/CP3a]	[OP7/CP3a]
[OP4/CP3b, CP4a] 薬学概論●●●、早期体験実習●●●、大学入門講座-医療人・社会人として成長するために●●●、医療必修-医療の倫理とプロ意識・医療情報●●●●●	[OP5/CP3b, CP4a]	[OP6/CP3b, CP4a] 微生物と病気、リハビリテーション概論、保健医療福祉制度論	[OP7/CP3b, CP4a]
[OP4/CP4a]	[OP5/CP4a]	[OP6/CP4a] 法学、データリテラシー、医療必修-医療の倫理とプロ意識・医療情報●●●●●、心理学●、文字識、演習、言語、読解と読解→話す力と書く力、人間学、倫理学●、宗教学、日本近現代史、文化人類学、教育学、死生学-死を通して生を考える●、日本国憲法、社会学、国際関係論、国際医療福祉論、組織運営管理論、ボランティア論●、経済の仕組み、医学ノ医療史、臨床論～大川学～、医療福祉教育講座、デジタルマナー入門、健康科学理論、健康科学実証	[OP7/CP4a]
[OP4/CP4b]	[OP5/CP4b] 英語講義1●、英語CALL1●、英会話●、実用英会話●、医学英語1●、医学英語2●、資格英語●、資格英語2●、中国語●、実用中国語会話●、韓国語●、実用韓国語会話●	[OP6/CP4b]	[OP7/CP4b]
[OP4/CP1a]	[OP5/CP1a]	[OP6/CP1a] 医療データサイエンスⅠ(DS基礎)、医療データサイエンスⅡ(AI基礎)	[OP7/CP1a] 薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱ
[OP4/CP2a]	[OP5/CP2a]	[OP6/CP2a]	[OP7/CP2a]
[OP4/CP3a]	[OP5/CP3a]	[OP6/CP3] コミュニケーション実習●●	[OP7/CP3a]
[OP4/CP3b] 関連職種連携論●	[OP5/CP3b]	[OP6/CP3b] 関連職種連携論●、ケアマネジメント論	[OP7/CP3b]
[OP4/CP4b] 英語講義2●、英語CALL2●、海外保健福祉事情Ⅰ●●●●●、海外保健福祉事情Ⅱ●●●●●、英会話●、実用英会話●、医学英語1●、医学英語2●、資格英語●、資格英語2●、中国語●、実用中国語会話●、韓国語●、実用韓国語会話●	[OP5/CP4b] 英語講義2●、英語CALL2●、海外保健福祉事情Ⅰ●●●●●、海外保健福祉事情Ⅱ●●●●●、英会話●、実用英会話●、医学英語1●、医学英語2●、資格英語●、資格英語2●、中国語●、実用中国語会話●、韓国語●、実用韓国語会話●	[OP6/CP4b] 海外保健福祉事情Ⅰ●●●●●、海外保健福祉事情Ⅱ●●●●●	[OP7/CP4b]
[OP4/CP1a] ゲノム医療、臨床薬学Ⅰ●●●、医療関連法規Ⅰ●	[OP5/CP1a] 臨床薬学Ⅰ●●●	[OP6/CP1a] 救急医学、リスクマネジメント論	[OP7/CP1a] 化学療法学、薬理学Ⅲ、薬理学Ⅳ、がん薬物療法学、ゲノム医療、OTC医薬品概論●、漢方医学Ⅰ、医薬品情報学Ⅰ●●●、生物系薬学実習
[OP4/CP2a]	[OP5/CP2a]	[OP6/CP2a]	[OP7/CP2a] 生物系薬学実習、医薬品情報学Ⅰ●
[OP4/CP3a, CP3b, CP4a] 関連職種連携ワーク●●●●●、薬学演習Ⅲ●●●●●	[OP5/CP3a, CP3b, CP4a]	[OP6/CP3] 関連職種連携ワーク●●●●●	[OP7/CP3a, CP3b, CP4a]
[OP4/CP4a] 組織えDNA・動物実験教育訓練(講習会)●	[OP5/CP4a]	[OP6/CP4a]	[OP7/CP4a] 生物系薬学実習
[OP4/CP4b]	[OP5/CP4b] 薬学演習Ⅲ●●●●●	[OP6/CP4b]	[OP7/CP4b]
[OP4/CP1a] 実務実習事前演習●●●●●、臨床薬学Ⅱ●●●●●、臨床薬学Ⅳ●●●●●、医療関連法規Ⅱ●	[OP5/CP1a] 臨床薬学Ⅲ●●●●●、臨床薬学Ⅳ●●●●●	[OP6/CP1a] 実務実習事前演習●●●●●、臨床薬学Ⅱ●●●●●、臨床薬学Ⅲ●●●●●、臨床薬学Ⅳ●●●●●	[OP7/CP1a] 医薬品情報学Ⅱ、医薬品安全性学●●●、臨床検査医学、薬物治療学Ⅰ、薬物治療学Ⅱ、臨床薬学Ⅱ●●●●●、臨床薬学Ⅲ●●●●●、臨床薬学Ⅳ●●●●●、漢方医学Ⅱ
[OP4/CP1b] 医療系薬学実習Ⅰ●●●●●、医療系薬学実習Ⅱ●●●●●、医療系薬学実習Ⅲ●●●●●	[OP5/CP1b] 医療系薬学実習Ⅰ●●●●●、医療系薬学実習Ⅱ●●●●●、医療系薬学実習Ⅲ●●●●●	[OP6/CP1b] 臨床薬学Ⅲ●●●●●、医療系薬学実習Ⅱ●●●●●、医療系薬学実習Ⅲ●●●●●	[OP7/CP1b] 医薬品情報学Ⅱ、医療系薬学実習Ⅱ●●●●●、医療系薬学実習Ⅲ●●●●●
[OP4/CP2a] 医療系薬学実習Ⅲ●●●●●	[OP5/CP2a] 臨床薬学Ⅲ●●●●●	[OP6/CP2a] 臨床薬学Ⅲ●●●●●、医療系薬学実習Ⅰ●●●●●	[OP7/CP2a] 医療データサイエンス概論、医薬品情報学Ⅱ、フィジカルアセスメント実習、医療系薬学実習Ⅰ●●●●●
[OP4/CP3a] 医療系薬学実習Ⅰ●●●●●、医療系薬学実習Ⅱ●●●●●、医療系薬学実習Ⅲ●●●●●	[OP5/CP3a]	[OP6/CP3a]	[OP7/CP3a]
[OP4/CP4a] 研究マインド養成講座(講習会)●	[OP5/CP4a]	[OP6/CP4a]	[OP7/CP4a]
[OP4/CP1b, CP2b, CP4a] 薬局実務実習●●●●●、病院実務実習●●●●●、関連職種連携実習●●●●●	[OP5/CP1b, CP2b, CP4a] 薬局実務実習●●●●●、病院実務実習●●●●●、関連職種連携実習●●●●●	[OP6/CP1b, CP2b, CP4a] 薬局実務実習●●●●●、病院実務実習●●●●●、関連職種連携実習●●●●●	[OP7/CP1b, CP2b, CP4a] 薬局実務実習●●●●●、病院実務実習●●●●●、関連職種連携実習●●●●●
[OP4/CP2a]	[OP5/CP2a]	[OP6/CP2a]	[OP7/CP2a]
[OP4/CP3a, CP4a] 臨床薬学Ⅳ●●●●●	[OP5/CP3a, CP4a] 臨床薬学Ⅳ●●●●●	[OP6/CP3a, CP4a]	[OP7/CP3a, CP4a]
[OP4/CP1a, CP1b]	[OP5/CP1a, CP1b]	[OP6/CP1a, CP1b]	[OP7/CP1a, CP1b] 医薬品構造化学Ⅱ、薬物治療学Ⅲ●●●、医療データサイエンス演習
[OP4/CP2a]	[OP5/CP2a]	[OP6/CP2a]	[OP7/CP2a] 医療データサイエンス演習
[OP4/CP2a]	[OP5/CP2a]	[OP6/CP2a]	[OP7/CP2a]
[OP4/CP4a] 総合薬学演習Ⅰ●●●●●、総合薬学演習Ⅱ●●●●●	[OP5/CP4a] 総合薬学演習Ⅰ●●●●●、総合薬学演習Ⅱ●●●●●	[OP6/CP4a] 総合薬学演習Ⅰ●●●●●、総合薬学演習Ⅱ●●●●●	[OP7/CP4a]

8-6 アセスメント・ポリシー

本学では、教育成果を可視化し、教育改善を実施する目的で、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミSSION・ポリシー）を踏まえて、教育課程や学生の学修成果を測定・評価する方法（アセスメント・ポリシー）を定めています。測定・評価は入学時から卒業時までとし、機関レベル（大学）・教育課程レベル（学部・学科）・科目レベル（授業科目）の3段階で多面的に実施します。

1. 機関レベル（大学）

学生の卒業率、退学率、志望進路（就職率、進学率）等から教育課程及び学修成果の達成状況を評価します。

2. 教育課程レベル（学部・学科）

学部・学科の所定の教育課程における卒業要件達成状況（単位取得状況、GPA）、資格・免許の取得状況等から教育課程全体を通した学修成果の達成状況を評価します。

3. 科目レベル（授業科目）

シラバスで提示された学修目標に対する評価や授業評価アンケート等の結果から、科目ごとの学修成果の達成状況を評価します。

○具体的な評価方法等は次の表のとおりです。

一部、各学科により実施していない項目があります。

	入学時 アドミSSION・ポリシーを 満たす人材かどうかの評価	在学中 カリキュラム・ポリシーに 則って学修が進められて いるかどうかの評価	卒業時 ディプロマ・ポリシーを 満たす人材になったか どうかの評価
機関レベル (大学)	・入学試験 ・調査書等の記載内容 ・面接、志願理由書等	・休学率 ・退学率 ・学修行動調査	・卒業率 ・学位授与数 ・就職率 ・進学率(主として大学院)
教育課程レベル (学部・学科)	・入学試験 ・調査書等の記載内容 ・面接、志願理由書等	・GPA※ ・修得単位数 ・進級率 ・学修行動調査 ・OSCE※	・GPA※ ・国家試験合格者数 ・国家試験合格率 ・資格取得率 ・進路状況 ・卒業時到達度アンケート
科目レベル (授業科目)	・入学時基礎学力調査 ・TOEIC Bridge Test	・成績評価(定期試験) ・学修ポートフォリオ ・授業評価アンケート ・TOEIC IP(L&R)	

※GPA：Grade Point Average 学生が履修登録した科目1単位当たりの成績平均値。

※OSCE：Objective Structured Clinical Examination（客観的臨床能力試験）学生の模擬患者に対するインタビューや臨床の現場で必要な基本的技能の実技を、評価者が観察し、客観的に評価する試験。